

## 取扱説明書

工事説明付き

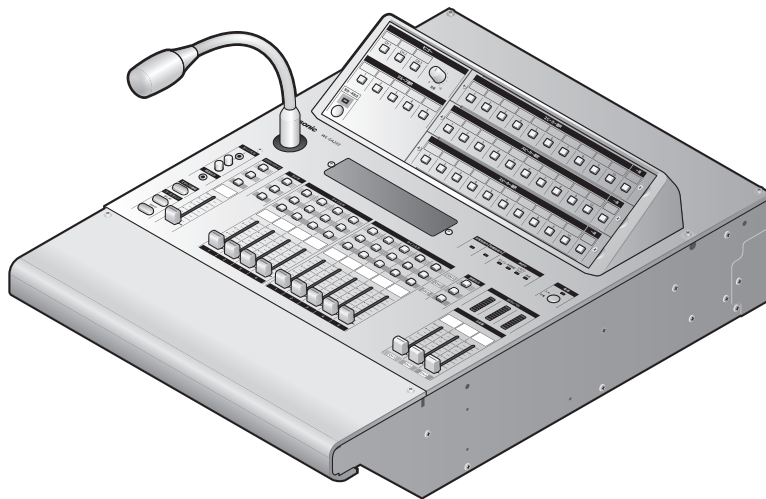
### 音声調整卓

1系統（10局）

2系統（10局×2系統）

3系統（10局×3系統）

品番 **WL-SA211, WL-SA222, WL-SA233**



（イラストはWL-SA233です。）

#### 保証書別添付

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- ご使用前に「安全上のご注意」（5～6ページ）を必ずお読みください。
- 保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

# はじめに

## 商品概要

本機は、校内放送用の音声調整卓です。電力増幅ユニット（アンプ）や音源などの周辺機器を追加することにより、校内放送システムを構築することができます。

## 主な特長

### 豊富な入力回路

- アナウンスマイク1系統、マイク入力4系統、ライン入力5系統の音声入力回路を有し、さらにマイク3、4は、ライン入力にも切り換えができるため、幅広いシステムに対応できます。
- 操作パネルに、ミニジャックとピンジャックを装備しており、外部機器を簡単に接続することができます。（ライン入力1および2とそれぞれミキシングされます。）

### 緊急放送への対応

- 操作パネルの緊急一斉放送ボタンにより、緊急時にはボタン1つで一斉放送が開始できます。
- 緊急一斉制御入力端子を有しており、緊急地震速報などの緊急放送を行うことができます。
- 緊急放送時は、各スピーカーに設置されたアッテネーター（音量調整器）の設定を無効にして、放送を行うことができます。
- 緊急放送時は、本機によるほかの放送を中断し、最優先で放送されます。

### 停電放送への対応

- 非常放送とは別に非常電源ユニット（別売品）および蓄電池（別売品）を用いることにより、外部からの停電起動信号で停電時も放送することができます。
- 緊急時は、操作面の緊急一斉放送ボタン、または緊急一斉制御信号により即、緊急放送を行うことができます。（別売品の非常電源ユニットおよび蓄電池は必要。）

### 外部からの制御

- 非常用放送設備からの非常制御信号を接続することにより、非常放送時に本機からの放送を中断することができます。
- 5つの外部機器からの制御信号を入力することが可能で、制御入力ごとに放送エリアをあらかじめ設定することで、外部制御別に異なる放送エリアを選択することが可能です。
- リモコンマイク（別売品）により、本機から離れた場所から放送することができます。
- ラジオチューナーユニットWU-T60B（別売品）を組み込むことにより、ラジオ番組の放送が可能です。

### わかりやすい表示、簡単操作

- グループ選択ボタンを有し、あらかじめ設定した放送エリア<sup>※</sup>をワンタッチで選択することができます。  
※複数の系統（チャンネル）をまたがる設定はできません。（WL-SA222/WL-SA233の場合のみ）
- スピーカー選択ボタン、チャンネル選択ボタンなどは、自照式ボタンの採用によりON/OFFが見やすく表示されます。
- 放送状態表示により、外部機器などからの放送状態を確認することができます。

### 多元放送（WL-SA222、WL-SA233のみ）

- チャイムとリモコンマイクによる放送は、学年別など、系統（チャンネル）ごとに異なる放送を行うことができ、学校の運用形態に柔軟に対応できます。

## 免責について

弊社はいかなる場合も以下に関して一切の責任を負わないものとします。

- ① 本商品に関連して直接または間接に発生した、偶発的、特殊、または結果的損害・被害
- ② お客様の誤使用や不注意による障害または本商品の破損など不便・損害・被害
- ③ お客様による本商品の分解、修理または改造が行われた場合、それに起因するかどうかにかかわらず、発生した一切の故障または不具合
- ④ 本商品の故障・不具合を含む何らかの理由または原因により、運用ができないことなどで被る不便・損害・被害
- ⑤ 第三者の機器などと組み合わせたシステムによる不具合、あるいはその結果被る不便・損害・被害
- ⑥ 本商品の不良・不具合以外の事由（取付工事の不備、建屋側取付面の不良などを含む）による落下などによる不便・損害・被害
- ⑦ 登録した情報内容が何らかの原因により、消失してしまうこと

## 著作権について

本製品に含まれるソフトウェアの譲渡、コピー、逆アセンブル、逆コンパイル、リバースエンジニアリングは禁じられています。また、本製品に含まれるすべてのソフトウェアの輸出法令に違反した輸出行為は禁じられています。

## 用語の説明

### 系統（チャンネル）

本機ではチャンネルとも呼びます。系統ごとに電力増幅ユニットが独立しているため、それぞれの系統で異なる内容の放送を行うことができます。系統数で機種がわかれていて、1系統：WL-SA211、2系統：WL-SA222、3系統：WL-SA233となります。

※ 本書ではWL-SA233（3系統）のイラストを使用して説明をしています。

WL-SA211（1系統）、WL-SA222（2系統）は以下のボタンの数に違いがありますが、機能は全機種とも同じです。

	チャンネルボタン	モニターボタン	録音ボタン
WL-SA233	CH1、CH2、CH3	CH1、CH2、CH3	CH1、CH2、CH3
WL-SA222	CH1、CH2	CH1、CH2	CH1、CH2
WL-SA211	CH1	CH1	CH1

### スイッチユニット

スイッチユニットは本機にあらかじめ取り付けられており、スピーカー選択ボタン10個と一斉ボタン1個で1ユニットとなります。すべてのスピーカー選択ボタンを一斉にONすることができる一斉ボタンが系統ごとにあります。スピーカー選択ボタンとインターフェースユニットのスピーカー回線は1対1で対応します。

スピーカー選択ボタンが10個で不足する場合に、別売の増設スイッチユニットを使用します。増設スイッチユニットにも10個のスピーカー選択ボタンがあり、本機には機器構成に応じて増設スイッチユニットを2台まで取り付けることができます。増設スイッチユニットを追加する場合は、インターフェースユニットの増設も必要になります。

### 優先放送

スピーカーへの配線を3線式で接続することにより、音量を調節するためのアッテネーター（音量調整器）がOFFでも放送を行うことができます。本機の場合、優先放送が行えるのは一斉放送のみで、優先放送の有／無を設定することができます。

### システム設定

グループ選択ボタン、チャイム、外部制御入力による放送エリアをあらかじめ設定することができます。

### 操作パネル

本機の操作面を示し、スピーカー選択ボタンや外部機器の音声の音量を調節するボリュームなどがあります。機種により、ボタン、ボリュームの数が異なります。本機の手動操作による放送もこの操作パネルより行います。

## 記号について

本書では、以下の記号を用いて説明しています。



**重要** : 該当する機能を使用するにあたり、制限事項や注意事項が書かれています。



**メモ** : 使用上のヒントが書かれています。

# もくじ

はじめに

操作

設置・接続

設定・調節

その他

## はじめに

はじめに	2
商品概要	2
主な特長	2
免責について	2
著作権について	3
用語の説明	3
記号について	3
安全上のご注意	5
使用上のお願い	7
各部の名前とはたらき	8

## 操作

操作の前に	10
本機の機能	10
操作パネルからできる操作	11
アナウンスマイク、マイク、ライン入力に接続した機器からの放送	11
緊急一斉放送	12
ラジオを放送するとき	13
モニターのしかた（調整室での音の確認）	14
スタジオとの連絡のしかた	14
録音のしかた	15
優先順位について	15
優先順位とは	15

## 設置・接続

設置の前に	16
付属品をご確認ください	16
別売品一覧	17
工事部品一覧	17
設置のしかた	18
設置上のお願い	18
本機の本体卓への組み込み	19
本体卓への取り付け	19
機器の収納	21
収納位置	21
本体卓、音声調整卓用袖卓へのユニット収納について	22
ラジオチューナーユニットの組み込みと接続	23
システム構成	26
基本システム	26
ユニット接続例	27
ユニットの接続	29
インターフェースユニットの接続	29
電力増幅ユニットの接続	30
後面端子部の接続	33
後面端子部について	33
各部の名前とはたらき	36
音声入出力コネクター式端子台への配線	38
マイク・ライン入力	39
モニター・スタジオ連絡スピーカー出力端子	40
制御入出力端子台への配線	41
外部からの緊急一斉放送のしかた	41

外部からの電源起動のしかた	42
チャイム入力の接続	43
外部制御入力の接続	44
動作中出力の接続	45
他機放送中の接続	45
非常放送優先の接続	46
状態出力機能	46
インターフェースユニットの接続	47
各部の名前とはたらき	47
通線のしかた	48
スピーカー制御出力信号について	49
スピーカーの接続	50
リモコンマイクの接続	51
増設スイッチユニットによる回線追加のしかた	53
増設スイッチユニットの組み込み	53
インターフェースユニットの接続	56
停電時に放送をする	57
停電放送について	57
非常電源ユニットの接続・設定のしかた	57
停電起動端子による停電起動	58
リモコンマイクからの停電起動	59
停電放送時間の目安	59
電源制御ユニットの接続	60
電源制御ユニットが必要な場合	60
非常用放送設備とスピーカーを共用する場合	62
リレーユニットについて	62
WL-SA211で非常放送用スピーカーを共用する場合	63
WL-SA222/SA233で非常放送用スピーカーを共用する場合	64

## 設定・調節

設定のしかた	65
ディップスイッチの設定	65
システム設定について	68
システム設定表の作成について	69
システム設定モードへ移行する	70
グループ選択ボタン設定	70
チャイム放送設定	71
外部制御入力による放送設定	73
システム設定の初期化	74
モニター切換設定	74
調節のしかた・表示ラベルの貼り付け	75
本機内部の調節	75
ボリューム調節位置の記入	76
操作パネルのラベル貼り付け	77

## その他

システム設定用紙	78
システム設定表	78
外形寸法図	79
ブロックダイアグラム	80
故障かな!?	82
仕様	85
保証とアフターサービス	87





# 安全上のご注意



必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。



■ 誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

 <b>警告</b>	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
 <b>注意</b>	「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■ お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。(次は図記号の例です)

	してはいけない内容です。
	実行しなければならない内容です。

## 警告

	<b>工事は販売店に依頼する</b> 工事には技術と経験が必要です。火災、感電、けが、器物損壊の原因となります。 <ul style="list-style-type: none"><li>● 必ず販売店に依頼してください。</li></ul>
	<b>配線は正しく行う</b> ショートや誤配線により、火災や感電の原因となります。
	<b>ねじやボルトは指定されたトルクで締め付ける</b> 落下によるけがや事故の原因となります。
	<b>質量に耐える取り付けをする</b> 落下や転倒によるけがや事故の原因となります。 <ul style="list-style-type: none"><li>● 十分な強度に補強してから取り付けてください。</li></ul>
	<b>電源プラグは根元まで確実に差し込む</b> 差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。 <ul style="list-style-type: none"><li>● 傷んだプラグ、ゆるんだコンセントは使用しないでください。</li></ul>
	<b>電源コードは、必ずプラグ本体を持って抜く</b> コードが傷つき、火災や感電の原因となります。
	<b>決められたヒューズを使う</b> 火災や感電の原因となります。
	<b>お手入れのときは電源を切る</b> 感電の原因となります。
	<b>電源プラグのほこりなどは定期的にとる</b> プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因となります。 <ul style="list-style-type: none"><li>● 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。</li></ul>
	<b>異常があるときは、すぐ使用をやめる</b> 煙が出る、においがするなど、そのまま使用すると火災の原因となります。 <ul style="list-style-type: none"><li>● 直ちに電源を切り電源プラグを抜いて、販売店に連絡してください。</li></ul>
	<b>電源を入れたまま工事、配線をしない</b> 火災や感電の原因となります。
禁止	<b>ケーブルなどは引っ張らない</b> 火災や感電の原因となります。

はじめに

## 警告



禁止

### ケーブルなどを傷つけない

重いものを載せたり、はざんだりすると、ケーブルが傷つき、火災や感電の原因となります。

### 湿気やほこりの多い場所に設置しない

火災や感電の原因となります。

コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、交流100 V以外での使用はしない  
たこ足配線などで、定格を超えると、発熱による火災の原因となります。

### 異物を入れない

水や金属が内部に入ると、火災や感電の原因となります。

- 直ちに電源を切り電源プラグを抜いて、販売店に連絡してください。

### 動作中は出力端子に触れない

感電の原因となります。

電源コード・電源プラグを破損するようなことはしない（傷つける、加工する、熱器具に  
近づける、無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重い物を載せる、束ねるなど）

傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因となります。

- コードやプラグの修理は販売店に相談してください。

### 雷のときは工事、配線をしない

火災や感電の原因となります。



ぬれ手禁止

### ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない

感電の原因となります。



水ぬれ禁止

### 水をかけたり、ぬらしたりしない

火災や感電の原因となります。

- 直ちに電源を切り電源プラグを抜いて、販売店に連絡してください。

### 機器の上や周囲に水などの入った容器を置かない

水などが中に入った場合、火災や感電の原因となります。

- 直ちに電源を切り電源プラグを抜いて、販売店に連絡してください。



分解禁止

### 分解しない、改造しない

火災や感電の原因となります。



接触禁止

### 雷が鳴り出したら、本機や電源コード、接続したケーブルに触れない（工事時を含む）

感電の原因となります。

## 注意



禁止

### ふみ台や腰掛けにしない

けがの原因となります。

# 使用上のお願い

「安全上のご注意」に記載されている内容とともに、以下の事項をお守りください。

## 使用温度範囲は

0℃～45℃です。この温度範囲以外で使用すると、故障または誤動作の原因となります。

## 使用電源はAC100Vです。

消費電力の大きな機器（コピー機、空調機器など）と同じコンセントから電源をとらないでください。

## プラグやコネクターの抜き差しは

スピーカー破損の恐れがありますので、機器の電源スイッチを「切」にしてから行うか、またはボリュームを絞ってから行ってください。

## お手入れについて

- 電源を切り、乾いた柔らかい布でふいてください。  
ほこりがとれにくいときは、水で薄めた台所用洗剤（中性）を柔らかい布にしみ込ませ、固く絞ってから軽くふいてください。その後、乾いた柔らかい布で洗剤成分を完全にふき取ってください。
- ベンジンやシンナーなど揮発性のものは使用しないでください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きにしたがってください。

長期間使用しない場合は電源プラグをコンセントから抜いてください。

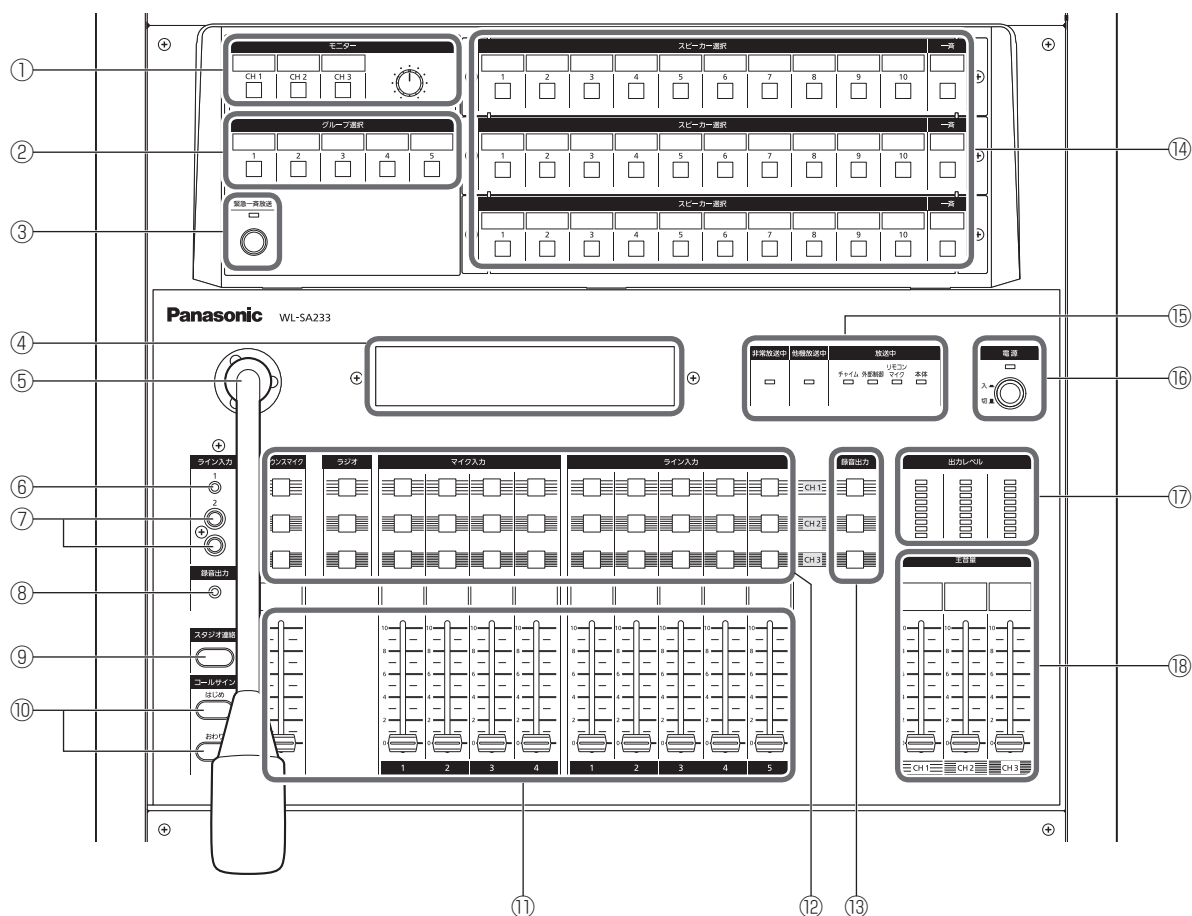
## 日常点検と保守点検のお願い

日常、定期的にスイッチやボタンのON/OFF、ボリューム、各種表示の確認を行ってください。何らかの不具合、異常があった場合、またはそのおそれがあった場合、直ちにお買い上げの販売店へご相談ください。

保守点検は、年1回を目安に実施してください。詳細については、販売店にご相談ください。

# 各部の名前とはたらき

## 操作パネル



※イラストはWL-SA233です。

### ① モニターボタン・表示灯／モニター音量調節ボ

#### リューム [CH1] [CH2] [CH3] [音量]

モニターする音声出力を選びます。[CH1]、[CH2]、[CH3] のボタンを押すと表示灯が緑色に点灯し、モニタースピーカーから選択した系統（チャンネル）の音が出ます。複数の系統（チャンネル）を押したときはミキシングになります。

### ② グループ選択ボタン・表示灯 [グループ選択]

- 本ボタンを押すことにより、あらかじめ設定した複数のスピーカーから放送できます。ボタンを押したときは、表示灯が緑色に点灯し、グループ選択ボタンに設定されたスピーカー選択ボタンが緑色に点灯します。グループ設定については、「グループ選択ボタン設定」(70ページ)をお読みください。
- 放送エリアを示すための表示ラベル貼り付けスペースがあります。

### ③ 緊急一斉放送ボタン・表示灯 [緊急一斉放送]

- 緊急一斉放送をするときに押します。表示灯が赤色に点灯し、アナウンスマイクからの音声你最優先され、すべてのスピーカーから放送されます。再度押すと緊急一斉放送は中止されます。
- 緊急一斉制御入力から緊急一斉放送されているときも表示灯は点灯します。

### ④ ラジオチューナーユニット収納スペース

ラジオチューナーユニットWU-T60B（別売品）を収納することができます。

### ⑤ アナウンスマイク

- 本機からアナウンスをするときのマイクロホンです。音量調節は入力ボリュームの「アナウンス」を上げて放送します。
- コールサイン音量は、アナウンスマイクの入力ボリュームとは別に本機内部のボリュームにより調節できます。(75ページ)

### ⑥ ライン1入力ジャック [1]

ライン1入力の音声入力用ステレオミニジャックです。ポータブル音源機器を接続する際に使用します。内部でモノラルに変換され、後面のライン1入力とミキシングされます。音量は、入力ボリューム [ライン入力 1] の入力ボリュームで調節してください。使用しないときは、キャップをかぶせてください。

### ⑦ ライン2入力ジャック [2]

ライン2入力の音声入力用ピンジャックです。音源機器を接続する際に使用します。2つのピンジャックは内部でモノラルに変換され、後面のライン2入力とミキシングされます。

音量は、入力ボリューム [ライン入力 2] の入力ボリュームで調節してください。使用しないときは、キャップをかぶせてください。

### ⑧ 録音出力ジャック [録音出力]

後面の録音出力ピンジャックと並列に接続されています。音源機器と接続し、録音するときに使用します。操作パネルの録音出力ボタンにより、出力信号を選択します。ICレコーダーなどを接続して放送内容を録音することができます。

### ⑨ スタジオ連絡用ボタン [スタジオ連絡]

アナウンスマイクからの音声を、スタジオのスピーカーにのみ出力するときに押します。ボタンを押している間、スタジオのスピーカーに音声が出力されます。音量調節は、本機内部にボリュームがあり、アナウンスマイクの入力ボリュームでは調節できません。(75ページ)

### ⑩ コールサインボタン [はじめ] [おわり]

[はじめ]：上り4音のコールサインが鳴ります。アナウンス放送開始時などに使用します。

[おわり]：下り4音のコールサインが鳴ります。アナウンス放送終了時などに使用します。

※コールサインが鳴っているときに再度ボタンを押すと、あらたにコールサインが鳴ります。

### ⑪ 入力ボリューム [アナウンスマイク]

#### [マイク入力1~4] [ライン入力1~5]

入力機器の音量を調節します。ラジオ入力の音量は、ラジオチューナーユニットで調節します。

適切な音量に設定したら、指針の位置に合わせて付属のマーキングラベルを貼ってください。

[アナウンスマイク]：アナウンスマイクの音量を調節します。

[マイク入力]：本機に接続したマイク音量を調節します。マイク3、4については、ライン入力にも切り換えることができます。

[ライン入力]：本機に接続したライン機器の音量を調節します。

ライン1、2は操作パネルと後面に入力があります。

### ⑫ チャンネル選択ボタン [アナウンスマイク] [ラジオ]

#### [マイク入力] [ライン入力]

放送する入力とチャンネル系統を選択します。ボタンを押すと表示灯が緑色に点灯し、再度押すと消灯します。

(例) アナウンスマイクを使ってチャンネル1とチャンネル2に放送するときは、アナウンスマイクのチャンネル選択ボタンのCH1、CH2を押し、アナウンスのボリュームを上げます。

※WL-SA211の場合は、チャンネル1のみですが、このボタンを押して放送します。

### ⑬ 録音出力ボタン [録音出力]

接続した音源機器などへ録音する音声を選択します。系統 (チャンネル) [CH1]、[CH2]、[CH3] のボタンを押すと表示灯が緑色に点灯し、それぞれの音を録音することができます。

### ⑭ スピーカー選択ボタン・表示灯 / 一斉ボタン・表示灯 [スピーカー選択] [一斉]

- 本ボタンを押して放送するスピーカー回線を選択します。本ボタンを押した場合は、表示灯は緑色に点灯し、外部制御入力、チャイム、リモコンマイクによりスピーカー回線を選択した場合は、橙色に点灯します。一斉ボタンを押した場合も、表示灯が緑色に点灯します。

- 放送エリアを示すための表示ラベル貼り付けスペースがあります。

- 一斉ボタンを押すと、その系統 (チャンネル) に接続されているすべてのスピーカーから音が出ます。

### ⑮ 放送状態表示灯

[非常放送中] (赤)、[他機放送中] (橙)、

[チャイム] (橙)、[外部制御] (橙)、

[リモコンマイク] (橙)、[本体] (緑)

各種放送を行っている場合に表示灯が点灯します。[本体]以外の表示灯が点灯しているときは、本機からの放送は行えません。消灯後に行ってください。

### ⑯ 電源スイッチ・表示灯 [電源]

- 電源を「入/切」します。電源「入」時は電源表示灯が緑色に点灯します。電源スイッチを「切」にしても電源からは遮断されません。

- リモコンマイク、緊急一斉、外部制御入力、チャイム制御入力、他機放送、非常放送が入力されたときは、この電源スイッチの状態に関係なく、電源ON状態となります。

- 電源制御入力が入力された場合も、この電源スイッチの状態に関係なく、電源ON状態となります。

### ⑰ 出力レベルメーター (9ポイント) [出力レベル]

放送されている音の大きさを表示します。赤色の表示灯が点灯しない程度のレベルが適切なレベルです。主音量ボリュームを調節して適切なレベルにします。このメーターが振れていないと音は出ていません。入力ボリューム、主音量ボリュームなどをご確認ください。

### ⑱ 主音量ボリューム [主音量]

CH1、CH2、CH3の各系統 (チャンネル) の音量を調節します。入力ボリュームでは、各入力機器の音量を調節し、系統 (チャンネル) 全体の音量は、本ボリュームで調節します。

# 操作の前に

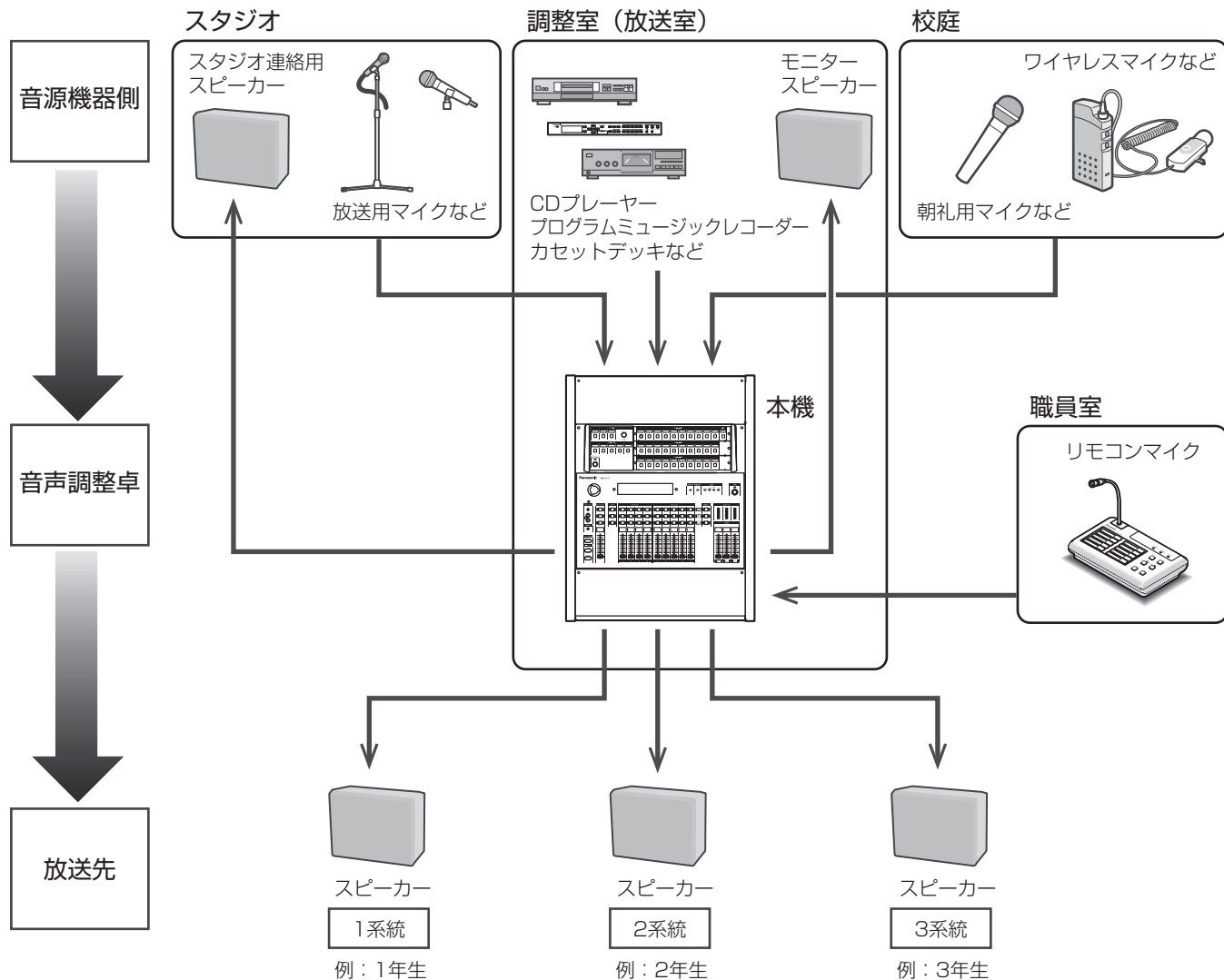
## 本機の機能

本機はマイクやワイヤレスマイク、外部音源機器（ICレコーダー、CDプレーヤー、カセットデッキなど）、リモコンマイクを単独、あるいはミキシングして放送ができる調整卓です。

2系統（WL-SA222）、3系統（WL-SA233）はミキシングをしながら、系統（チャンネル）ごとに異なる放送を行うことができます。

### ●3系統の例

1系統：1年生の教室、2系統：2年生の教室、3系統：3年生の教室など学年別に異なる放送を行うことが可能です。

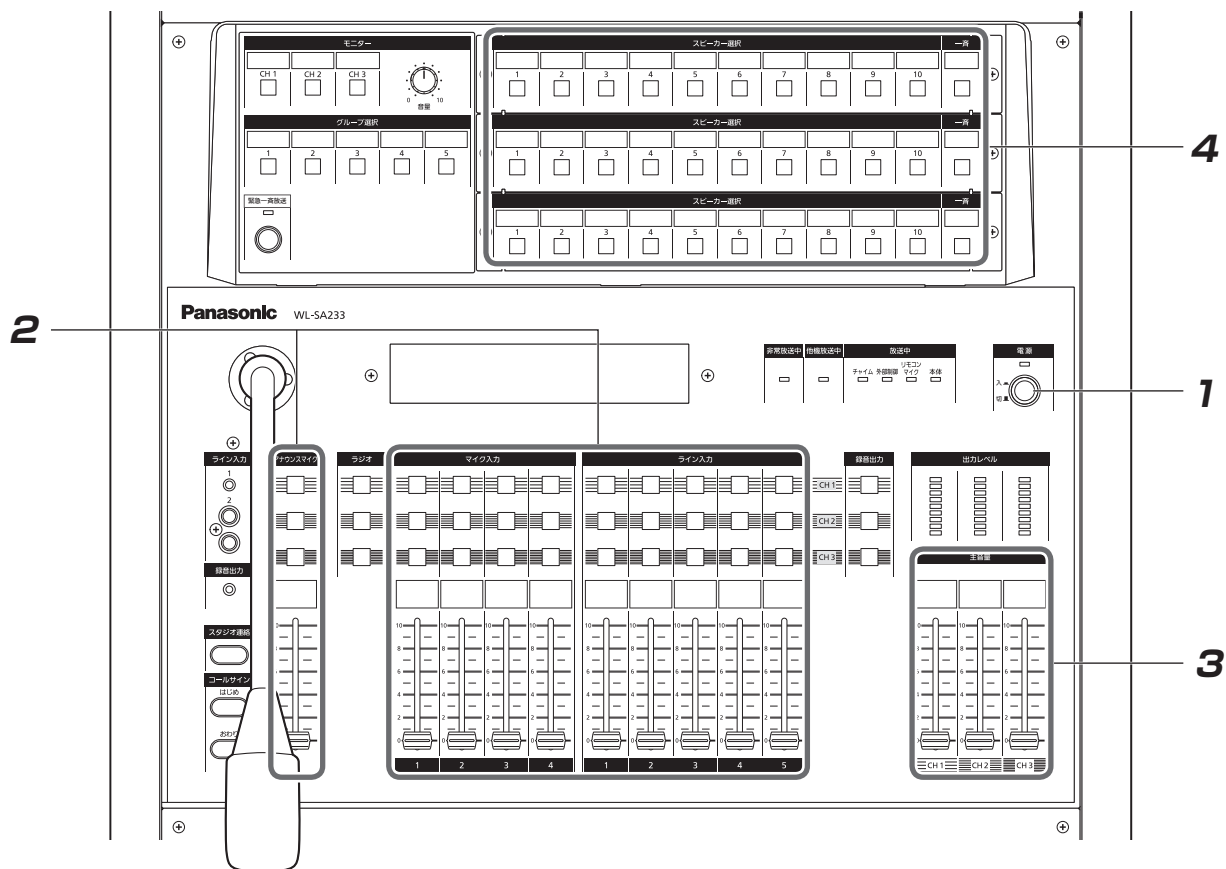


※イラストは3系統（WL-SA233）の概念です。




# 操作パネルからできる操作

## アナウンスマイク、マイク、ライン入力に接続した機器からの放送



※イラストはWL-SA233です。

- 1** 電源スイッチ  を押して電源を「入」にします。
- 2** 放送したいマイクや音源機器に該当したチャンネル選択ボタンを押して入力ボリュームを上げます。
  - チャンネル選択ボタンは選択されているボタンが緑色に点灯します。
  - チャンネル選択ボタンが選択されていない系統（チャンネル）には放送はされません。
- 3** 主音量ボリュームを上げます。
  - 主音量ボリュームは系統（チャンネル）ごとに音量調節ができます。
- 4** 放送をしたいエリアのスピーカー選択ボタンまたはグループ選択ボタンを押してスピーカーを選択します。
  - 選択したスピーカー選択ボタンは、緑色に点灯します。
  - スピーカー選択ボタンが、橙色に点灯している場合は、チャイム、外部制御入力やリモコンマイクから優先順位の高い放送が行われているので、そのチャンネルのスピーカー選択ボタンの選択はできません。
  - 一斉ボタンが選択された場合はその系統（チャンネル）すべてのスピーカー回線に放送されます。
- 5** アナウンスマイクからの放送やマイク、ライン入力に接続した音源機器などを再生状態にすることで放送ができます。
  - 放送のはじめとおわりにコールサインボタンを押すとコールサインが流れます。
- 6** 放送をやめるときは、音源機器などの再生を停止し、スピーカー選択ボタンを再度押すと放送は終了し、電源スイッチを押して電源を「切」にします。
  - 電源スイッチを「切」にするとグループ選択ボタン、スピーカー選択ボタンの設定は解除され、表示は消灯します。
  - 電源スイッチを「入」にした場合は、電源スイッチを「切」にしたときと同じグループ選択ボタン、スピーカー選択ボタンの状態になります。

# 操作パネルからできる操作



- マイク、ライン入力ごとに任意の系統（チャンネル）に出力することができます。
- 一斉ボタンによる一斉放送（その系統すべてのスピーカー回線の放送）は本機のディップスイッチ設定により、アッテネーター（音量調整器）を無効にした放送を行うことができます。（スピーカー3線式接続の場合のみ）（66ページ）
- コールサインの音量調節用ボリュームは本機内部にあります。（75ページ）
- グループ選択ボタンに放送先のスピーカー回線を設定していない場合はグループ選択ボタンを押してもグループ選択ボタンは点灯しません。グループ選択ボタンの設定を行う必要があります。（70ページ）
- グループ選択ボタンによるスピーカー回線を選択した場合、再度同じグループ選択ボタンを押すことで選択したスピーカー回線を解除することができます。グループ選択ボタンによる選択後に表示灯が点灯しているスピーカー選択ボタンを押してもスピーカー回線を解除することはできません。
- コールサインはアナウンスマイクの放送先に放送されます。

## 緊急一斉放送

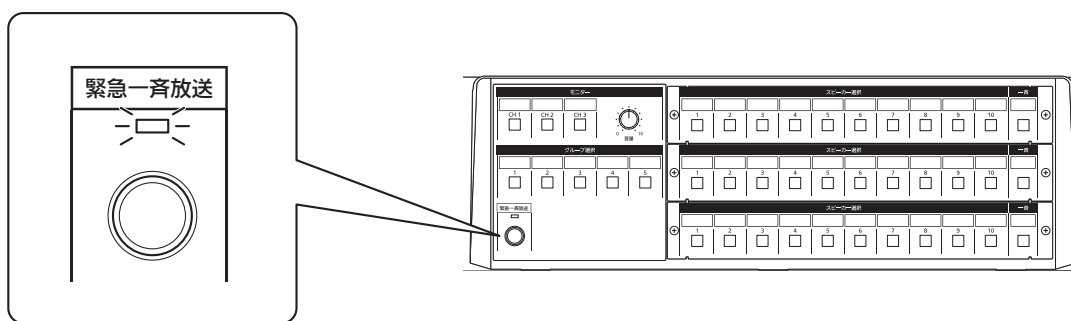
緊急事態のとき、その他の放送に優先して行うことができる放送です。全系統（チャンネル）、全スピーカー回線に一斉にアッテネーター（音量調整器）の調節に関係なく放送を行うことができ、緊急一斉放送時はその他の放送は中断します。

**1** 緊急一斉放送ボタンを押すと、電源が自動的に「入」になり、緊急一斉放送ボタンの表示灯が点灯し、アナウンスマイクおよび緊急一斉音声入力に接続した機器からの放送ができます。

- 自動的にアナウンスマイクのチャンネル選択表示灯が点灯し、アナウンスマイクの入力ボリュームの調節やチャンネル選択ボタンの状態に関係なく、アナウンスマイクによる放送ができます。
- コールサインボタンを押すことでコールサインを鳴らすことができます。

**2** 緊急一斉放送ボタンを再度押すことにより、緊急一斉放送は終了します。

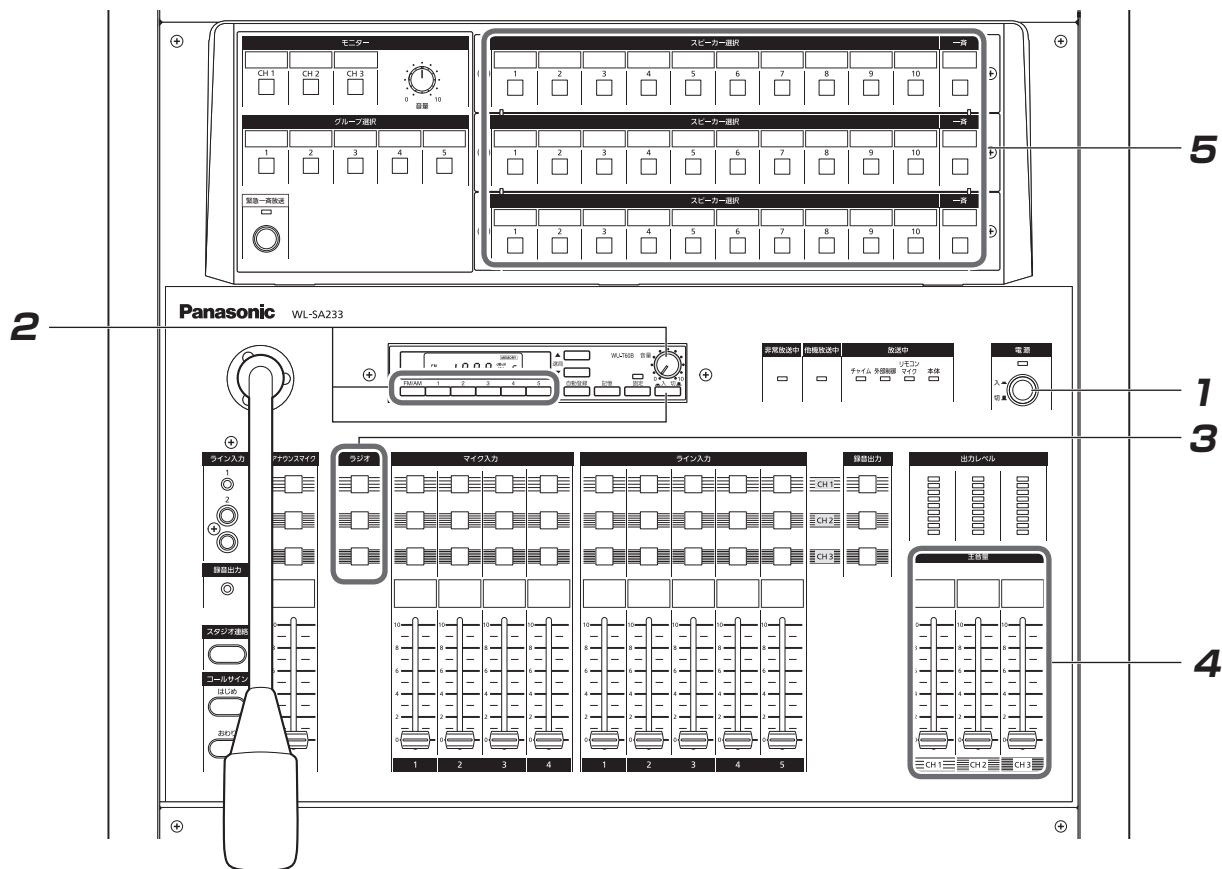
- スピーカー選択ボタンを押して放送しているときに緊急一斉放送ボタンを押して緊急一斉放送を行った場合は、緊急一斉放送ボタンを再度押して、緊急一斉放送を終了することにより、緊急一斉放送を行う前の放送状態になります。




- 緊急一斉放送中、モニターおよびスタジオ連絡はできません。
- 緊急一斉放送は、緊急一斉放送ボタン以外に緊急一斉制御入力端子により外部からの信号で起動することができます。
- 緊急一斉放送時、アナウンスマイクの音声と緊急一斉音声入力の音声はミキシングされます。緊急放送時のアナウンスマイクの音量調節用ボリュームは本機内部にあります。（75ページ）
- 緊急一斉放送時のコールサインの音量は本機内部のボリュームで調節ができますので、通常の放送とは異なる音量で鳴らすことができます。（75ページ）また、ボリュームをしばらくすることによりコールサインボタンを押しても鳴らなくすることもできます。
- 電源スイッチが「切」の状態でも緊急一斉放送を行うことができます。この場合、緊急一斉放送を終了すると電源も自動的に「切」になります。

## ラジオを放送するとき

ラジオ放送を行うときは、ラジオチューナーWU-TB60B（別売品）を本機に組み込む必要があります。（23ページ）



※イラストはWL-SA233です。

- 1 電源スイッチ  を押して電源を「入」にします。
- 2 ラジオチューナーの電源スイッチを押してラジオチューナーの電源を「入」にして、選局を行い、音量ボリュームで放送する音量を調節します。
  - ・本機の電源が「入」になっていないとラジオチューナーの電源は電源スイッチを押しても「入」にはなりません。
  - ・本機にラジオチューナーの入力ボリュームはありません。
- 3 ラジオチューナーを放送したい系統（チャンネル）のチャンネル選択ボタンを押します。
  - ・チャンネル選択ボタンは選択されているボタンが緑色に点灯します。
  - ・チャンネル選択ボタンが選択されていない系統（チャンネル）には放送はされません。
- 4 主音量ボリュームを上げます。
  - ・主音量ボリュームは系統（チャンネル）ごとに音量調節ができます。
- 5 放送をしたいエリアのスピーカー選択ボタンまたはグループ選択ボタンを押してスピーカーを選択するとラジオ放送ができます。
  - ・選択したスピーカー選択ボタンは、緑色に点灯します。
  - ・スピーカー選択ボタンが、橙色に点灯している場合は、チャイム、外部制御入力やリモコンマイクから優先順位の高い放送が行われているので、そのチャンネルのスピーカー選択ボタンの選択はできません。
  - ・一斉ボタンが選択された場合はその系統（チャンネル）すべてのスピーカー回線に放送されます。
- 6 放送をやめるときは、スピーカー選択ボタンを再度押すと放送は終了し、電源スイッチを押して電源を「切」にします。
  - ・電源スイッチを「切」にするとグループ選択ボタン、スピーカー選択ボタンの設定は解除され、表示は消灯します。
  - ・ラジオチューナーの電源も切れます。
  - ・電源スイッチを「入」にした場合は、電源スイッチを「切」にしたときと同じグループ選択ボタン、スピーカー選択ボタンの状態になります。

# 操作パネルからできる操作

## モニターのしかた（調整室での音の確認）

放送されている音声、または放送しようとする音声をモニタースピーカーから聞くことができます。どちらをモニターするかは本機内部のスイッチにより設定します。（74ページ）

〔試聴〕：ラジオ／マイク・ライン入力に接続した機器の音声を聞くことができます。主音量を絞っていても音を聞くことができます。放送前にあらかじめ音声を確認するときなどはこの設定にします。

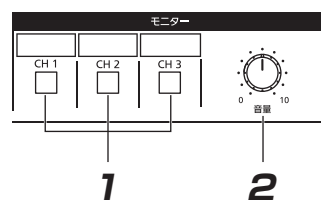
〔放送〕：実際にスピーカーから出ている音に近い音を聞くことができます。



- アナウンスマイクの入力ボリュームを上げると、ハウリング防止のためモニタースピーカーからの音声出力は停止します。

**1** モニターボタンを押して、モニターしたい系統（チャンネル）を選択します。

- 複数選択することも可能です。選択したボタンは緑色に点灯します。再度押すと選択が解除されます。



※イラストはWL-SA233です。

**2** モニター音量調節ボリュームで音量を調節します。

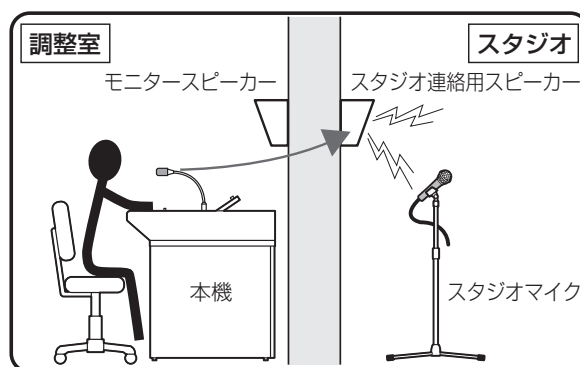


- モニターにより音の確認を行うためには、調整室にモニター用のスピーカーを設置する必要があります。（40ページ）
- ラジオチューナーの放送内容をあらかじめ確認したい場合は、〔試聴〕に設定すると便利です。（74ページ）
- 以下のときは、モニターはミュートされます。
  - ①アナウンスマイクの入力ボリュームを上げたとき
  - ②緊急一斉放送中、非常放送優先が入力されているとき
  - ③スタジオ連絡を行っているとき

## スタジオとの連絡のしかた

スタジオ連絡ボタンを押すことにより、スタジオのスピーカーからアナウンスマイクの音声を流すことができます。

- アナウンスマイクの音声はスタジオスピーカーにのみ放送されます。
- コールサインボタンの音も同様です。

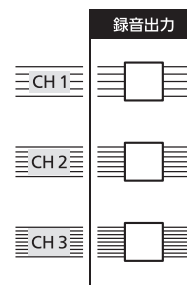


- スタジオ連絡を行うためには、スタジオにスタジオ連絡用のスピーカーを設置する必要があります。（40ページ）
- スタジオ連絡ボタンは押しているときのみスタジオスピーカーからアナウンスマイクの音声が発送されます。

## 録音のしかた

本機の録音出力端子（後面端子部：ピンジャックと操作パネル：ステレオ複式ジャック）にICレコーダーの録音機器を接続することにより放送内容を録音することができます。

- 録音出力は系統（チャンネル）ごとに録音出力ボタンで選択します。複数の系統（チャンネル）を同時に選択できます。
- 操作パネルのチャンネル選択ボタンが「ON」になっている入力音声が入力が録音できます。



※イラストはWL-SA233です。



- 録音レベルの調節は本機では行えません。録音機器で調節を行ってください。
- 主音量ボリュームが下がっていても録音出力にはそれぞれの入力ボリュームで調節された音声が出力されます。

## 優先順位について

### 優先順位とは

複数の放送が重なった場合に、放送の重複を避けるため放送ごとにあらかじめ優先順位を定めています。

優先順位が高い放送の種類が放送されている場合は、優先順位が低い放送は中断します。

優先順位は高い順から、第1位→第2位→第3位→第4位→第5位となります。

本機では、優先順位は次のように設定されています。

優先順位	放送の種類	系統別	説明
第1位	緊急一斉放送		緊急一斉放送ボタンと緊急一斉制御入力を同時に行った場合、アナウンスマイクと緊急一斉音声入力の音声がミキシングされます。
第2位	チャイム	●	WL-SA222/SA233の場合は、系統（チャンネル）ごとに同時に異なるチャイム音源を放送することができます。
第3位	外部制御1～5		外部制御が同時に起動した場合、それぞれの外部制御に設定されたスピーカー回線から放送されます。
第4位	リモコンマイク	●	放送開始を行ったすべてのリモコンマイクから選択したスピーカー回線から放送することができ、音声が放送を開始したリモコンマイクの音声がミキシングされます。
第5位	一斉	●	アナウンスマイク、マイク1～4、ライン1～5、ラジオチューナー（別売品）の音声が放送されます。
	スピーカー選択	●	
	グループ選択	●	



- 優先順位は、固定されています。変更することはできません。

# 設置の前に



## 警告

工事は必ず販売店に依頼してください。  
工事を行う前に、接続する機器の主電源スイッチを「切」にしてください。また、「安全上のご注意」をよく読んでその指示にしたがってください。接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。

「設置・接続」、「設定・調節」は機器の設置や設定・調節の工事説明について記載しています。  
機器を設置するときや、システムの変更を行うときは、販売店に依頼してください。

システムを構成するユニット、工事部品に欠品がないかご確認ください。

- 電力増幅ユニット台数、ワット数
- 停電放送をするのか（非常電源ユニット、蓄電池）
- 緊急放送をするのか（デジタルICプレーヤー、非常電源ユニット、蓄電池）
- リモコンマイクから放送先を指定して放送をするのか（リモコンマイク）
- 非常用放送設備と組み合わせて放送をするのか（非常用放送設備）
- ユニットの収納先は（本体卓、音声調整卓用袖卓、ブランクパネル）

## 付属品をご確認ください

操作手順書	1枚
取扱説明書（本書）	1冊
保証書	1式

以下の付属品は、取り付け工事に使用します。

アナウンスマイク	1本
マーキングラベル	2枚
本体卓固定用ねじ（M4×10）	4本



## 別売品一覧

品名	品番	概要
本体卓	WL-SA200	本機（音声調整卓）の置き台
音声調整卓用袖卓	WL-SA201	本体卓に連結して使用する卓
増設スイッチユニット	WL-SA203	スピーカー選択ボタンを増設するときが必要
インターフェースユニット	WU-SA205	本機に接続するスピーカー回線制御用ユニット
電力増幅ユニット 60 W	WU-P51	アンプ ユニット高さ 2U
電力増幅ユニット 120 W	WU-P52	アンプ ユニット高さ 2U
電力増幅ユニット 360 W	WU-P53	アンプ ユニット高さ 3U
電力増幅ユニット 120 W+120 W	WU-PD122	デジタルアンプ 並列接続時240 W ユニット高さ 2U
電力増幅ユニット 180 W+180 W	WU-PD182	デジタルアンプ 並列接続時360 W ユニット高さ 2U
チャイムユニット	WZ-DP310	8種類音源内蔵
プログラムチャイムユニット	WZ-PT330	年間タイマー、8種類音源内蔵
ミュージックレコーダー	WZ-DP320	SDカードで長時間録音・再生が可能
プログラムミュージックレコーダー	WZ-PT340	年間タイマー付、ミュージックレコーダー
マイクロホンミキサー	WR-MX160	最大6本マイクロホンが接続可能
ラジオチューナーユニット	WU-T60B	本機に組み込むAM/FMラジオチューナー
単局リモコンマイク	WR-201	遠隔から呼び出し放送を行う場合に必要
リモコンマイク（5局用）	WR-205A	遠隔から呼び出し放送を行う場合に必要
リモコンマイク（10局用）	WR-210A	遠隔から呼び出し放送を行う場合に必要
増設ユニット（リモコンマイク用）	WU-RM205	WR-205A/210Aの局数増設用（5局）
リレーユニット（非常30局・一般30局）	WU-R72	非常用放送設備とスピーカーを兼用する場合に必要
リレーユニット（非常10局・一般10局）	WU-R73	
電源制御ユニット	WU-L62	ACアウトレット増設時に必要
非常電源ユニット	WP-570B	停電放送時に蓄電池を収納するユニット
ニッケルカドミウム蓄電池	NCB-600	WP-570Bに収納する蓄電池
ニッケルカドミウム蓄電池	NCB-350	

## 工事部品一覧

品名	品番	概要
ブランクパネル 1U	YBSPN010	塗装色：AVライトグレー ユニット高さ 1U
ブランクパネル 2U	YBSPN011	塗装色：AVライトグレー ユニット高さ 2U
ブランクパネル 3U	YBSPN012	塗装色：AVライトグレー ユニット高さ 3U
スリットパネル 1U	YBSPN013	塗装色：AVライトグレー ユニット高さ 1U
PWR CONTケーブル 3 m	WQ-ELP803	PWR CONTケーブル延長用
PWR CONTケーブル 5 m	WQ-ELP805	電源制御ユニット、非常電源ユニット接続時の延長用

# 設置のしかた

## 設置上のお願

設置工事は電気設備技術基準にのっとりサービスマンが実施してください。

### 本機は屋内専用です

屋外での使用はできません。

長時間直射日光が当たる場所や、冷・暖房機の近くには設置しないでください。変形・変色または、故障・誤動作の原因になります。また、水滴または水沫のかからない状態で使用してください。

### 以下の場所には設置しないでください。

- 直射日光の当たる場所や温風吹き出し口の近く
- 湿気やほこり、振動の多い場所
- 温度差が激しく結露しやすい場所
- 厨房など蒸気や油分の多い場所
- スピーカーやCRTモニター、磁石など、強い磁力を発生するものの近く
- 塩害や腐食性ガスの発生する場所
- 水滴や水沫がかかる場所

### 使用電源はAC100 Vです。

消費電力の大きな機器（コピー機、空調機器など）と同じコンセントから電源をとらないでください。

### 主電源スイッチ

本機の主電源スイッチは後面端子部にあります。電源スイッチを「切」にしても、電源からは遮断されません。電源を遮断するには、ACコンセントから本機の電源プラグを抜いてください。

### 電源コードの取り付けかた

電源コードは、必ず遮断装置を介した次のいずれかの方法で接続してください。

- (1) 電源制御ユニットを経由して接続する。
- (2) 容易にアクセス可能な電源コンセントの近くに設置し、電源プラグを経由して接続する。
- (3) 3.0 mm以上の接点距離を有する分電盤のブレーカーに接続する。ブレーカーは、保護アース導体を除く主電源のすべての極が遮断できるものを使用すること。

### 雑音源は避ける

- トランシーバー、トランス、調光機、CRTモニターなどからできるだけ離して設置してください。誘導ノイズを受ける可能性があります。
- 電灯線などの雑音源にケーブルを近づけると、ノイズが発生する場合があります。そのときはノイズ源からできるだけ離すように配置するか、本機の位置を変えてください。

### ラックマウント機器を本体卓、音声調整卓用袖卓に収納するときは

- 本体卓、音声調整卓用袖卓にラックマウント機器を収納するときは必ず本体卓または音声調整卓用袖卓に付属のラックマウント金具を使用してください。
- 本体卓、音声調整卓用袖卓へユニットを収納するときは収納位置（21ページ）を守ってください。発熱によりユニットに悪影響を与え故障や誤動作の原因になります。

### 取付ねじはしっかりと締める

工事で使用する取付ねじは、指定の締め付けトルクにしたがい、しっかりと締めてください。インパクトドライバーはねじを破損させる場合がありますので、使用しないでください。

### 静電気について

静電気による破損を防止するために、作業を始める前に本機以外の金属部に手を触れ、人体に蓄積している静電気を放電してください。

### 付属のマーキングラベルについて

はじめてマイクを使用するときや、マイクを交換するときは、本機のボリュームを適切な音量に設定し、ボリュームの位置に合わせてマーキングラベルを貼ってください。（77ページ）

# 本機の本機卓への組み込み

## 本機卓への取り付け

本機は、本機卓WL-SA200（別売品）に取り付けてご使用ください。

本機卓に付属のラックマウントキットを取り付けることにより、周辺機器を接続することができます。

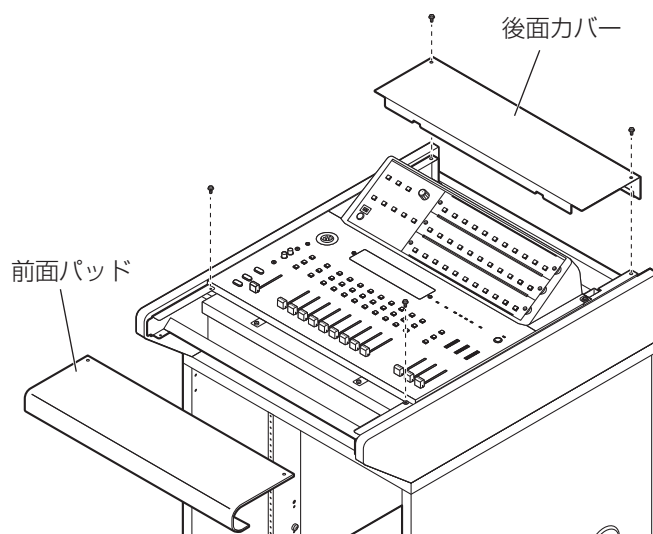
- 本機卓の収納スペースは12U（EIA規格）です。
- 収納スペースが足りない場合は、音声調整卓用袖卓WL-SA201（別売品）を本機卓の隣に設置します。音声調整卓用袖卓にも12Uの収納スペースがあります。



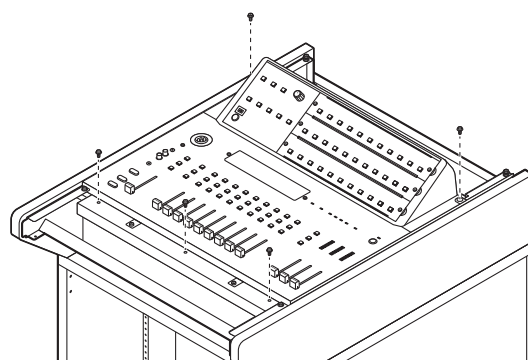
- 本機は必ず本機卓に収納し、固定をしてください。本機単体で机の上などに設置すると、不安定な状態となり手をつくなどした際に本機が落下などしてけがをする恐れがあります。

### 1 前面パッドと後面カバーを外す。

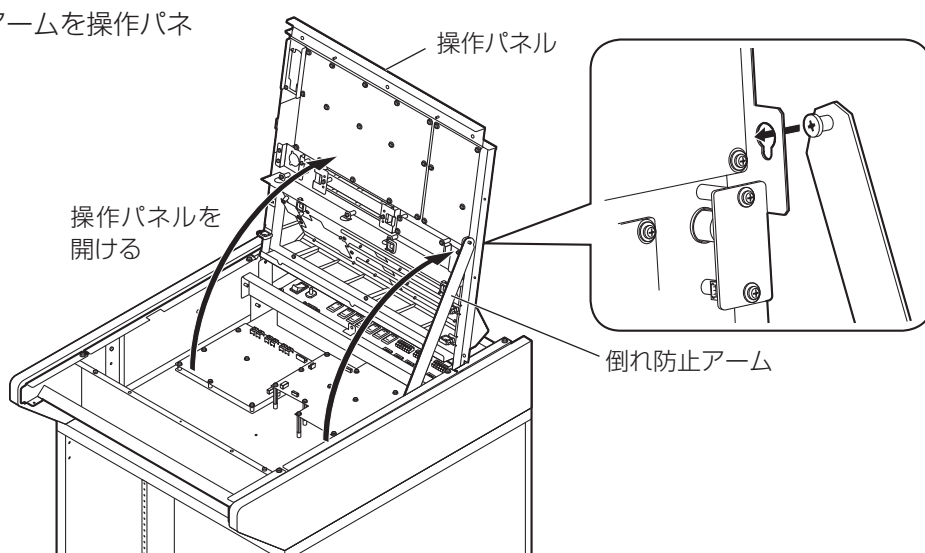
本機の前面パッドの2か所と後面カバーの2か所のねじを外し、前面パッドと後面カバーを取り外します。



### 2 前面パッドの下にあるパネル固定ねじ3本と、後方のパネル固定ねじ2本を外す。



### 3 操作パネルを開け、倒れ防止アームを操作パネル側面側の孔に差し込む。



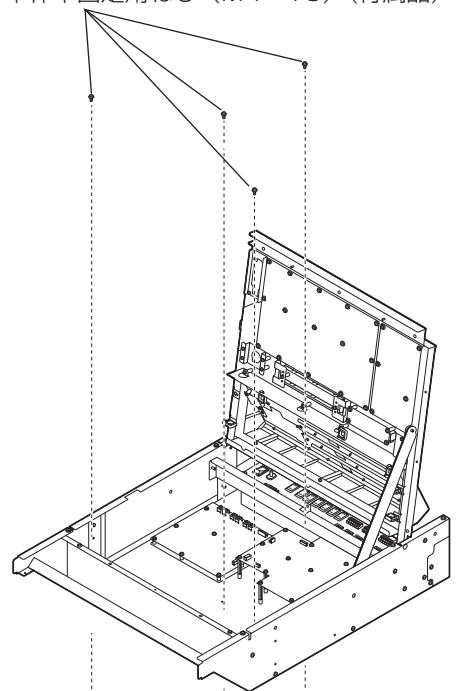
# 本機の本機卓への組み込み

## 4 本機と本体卓を連結する

本機を組み立て済みの本体卓に載せ、付属の本体卓固定用ねじで止めて固定します。

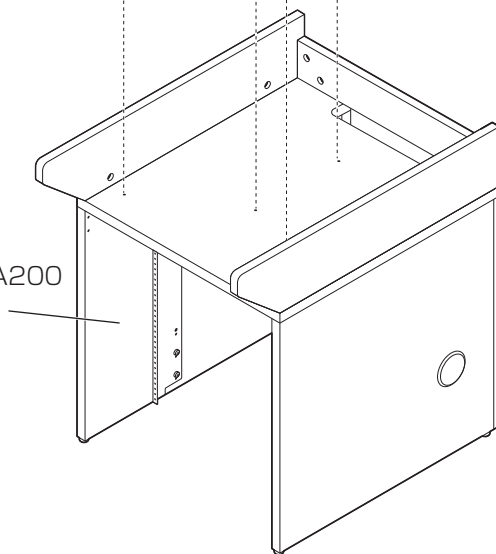
- ねじの締付トルク：1.0 N・m～1.2 N・m  
{10 kgf・cm～12 kgf・cm}

本体卓固定用ねじ (M4×10) (付属品)



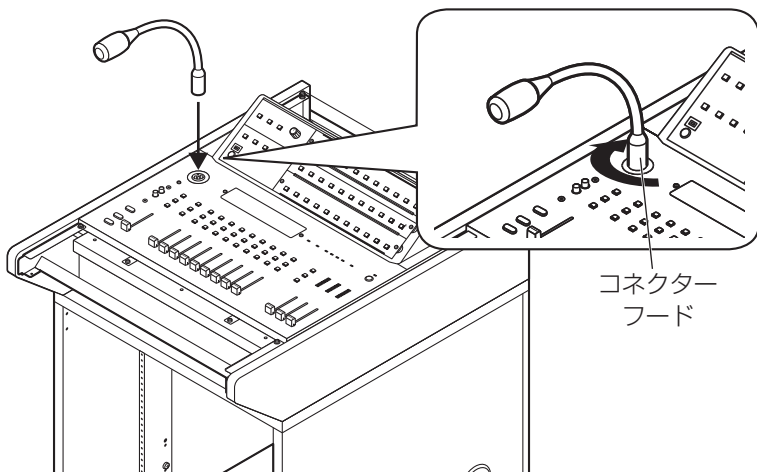
## 5 手順1～3の逆の手順で操作パネルを閉じる。

- ねじの締付トルク：1.0 N・m～1.2 N・m  
{10 kgf・cm～12 kgf・cm}



## 6 アナウンスマイクを取り付ける。

本機のコネクタに付属のアナウンスマイクを差し込み、コネクタフードを右に回して固定します。



# 機器の収納

## 収納位置

機器によっては、次のように収納位置が指定されているものがあります。

- **インターフェースユニットWU-SA205（別売品）**

できるだけ下部に設置してください。インターフェースユニットへの配線は、ラックマウントする前にユニットを前に引き出すと作業が容易になります。

- **電力増幅ユニット（別売品）**

放熱効果を上げるため、できるだけ上部に設置してください。また、本体卓に収納する場合、卓の最上部には必ず1Uのスペースを空けてください。

電力増幅ユニットはできるだけ上部に収納し、音源機器、ワイヤレス受信機などの業務用放送機器を収納する場合は、2U以上空けてください。

1つの卓には、電力増幅ユニットは以下の条件になるように収納し、上下部に1Uブランクパネルを取り付けてください。（音声調整卓用袖卓の最上部に収納する場合は下部のみ）

WU-PD122／PD182の組み合わせ : 2台まで収納可能です。

WU-PD122／PD182とWU-P51の組み合わせ : 2台まで収納可能です。

WU-PD122／PD182とWU-P52の組み合わせ : 2台まで収納可能です。

WU-P51／P52の組み合わせ : 3台まで収納可能です。

WU-P53 : 1台収納可能です。（2台以上は収納できません。）



- 電力増幅ユニット収納時は、上記条件をお守りください。温度上昇によりユニットが故障することがあります。

重要

- **非常電源ユニット（別売品）**

卓の下部に取り付けてください。

電力増幅ユニットなど発熱する機器の直上には絶対に収納しないでください。

- **電源制御ユニット**

卓の最下部に取り付けてください。電源制御ユニット上部は、1Uブランクパネルを取り付けてください。

- **業務用放送機器およびその他の機器**

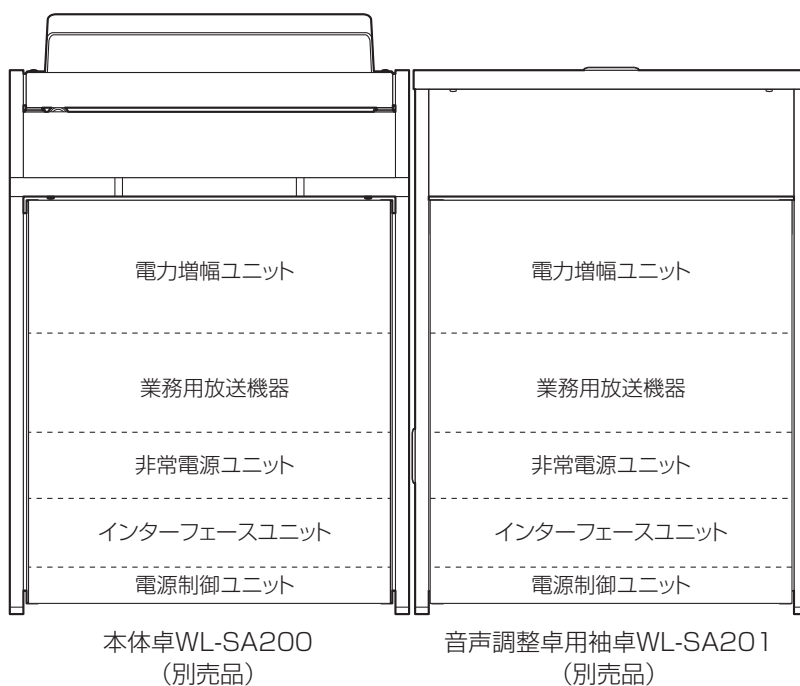
電力増幅ユニットの下に収納します。電力増幅ユニットとは2U以上空けてください。ラックマウントしない機器（カセットデッキなど）や頻繁に操作する機器は、音声調整卓用袖卓（別売品）を用意して上に載せると使いやすくなります。

## 本体卓、音声調整卓用袖卓へのユニット収納について

- 本体卓、音声調整卓用袖卓には12Uのユニット収納スペースがあり、ラックマウント金具を取り付けることによりユニットの収納ができます。
- ユニット収納時は、ユニット収納位置を守ってください。
- ユニットの固定には、各ユニットもしくは本体卓、音声調整卓用袖卓に付属の取付ねじ（M5×12リブ付）を使用します。ねじの締付トルクは、2.0 N・m～2.4 N・m {20.5 kgf・cm～24.5 kgf・cm} です。



- 本体卓の最上部に電力増幅ユニットを入れる場合は、放熱のため電力増幅ユニットの上に1Uブランクパネルを取り付けてください。



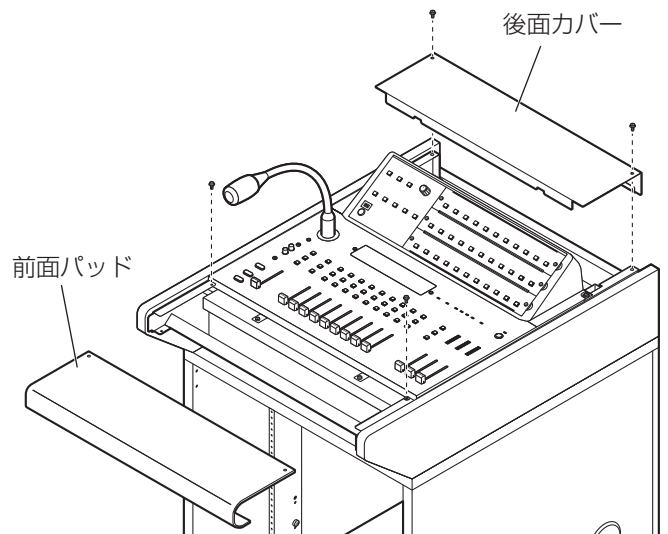


## ラジオチューナーユニットの組み込みと接続

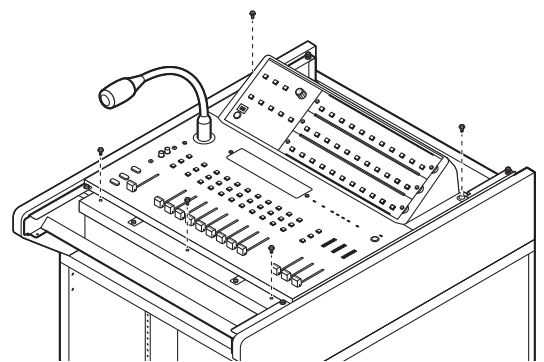
ラジオチューナーユニットWU-T60B（別売品）を接続します。

### 1 前面パッドと後面カバーを外す。

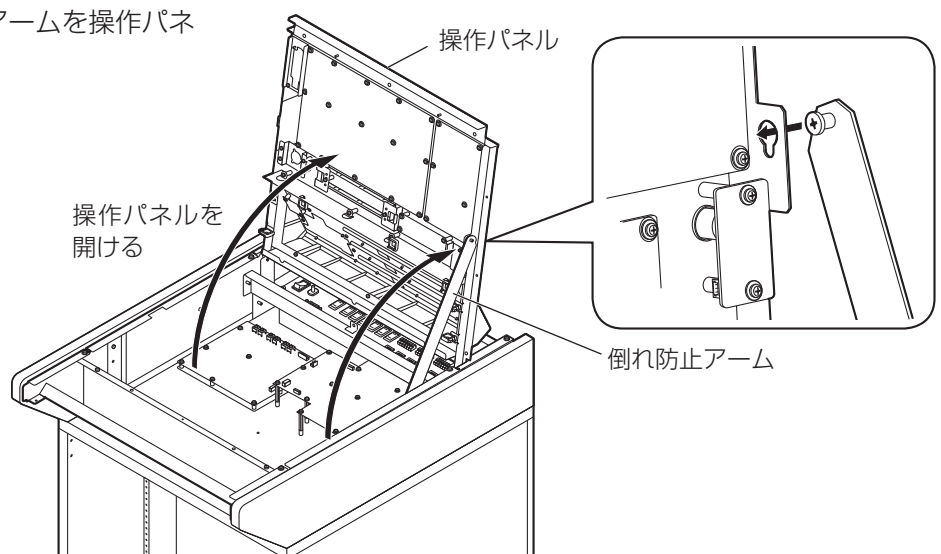
本機の前面パッドの2か所と後面カバーの2か所のねじを外し、前面パッドと後面カバーを取り外します。



### 2 前面パッドの下にあるパネル固定ねじ3本と、後方のパネル固定ねじ2本を外す。



### 3 操作パネルを開け、倒れ防止アームを操作パネル側面側の孔に差し込む。



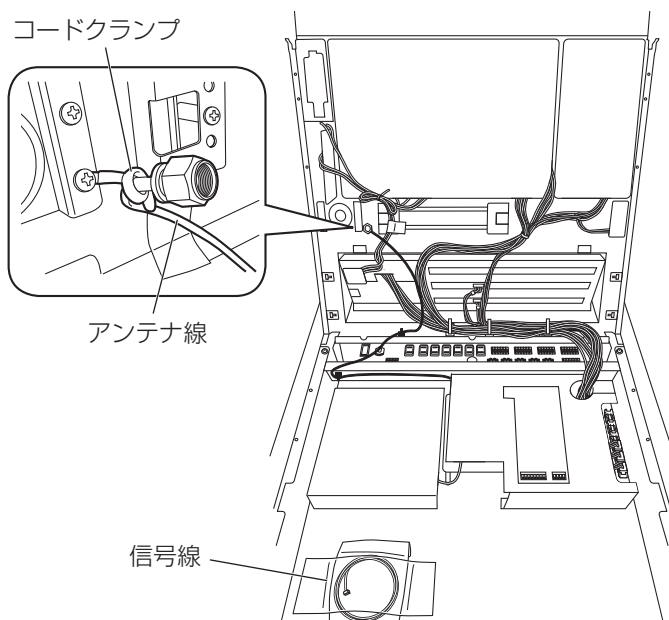
# 機器の収納

- 4** 操作パネル裏側からチューナー窓カバーを止めているねじを外して、チューナー窓カバーを取り外し、操作パネル側から取付金具を止めているねじを外して、取付金具を外す。



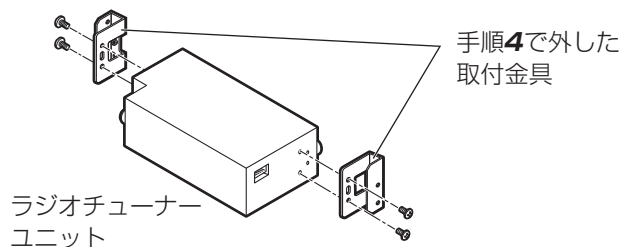
- 5** 本機のアンテナ線と信号線をラジオチューナーユニットに接続する。

- アンテナ線は、出荷時操作パネルの裏側にコードクランプで固定してありますので、外してください。コードクランプは取り外す必要はありません。
- 信号線は本機内部に袋に入れて止めてあります。



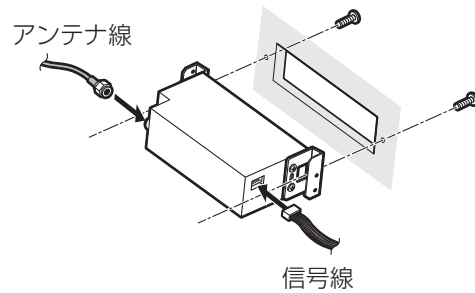
- 6** ラジオチューナーユニットの取付金具を外し、外したねじで手順4で外した取付金具を取り付ける。

- ねじの締付トルク：1.0 N・m～1.2 N・m  
{10 kgf・cm～12 kgf・cm}



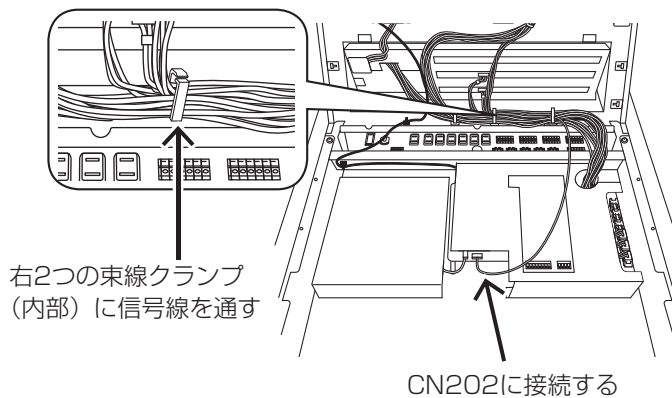
**7** 取付孔のねじを外し、ラジオチューナーユニットを外したねじで取り付ける。

- ねじの締付トルク：0.67 N・m～0.88 N・m  
{7 kgf・cm～9 kgf・cm}
- 取付方向にご注意ください。



**8** 本機内部のメイン基板上にあるコネクター CN202に信号線を接続する。

- 束線クランプ（内部）の上部の隙間から信号線を入れてください。



**9** 手順**1**～**3**の逆の手順で操作パネルを閉じる。

- ねじの締付トルク：1.0 N・m～1.2 N・m  
{10 kgf・cm～12 kgf・cm}

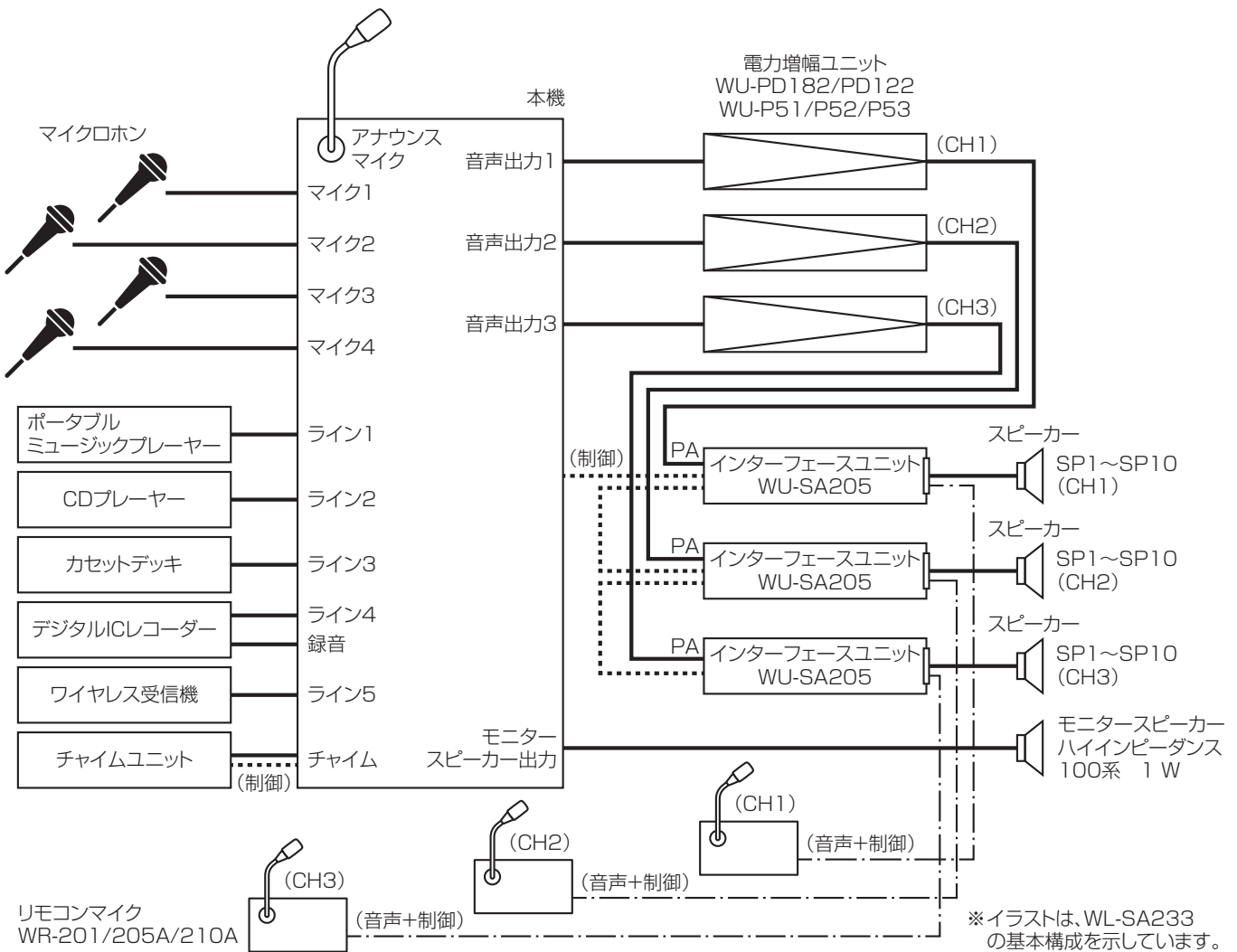
# システム構成

## 基本システム

本機を中心とする基本的なシステム構成例です。

※ イラストおよび説明はWL-SA233を使用しています。

- 本機での放送操作のほかにより下記の操作が行えます。
  - ・ 外部からの緊急一斉放送
  - ・ チャイムや外部制御による自動放送
  - ・ リモコンマイクからの放送（一斉放送、個別放送、コールサインの起動）
  - ・ 本機の電源制御
- リモコンマイク、チャイムなどの外部起動は、緊急一斉放送を除いて操作パネルからの操作より優先されます。
- リモコンマイク、チャイム、外部制御には優先順位があり、放送の重複を防止します。
- リモコンマイク、チャイムの放送は系統（チャンネル）ごとに別々の放送が行えます。（WL-SA222／SA233のみ）

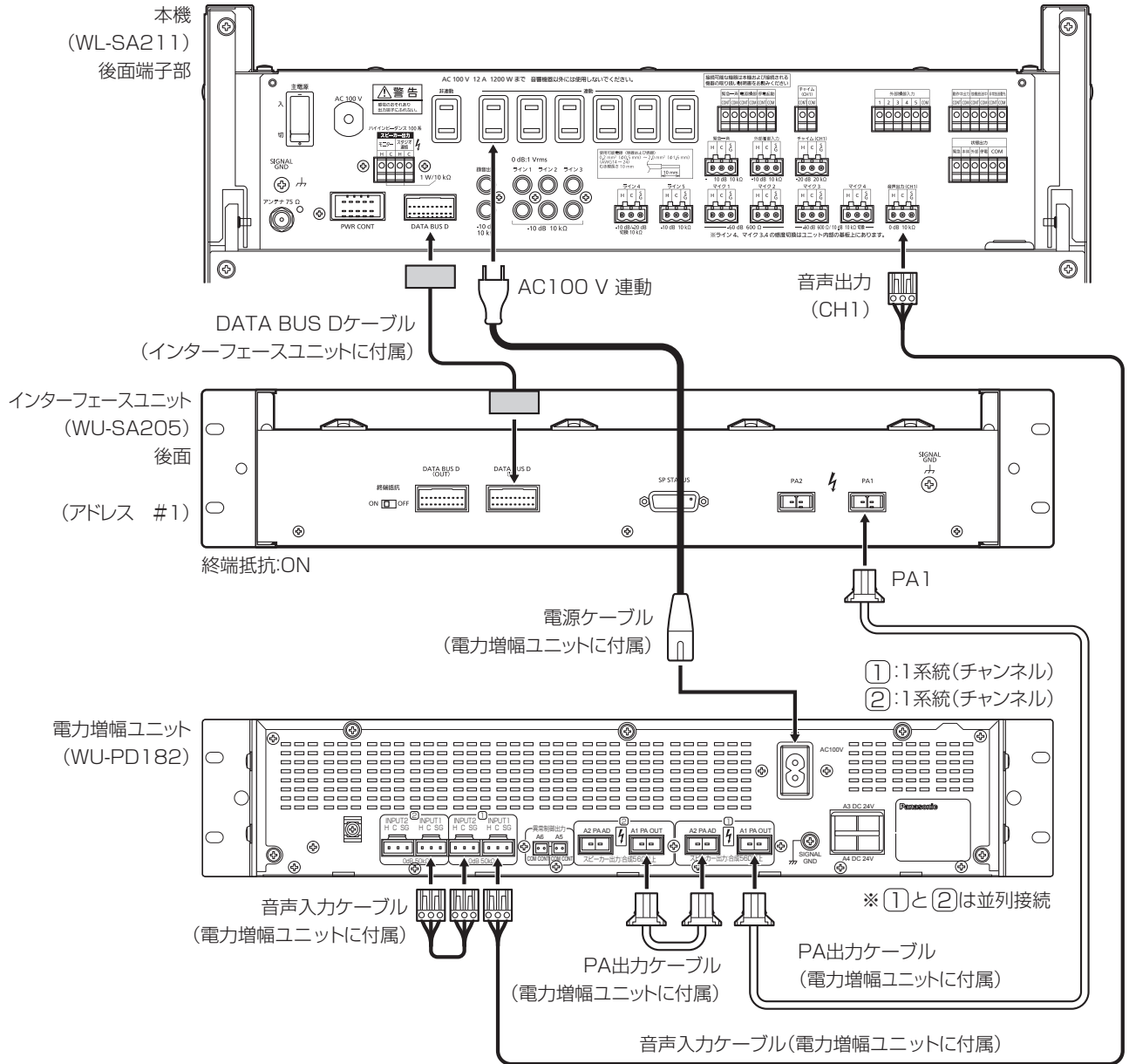


マイク1、2	: 入力感度	-60 dB	600 Ω	平衡
マイク3、4	: 入力感度	-60 dB	600 Ω	平衡 / -10 dB 10 kΩ 平衡 切り換え
ライン1、2、3	: 入力感度	-10 dB	10 kΩ	不平衡
ライン4	: 入力感度	-10 dB / -20 dB	10 kΩ	平衡 切り換え
ライン5	: 入力感度	-10 dB	10 kΩ	平衡

# ユニット接続例

## ● 1系統の場合

WL-SA211にインターフェースユニットWU-SA205と電力増幅ユニットWU-PD182 1台を接続した基本的なシステムです。

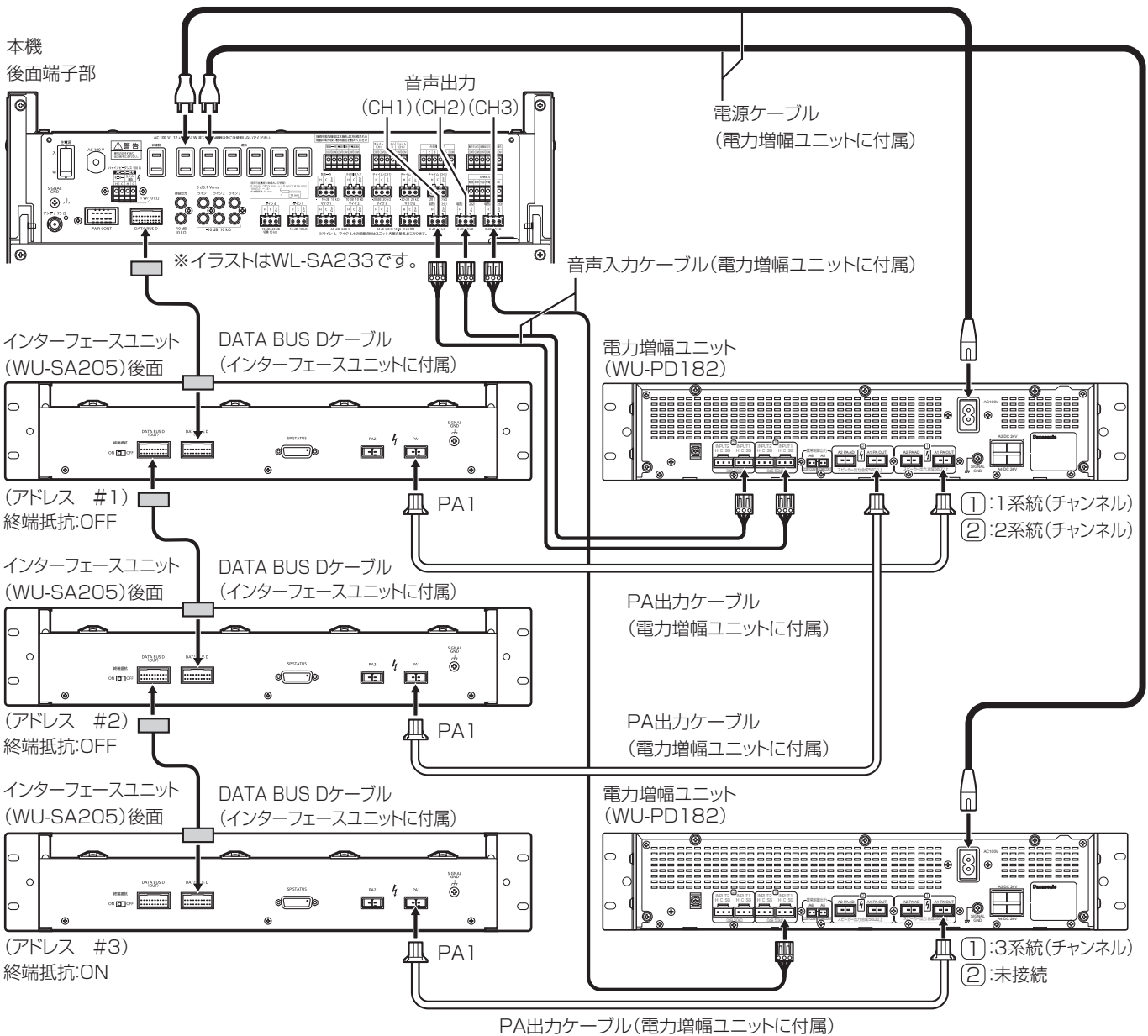


- 本接続例の電力増幅ユニットWU-PD182のチャンネル1とチャンネル2を並列接続したときの例です。(31ページ)
- WU-PD182は並列接続をせずに、チャンネル1または、チャンネル2の1チャンネルのみを使用することもできます。

# システム構成

## ● 3系統の場合

WL-SA233にインターフェースユニットWU-SA205 3台、電力増幅ユニットWU-PD182 2台を接続したときの例です。電力増幅ユニットは系統（チャンネル）数分の電力増幅ユニットが必要になります。（WL-SA233は3系統なので、電力増幅ユニットは3台必要ですが、WU-PD182は1台で2チャンネルですので、2台で対応が可能です。）







# ユニットの接続

## 電力増幅ユニットの接続

本機の音声出力コネクタを電力増幅ユニットの音声入力へ、電力増幅ユニットのPA出力をインターフェースユニットのPA1または、PA2に接続します。

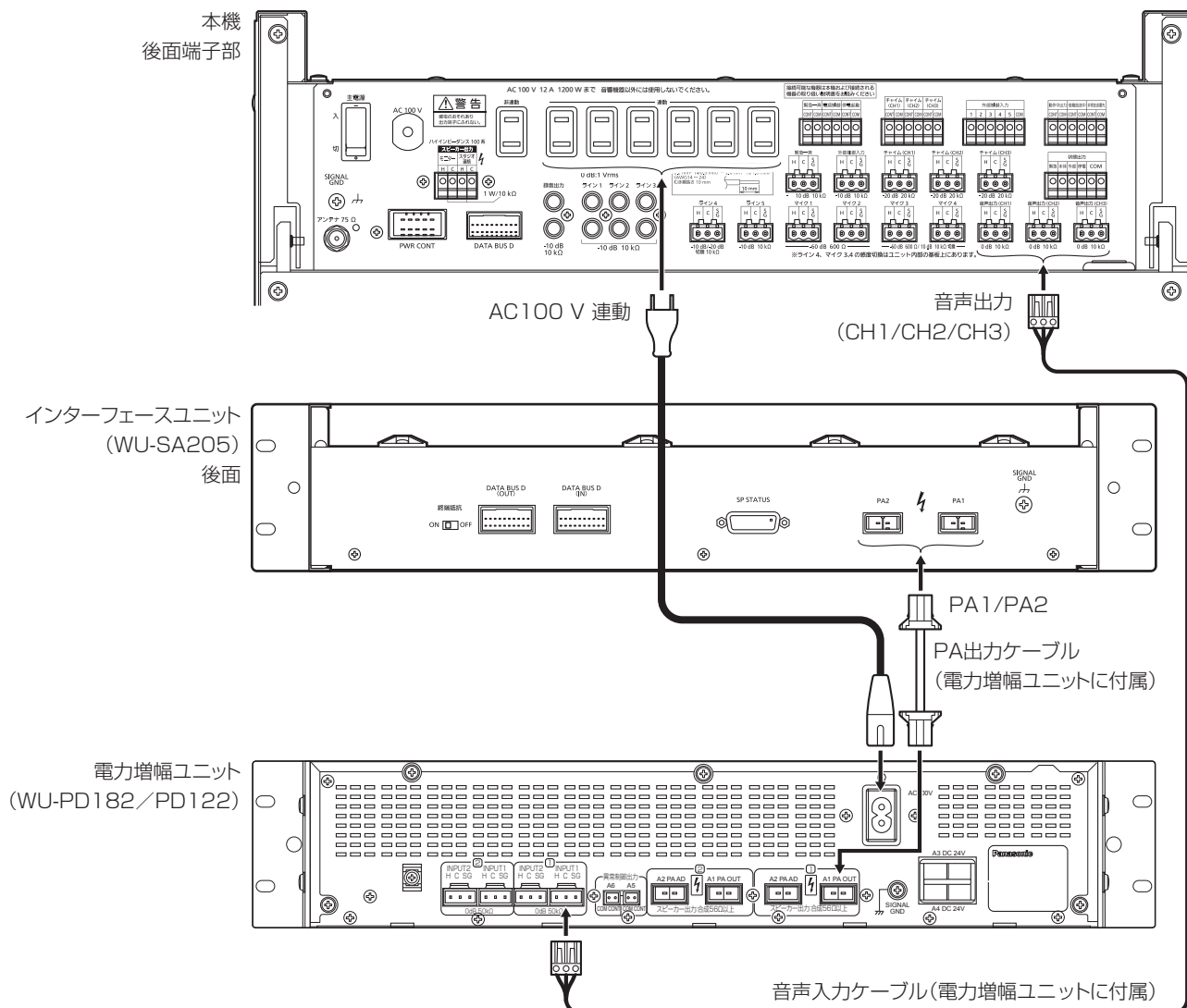


- WL-SA222、WL-SA233は系統（チャンネル）数分（音声出力の数）、電力増幅ユニットを準備する必要があります。

### ■ WU-PD182／PD122を接続する場合

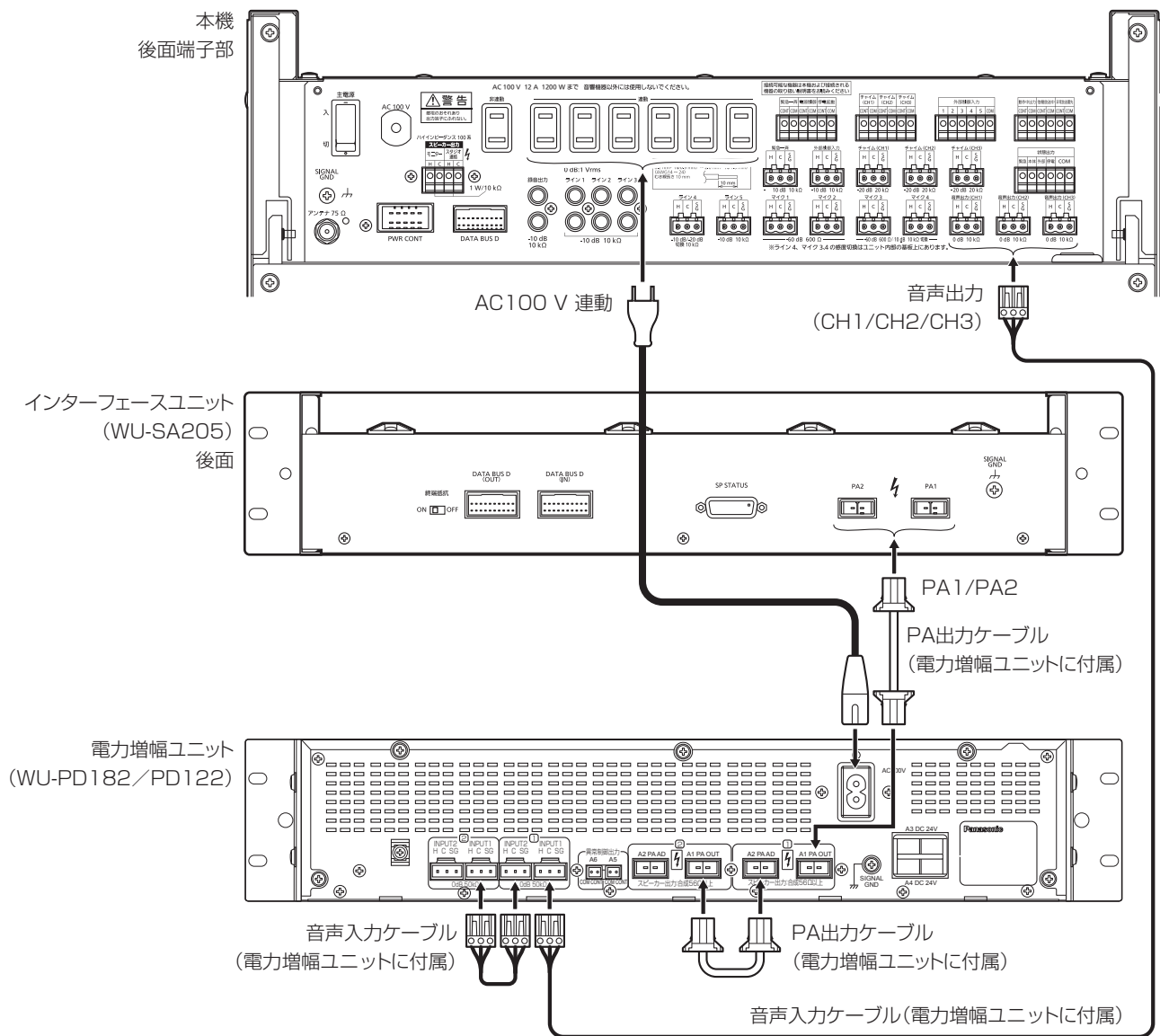
- チャンネル1またはチャンネル2に接続する場合

※イラストはWL-SA233です。



●チャンネル1と2を並列接続する場合

※イラストはWL-SA233です。



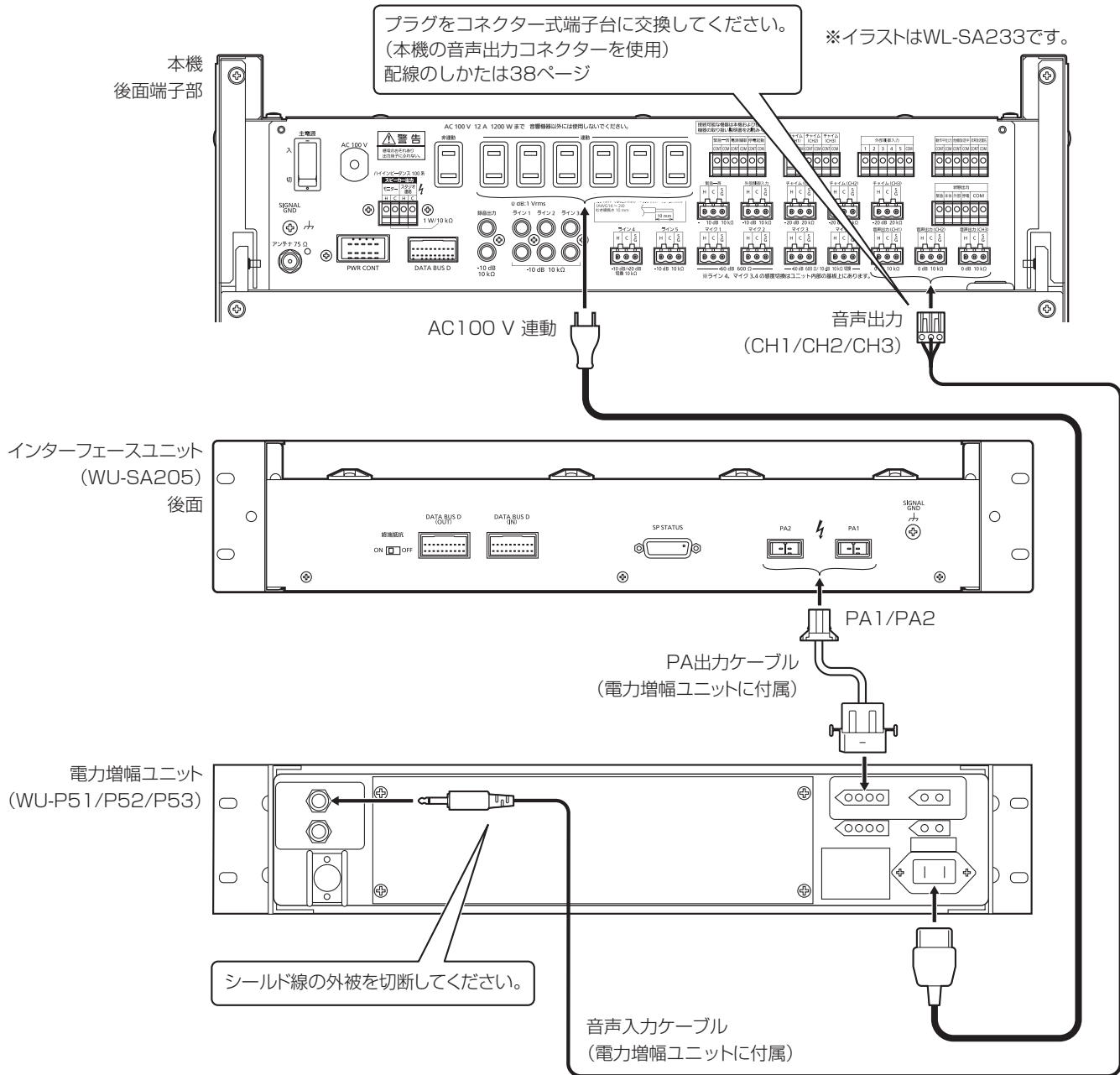
設置・接続



- 並列接続の場合、電力増幅ユニットのCH1-INPUT2とCH2-INPUT 1、CH1-PA2とCH2-PA1を接続してください。
- WU-PD182/PD122に付属のケーブルを使用して、チャンネル間を接続することにより、WU-PD182は、360 W×1ch、WU-PD122は、240 W×1chの電力増幅ユニットとして使用することができます。

# ユニットの接続

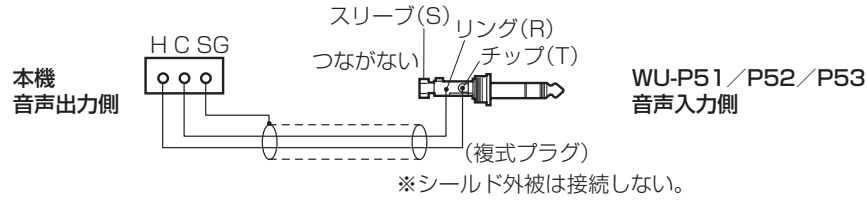
## ■ WU-P51 / P52 / P53を接続する場合



設置・接続



- 電力増幅ユニットWU-P51 / P52 / P53と本機の音声出力コネクターを接続する場合は、以下のようにケーブルを加工してください。プラグのシールド線の外被を接続すると音声ノイズが発生することがあります。



# 後面端子部の接続

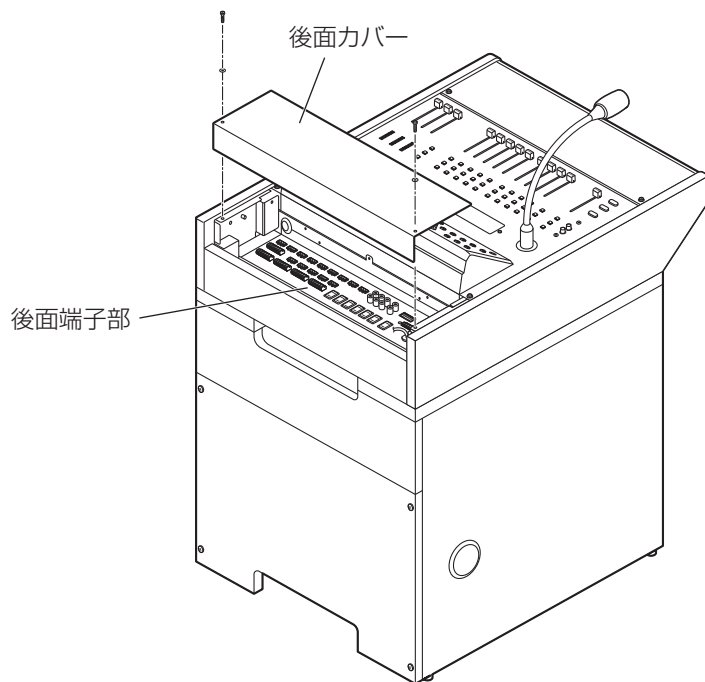
## 後面端子部について

### ■ 後面カバーの外しかた

後面カバーのねじ2本を外して、後面カバーを外します。

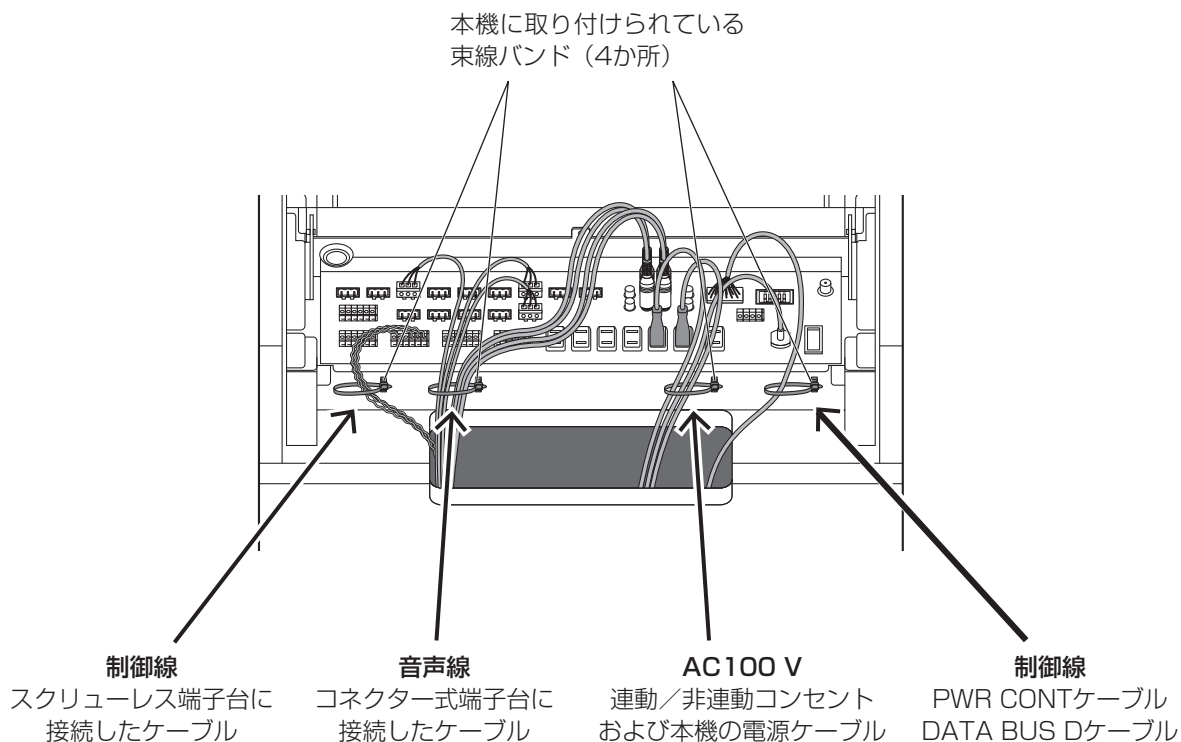
接続後は後面カバーを元に戻してください。

ねじの締付トルク：1.0 N・m～1.2 N・m {10 kgf・cm～12 kgf・cm}



### ■ ケーブルの束線・通線のしかた

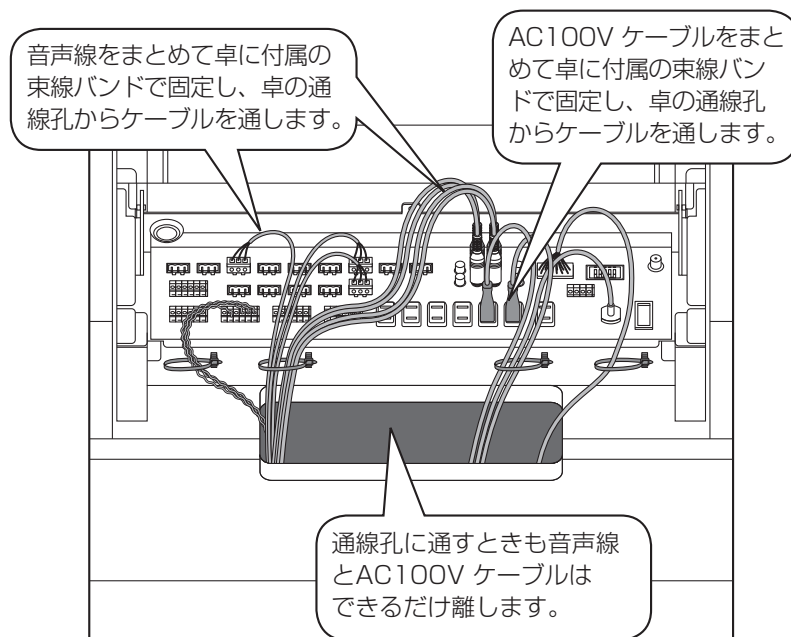
後面端子部に接続をしたのち、4か所の本機に取り付けられている束線バンドを使用して、ケーブルを固定します。



# 後面端子部の接続

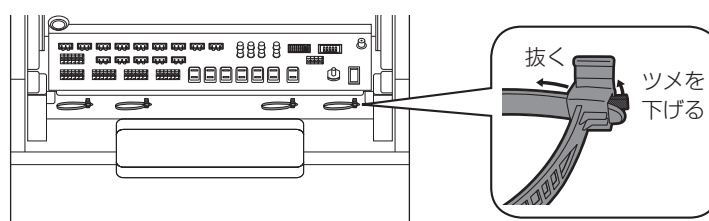
## ● 配線例

誤動作や音声ノイズ防止のため、音声線と電源（AC100 Vケーブル）は離して配線することを推奨します。



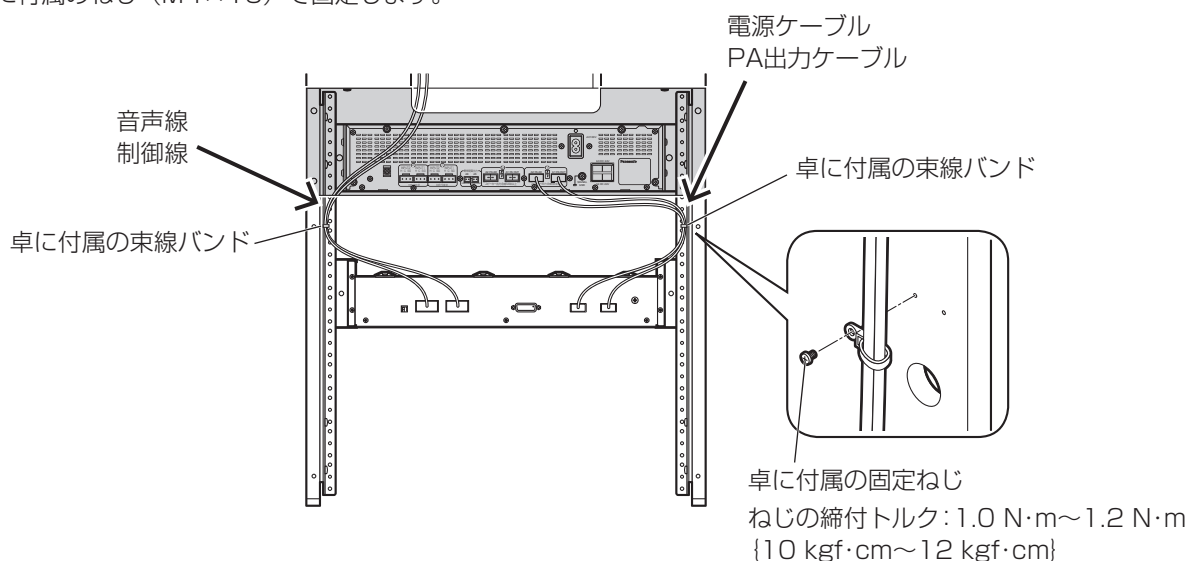
## ● 本機に取り付けられている束線バンドの外しかた

束線バンドは、ツメを本機側に押しながら、束線バンド部を引っ張ると抜くことができます。



## ■ 本体卓・音声調整卓用袖卓内部の配線について

卓に収納したユニットが前面に引き出せる程度の余長を残して、卓に付属の束線バンドで固定したあと、束線バンドを卓側の取り付け孔に卓に付属のねじ（M4×15）で固定します。



- 束線した径が大きい場合、必要に応じて束線部が図と反対方向もしくは下側になるようにして、ねじで固定してください。



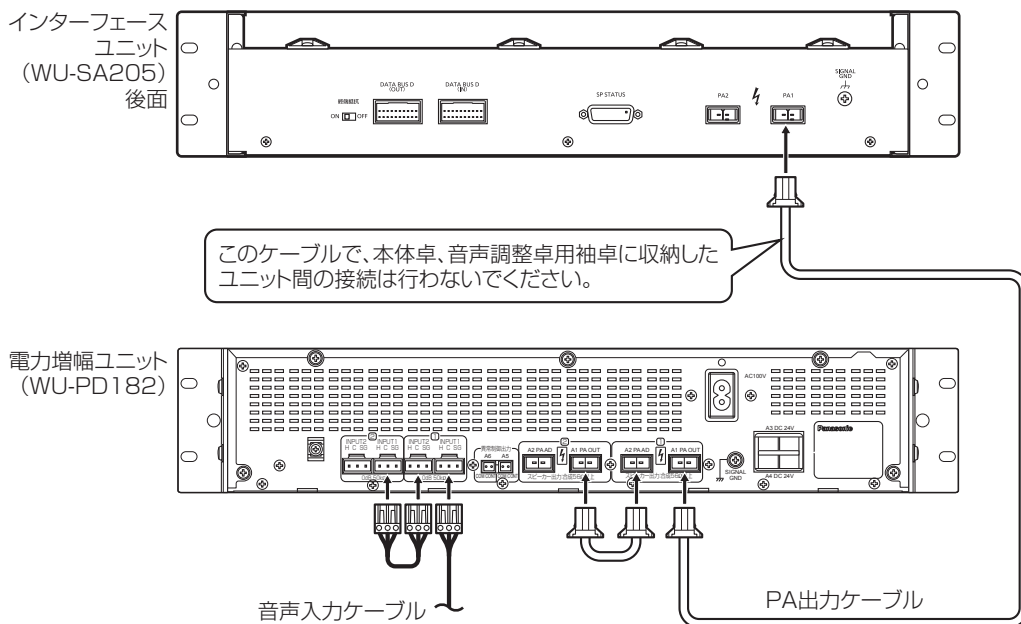
- 電源ケーブル、PA出力ケーブル（電力増幅ユニットPA OUTコネクターに接続したケーブル）は、それ以外のケーブルと一緒に束ねないでください。誤動作や音声ノイズが発生する恐れがあります。
- 卓の束線は前ページのように右側に電源ケーブル・PA出力ケーブルを、左側にその他の音声線や制御線を束線することを推奨します。

### ● 本体卓、音声調整卓用袖卓間でケーブルを渡る場合

本体卓と音声調整卓用袖卓を連結後、通線孔にケーブルを通してください。



- この通線孔には電力増幅ユニットのPA出力ケーブルは通さないでください。

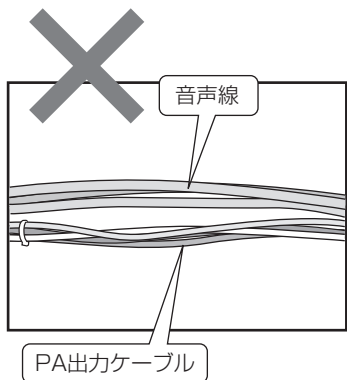


- 本体卓と音声調整卓用袖卓の連結には、必ず音声調整卓用袖卓に付属の本体卓連結金具を使用してください。詳しくは音声調整卓用袖卓の施工説明書をお読みください。

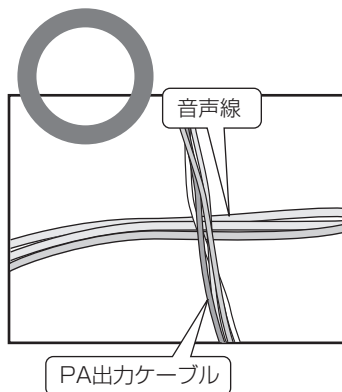
### ● 配線時のお願い

音声線とPA出力ケーブルの配線にご注意ください。

音声線とPA出力ケーブルは近づけて配線しない。



音声線とPA出力ケーブルは直交するように配線する。





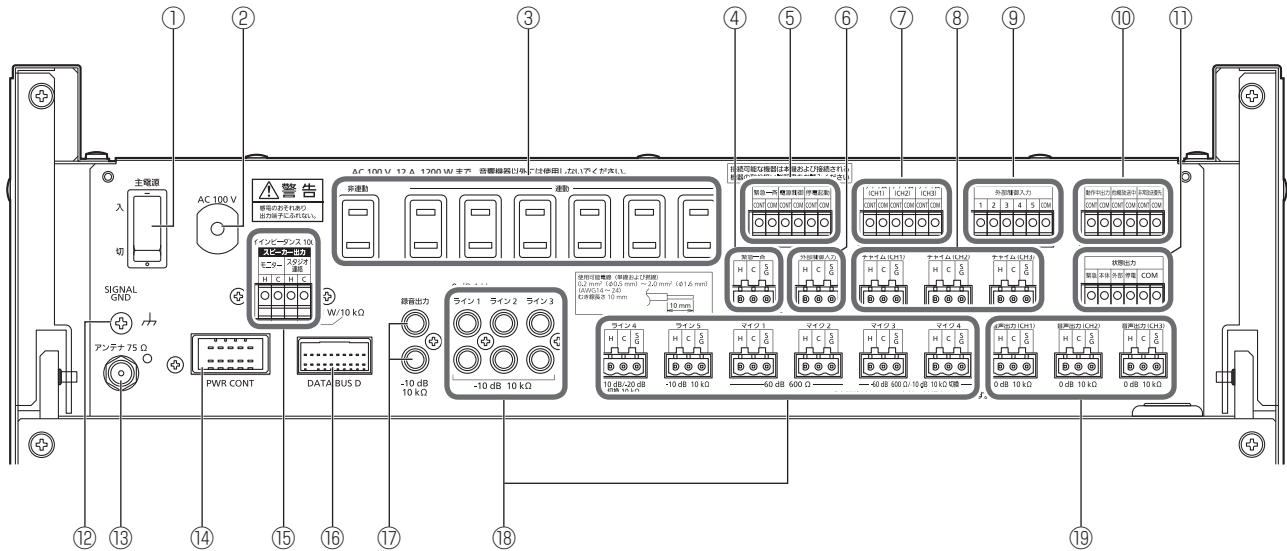
# 後面端子部の接続

## 各部の名前とはたらき

※ イラストおよび説明はWL-SA233を使用しています。

WL-SA211は、1系統（チャンネル）のため [CH2]、[CH3] が、WL-SA222は、2系統（チャンネル）のため [CH3] に関する部分がありません。

### 後面端子部



※イラストはWL-SA233です。

### ① 主電源スイッチ [主電源]

本機の主電源を「入/切」します。メンテナンスなどの場合を除き、通常は「入」の状態にします。

このスイッチが「切」の場合は、接続機器すべての電源が「切」になります。操作パネルの電源スイッチを「入」にしても電源は入りません。また、ACコンセントへも電源供給されません。

※ 配線工事やメンテナンスなどの際には、必ず「切」にしてください。

### ② 電源コード

最大電流15 Aの容量を持ったACコンセントに接続してください。電源はAC100 V 50 Hz/60 Hzです。

電源コードは、本機や他の機器の下敷きになったり、傷つけたりしないようにご注意ください。

### ③ ACコンセント [非連動] [連動]

音源機器や電力増幅ユニット、リレーユニットなど、本機に接続して使用される音響機器の電源を接続します。「非連動」「連動」合わせて合計12 A 1200 Wまでの電源を供給することができます。

接続できる電力増幅ユニットの台数

- WU-PD182 : 2台
- WU-PD122 : 3台
- WU-P51/P52 : 3台
- WU-P53 : 2台

※ 音響機器以外は接続しないでください。使用しないコンセントは市販のカバーなどを取り付けることをお勧めします。(パナソニック製: WH9901Pなど)

#### [非連動] コンセント

操作パネルの電源「入/切」に関わらず電源が供給されます。常時通電が必要な機器、例えばプログラムコントローラーなどを接続します。

#### [連動] コンセント

本機の電源が「入」のときに電源が供給されます。本機の電源「入/切」によって電源を供給する機器、例えば各種音源機器、ワイヤレス受信機、電力増幅ユニットなどを接続します。

### ④ 緊急一斉音声入力 [緊急一斉]

コネクタ式端子台（不平衡）、-10 dBV

緊急放送を行う音源機器などを接続します。緊急一斉制御入力端子がメイクされたとき、または緊急一斉放送ボタンが押されたときに、ここに入力された音源が最優先で放送されます。音量調節ボリュームは本機内部にあります。

### ⑤ 緊急一斉・電源制御・停電起動制御入力 [緊急一斉]

[電源制御] [停電起動]

スクリューレス端子台

- [緊急一斉] : 緊急一斉放送を行うときにメイクします。
- [電源制御] : 本端子をメイクすることで電源スイッチを押したときと同じ状態になります。
- [停電起動] : 本機を停電時に動作させる場合に本端子をメイクします。

### ⑥ 外部制御音声入力 [外部制御入力]

コネクタ式端子台（不平衡）、-10 dBV

音源機器などを接続します。外部制御入力端子がメイクされたときに、ここに入力された音源が放送されます。音量調節ボリュームは本機内部にあります。

### ⑦ チャイム制御入力 [チャイム (CH1~CH3)]

スクリューレス端子台

チャイム放送を行う場合にメイクします。本端子は、機種により数が異なります。

### ⑧ チャイム音声入力 [チャイム (CH1~CH3)]

コネクター式端子台 (不平衡)、-10 dBV  
チャイムユニットなどを接続します。チャイム制御入力端子がメイクされたときに、ここに入力された音源が放送されます。音量調節ボリュームは本機内部にあります。チャイム音声入力・チャイム制御入力端子は、系統 (チャンネル) ごとに用意しています。

### ⑨ 外部制御入力端子 [外部制御入力]

スクリューレス端子台  
外部制御による放送を行う場合にメイクします。

### ⑩ 動作中出力・他機放送中・非常放送優先 [動作中出力]

#### [他機放送中] [非常放送優先]

スクリューレス端子台  
[動作中出力] : 本機の電源スイッチが「入」のときにメイク信号を出力します。  
[他機放送中] : メイク信号が入力されると本機の「他機放送中」の表示灯が点灯します。他の機器の動作状態を本機で確認したい場合に接続します。  
[非常放送優先] : 非常用放送設備で非常放送を行っている場合に本機からの放送を中断します。

### ⑪ 状態出力 [状態出力]

スクリューレス端子台  
本機の動作状態を出力します。

### ⑫ シグナルグランド [SIGNAL GND]

ほかの機器と電位差をなくすために必要に応じて各機器のシグナルグランドと接続します。

### ⑬ アンテナ接続コネクター [アンテナ 75 Ω]

ラジオチューナーユニット (別売品) 組み込み時に、アンテナ線を接続します。  
AM/FM兼用であり、75 ΩF型接栓コネクターに対応しています。ラジオチューナーユニット (別売品) を組み込んだ場合に接続します。

### ⑭ POWER CONTコネクター [PWR CONT]

電源制御ユニットWU-L62 (別売品) や非常電源ユニットWP-570B (別売品) 専用の接続コネクターです。ACアウトレットが不足するときに電源制御ユニットを追加する場合や停電時に本機を使用する場合に使用します。

### ⑮ スピーカー出力端子 [スピーカー出力]

モニタースピーカーとスタジオ連絡スピーカーを接続する端子です。ハイインピーダンス100系のスピーカーを接続することができます。接続できるスピーカーは1 Wまでです。

### ⑯ DATA BUS Dコネクター [DATA BUS D]

インターフェースユニットWU-SA205 (別売品) を接続するための専用コネクターです。インターフェースユニットに付属の専用ケーブルで接続します。

### ⑰ 録音出力 [録音出力]

ピンジャック (不平衡)、-10 dBV  
録音用の出力ジャックです。カセットデッキなどへ接続し、録音するときに使用します。操作パネルの録音出力ボタンにより、出力信号を選択します。  
2つのピンジャックは、本機内部で並列接続されています。(モノラル出力)

### ⑱ 音声入力

音声信号の入力部です。

#### ライン入力端子 [ライン1] ~ [ライン5]

ライン1~3: ピンジャック (不平衡)、-10 dBV  
CDプレーヤー、MDプレーヤー、カセットデッキなどを接続します。  
ピンジャック入力は各2個ありますが、内部でミキシングされてモノラルになります。

ライン4、5: コネクター式端子台、-10 dBV  
音源機器などを接続します。

ライン4は、本機内部の切換スイッチによって、-20 dBVに変更することができます。

ライン1は操作パネルのライン1 (ミニジャック) と、ライン2は操作パネルのライン2 (ピンジャック) とミキシングされます。

#### マイク入力端子 [マイク1] ~ [マイク4]

コネクター式端子台 (平衡)、-60 dBV  
マイクロホンやワイヤレス受信機を接続します。  
マイク3とマイク4は、本機内部の切換スイッチによって、-10 dBV (ライン入力レベル) に変更することができます。

### ⑲ 音声出力 [音声出力 (CH1~CH3)]

コネクター式端子台 (平衡)、0 dBV  
音声信号を出力するコネクターです。電力増幅ユニットなどへ音声信号を出力します。

[音声出力1]: CH1信号の出力

[音声出力2]: CH2信号の出力

[音声出力3]: CH3信号の出力

音声出力コネクターは機種により数が異なります。

# 後面端子部の接続

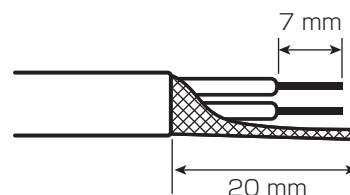
## 音声入出力コネクタ式端子台への配線

### 1 シールド線の被覆を右図のように加工する



#### ケーブルの加工

- 推奨線材：0.2 mm<sup>2</sup> (AWG24) ~ 3.3 mm<sup>2</sup> (AWG12)
- はんだ上げ線は使用しないでください。
- 剥離する被覆の長さ：7 mm ± 1 mm



### 2 ヘッダーをコネクタから取り外す

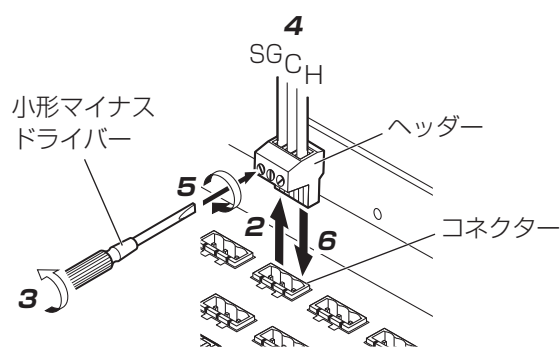
### 3 ヘッダーのねじ3本をゆるめて、ケーブル挿し込み口を閉じている金具を広げる

### 4 ヘッダーに先端を加工した線材を挿入する

### 5 ねじを締め、線材が抜けないことを確認する

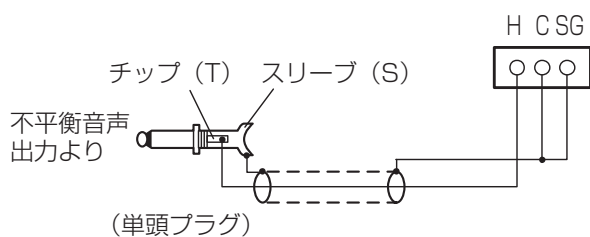
- ・ ねじの締付トルク：0.5 N・m ~ 0.6 N・m {5 kgf・cm ~ 6 kgf・cm}
- ・ ドライバーは刃先が3 mmのマイナスドライバーを使用します。

### 6 線材を接続したヘッダーをコネクタに取り付ける

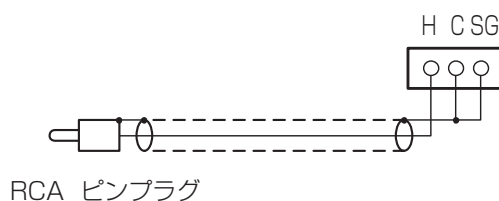


### ● 不平衡出力機器の接続

本機の音声入力はすべて平衡入力です。  
不平衡出力の機器と接続するときは、図のように配線してください。



※ 単頭プラグスリーブのシールド線をSGに接続し、C (コールド) とSG (シグナルグランド) を接続します。



※ ピンプラグからのシールド線とSGを接続し、C (コールド) とSG (シグナルグランド) を接続します。

## マイク・ライン入力

- マイク1～4、ライン1～5の音声入力コネクタースに入力された音声は、操作パネルの入力ボリュームで音量を調節することができます。
- ライン1とライン2は操作パネルの音声入力ジャックに入力された音声とミキシングされます。
- マイク3、マイク4とライン4は感度切換ができます。

### ● マイク・ライン音声入力一覧

音声入力	入力感度	回路	コネクタ形状	備考
マイク1	-60 dB 600 Ω	平衡	コネクタ式端子台	
マイク2	-60 dB 600 Ω	平衡	コネクタ式端子台	
マイク3	-60 dB 600 Ω / -10 dB 10 kΩ 切換	平衡	コネクタ式端子台	● 感度は内部スイッチによる切換
マイク4	-60 dB 600 Ω / -10 dB 10 kΩ 切換	平衡	コネクタ式端子台	● 感度は内部スイッチによる切換
ライン1	-10 dB 10 kΩ	不平衡	ピンジャック×2	● ピンジャックは内部でミキシング ● 内部でモノミックス
		不平衡	ステレオミニジャック	
ライン2	-10 dB 10 kΩ	不平衡	ピンジャック×2	● ピンジャックは内部でミキシング ● 内部でモノミックス
		不平衡	ピンジャック×2	
ライン3	-10 dB 10 kΩ	不平衡	ピンジャック×2	● ピンジャックは内部でミキシング
ライン4	-10 dB / -20 dB 10 kΩ 切換	平衡	コネクタ式端子台	● 感度は内部スイッチによる切換
ライン5	-10 dB 10 kΩ	平衡	コネクタ式端子台	



- マイク3、マイク4、ライン4の感度切換は、本機の内部にスイッチがあります。(75ページ)  
マイク・ラインの音声入力は、操作パネルの入力ボリュームで調節します。  
操作パネルの一斉ボタン、スピーカー選択ボタン、グループ選択ボタンによる本体放送中にマイク・ラインに入力された音声は放送されます。  
緊急一斉放送時は、マイク・ラインに入力された音声はミュートされ、緊急一斉放送が優先されます。  
チャイム、外部制御入力、リモコンマイクによる放送中は、マイク・ラインに入力された音声はミュートされません。

# 後面端子部の接続

## モニター・スタジオ連絡スピーカー出力端子



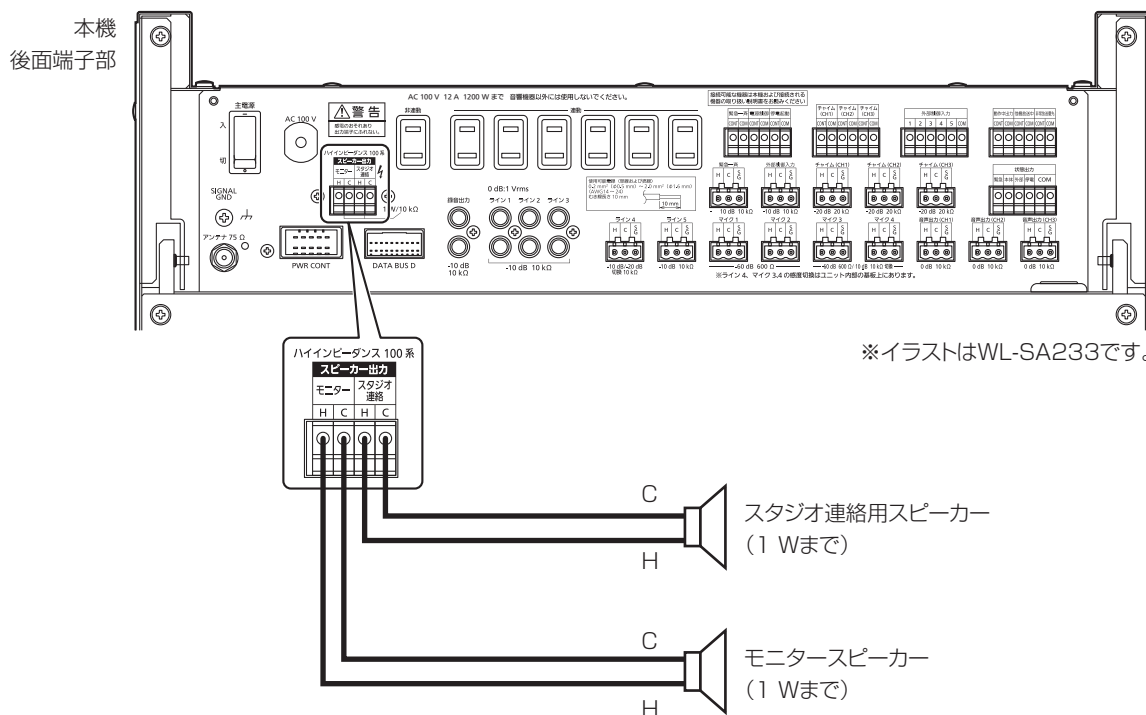
**警告**



**禁止**

動作中は、スピーカー出力端子に触れないでください。  
感電の原因となります。

操作パネルのアナウンスマイクの音声をスタジオのスピーカーに出力してスタジオ連絡用にしたたり、放送内容をモニタースピーカーに出力して確認することができます。



※イラストはWL-SA233です。

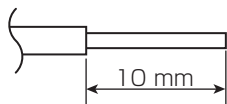


- スタジオ連絡、モニタースピーカー出力端子に接続できるスピーカーは、ハイインピーダンス 100系のスピーカーのみです。
- スタジオ連絡スピーカーによる放送中は、モニタースピーカーの音は停止します。
- モニターは、内部の切換スイッチにより、放送されている音声、または放送しようとする音声を聞くことができます。(74ページ)

## 制御入出力端子台への配線

制御入出力端子台（緊急一斉、電源制御、停電起動、チャイム、外部制御入力、動作中出力、他機放送中、非常放送優先、状態出力）に接続できるケーブルは以下のとおりです。

- 使用可能電線
  - 単線 :  $\phi 0.5 \text{ mm} \sim \phi 1.6 \text{ mm}$
  - より線 :  $0.2 \text{ mm}^2 \sim 2.0 \text{ mm}^2$  (AWG14~24)
- むき線長 10 mm

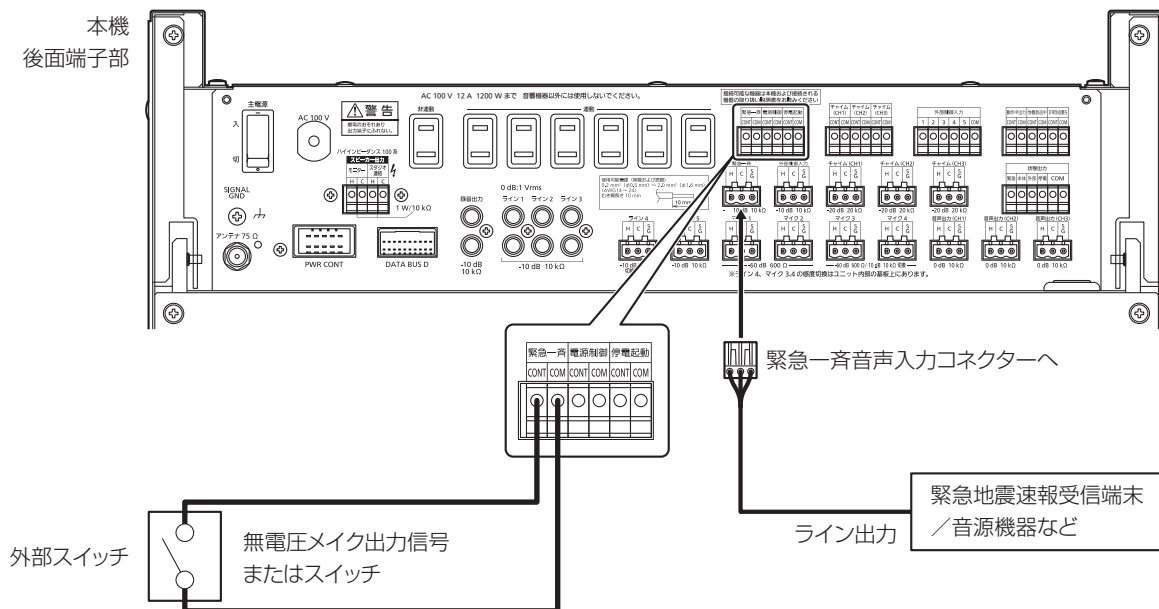


## 外部からの緊急一斉放送のしかた

- 緊急一斉制御入力端子にメイク信号が入力されると、メイクされている間、緊急一斉の音声入力に接続された機器（緊急地震速報など）による緊急一斉放送ができます。
- アナウンスマイクおよびコールサインボタンによるコールサイン鳴動も行えます。
- 緊急一斉放送時は、アナウンスマイクの入力ボリュームの位置やチャンネル選択ボタンの選択状態に関係なく全系統（チャンネル）、全スピーカーに放送ができます。
- 緊急一斉制御入力時、緊急一斉放送ボタンの表示灯が点灯します。

外部からの音源機器により、緊急一斉放送を行う場合は、緊急一斉音声入力コネクタに音源機器を接続します。

※イラストはWL-SA233です。

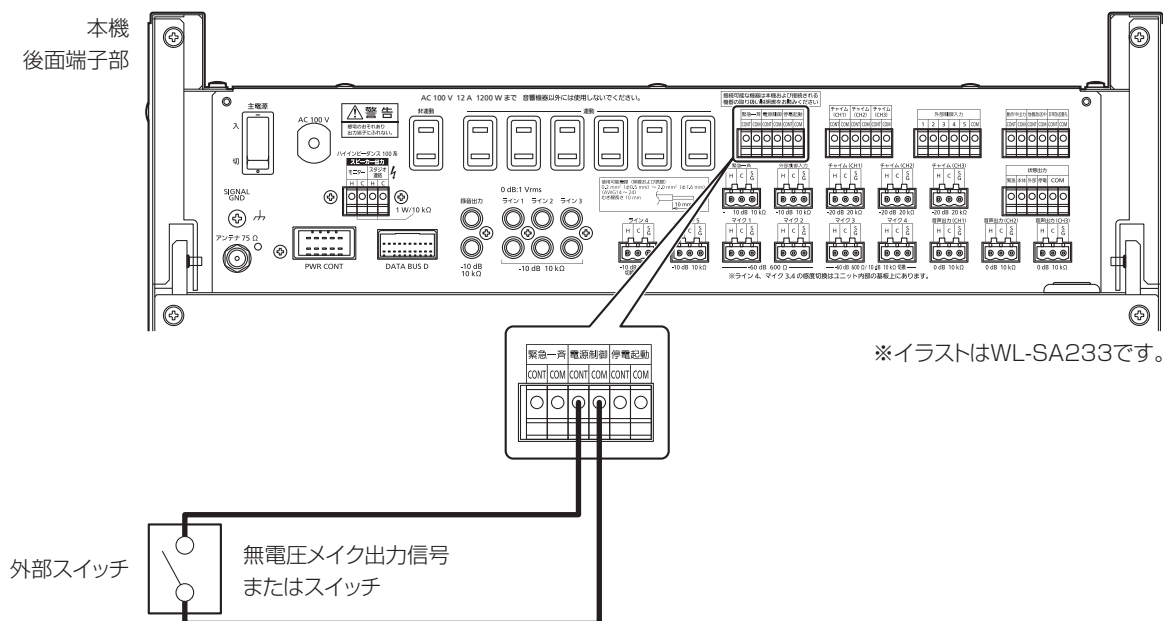


- 外部からの緊急一斉放送中も操作パネルのアナウンスマイクからの音声とミキシングして放送されます。
- 本端子は、無電圧メイク入力で、開放電圧5 V、短絡電流3 mAです。（トランジスタのオープンコレクター出力を接続する場合、COM端子をグランド側に接続してください。）
- 本端子がメイクされている間、緊急一斉放送が行われます。

# 後面端子部の接続

## 外部からの電源起動のしかた

電源制御端子にメイク信号が入力されると、操作パネルの電源スイッチを押したときと同様の状態になります。



- 本端子は、無電圧メイク入力で、開放電圧5V、短絡電流3mAです。(トランジスタのオープンコレクター出力を接続する場合、COM端子をグランド側に接続してください。)
- 本端子がメイクされている間、電源スイッチが「入」の状態になります。



## チャイム入力の接続

チャイムユニット（別売品）などからの信号により、チャイム音声を本機から放送できます。

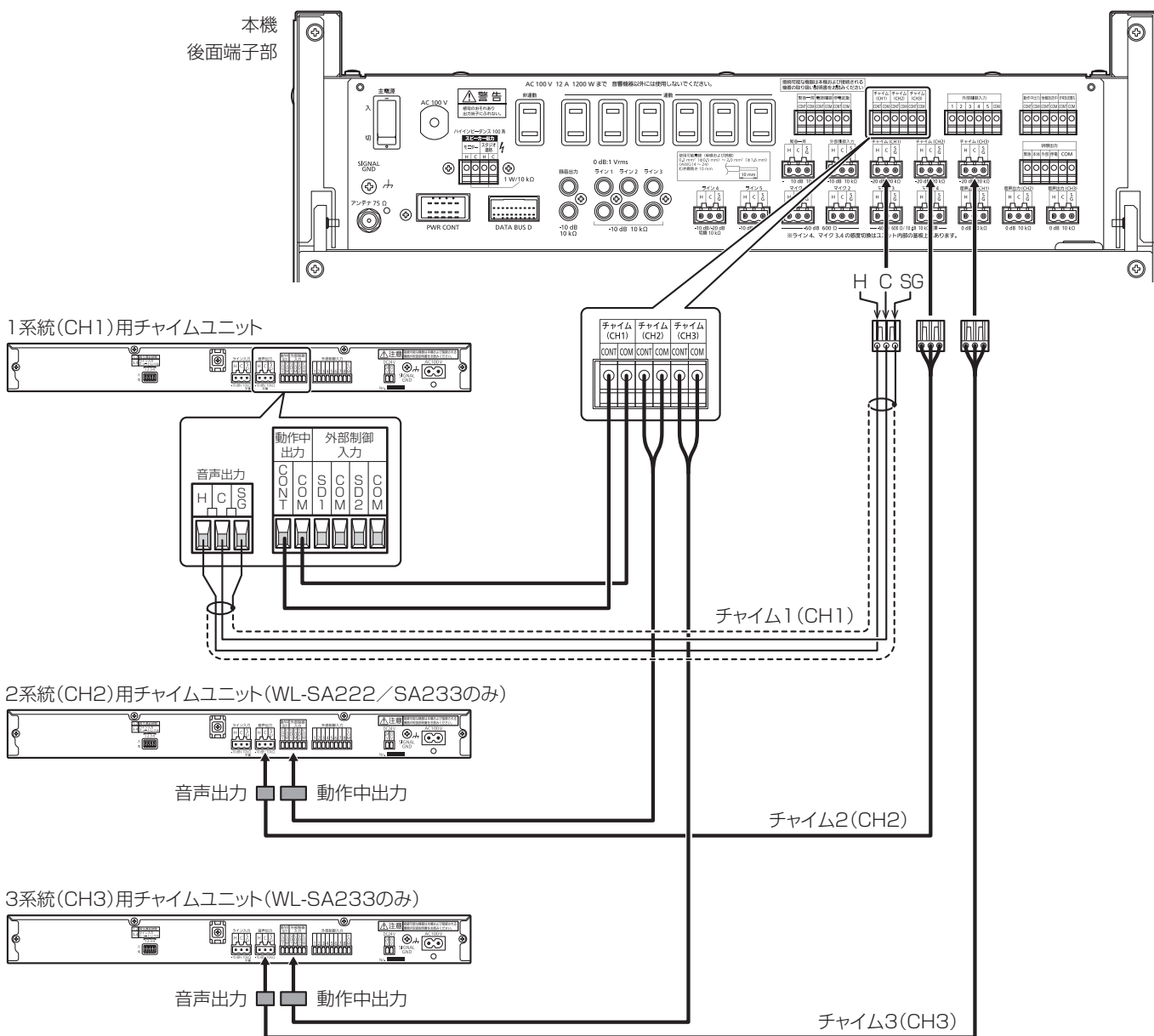
- あらかじめチャイム放送を行うスピーカー回線の設定が必要です。（71ページ）
- チャイムで一齐放送を行う場合は、ディップスイッチの設定により、アッテネーター（音量調整器）の調節に関係なく放送（優先放送）ができます。（65ページ）



- チャイム端子がメイクされている間、チャイム音声コネクタースに入力された音声が放送されます。
- 放送の優先順位により、緊急一齐放送を行っている場合は、チャイム放送はできません。また、チャイム放送中は、同じ系統（チャンネル）のチャイムより優先順位の低い放送は中断されます。
- WL-SA222/SA233は、系統（チャンネル）ごとに別々にチャイム放送を行うことができます。

### ●チャイムユニット（WZ-DP310）を接続する場合の接続例

※イラストはWL-SA233です。



# 後面端子部の接続

## 外部制御入力の接続

プログラムICレコーダー（別売品）などからの信号により、外部音源機器の音声を本機から放送できます。

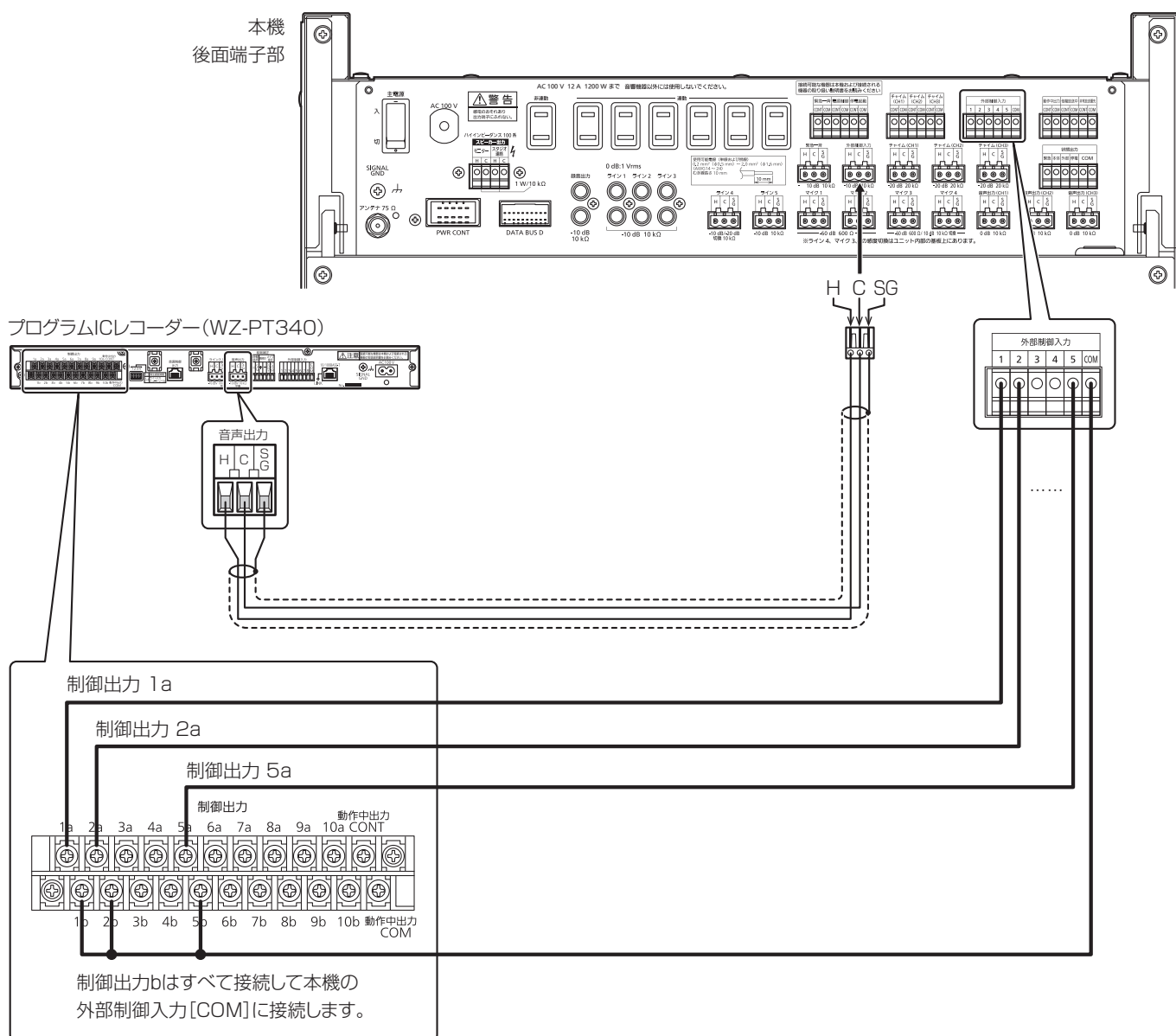
- あらかじめ外部制御入力により放送を行うスピーカー回線の設定が必要です。（73ページ）



- 外部制御入力端子がメイクされている間、外部制御音声入力に入力された音声が放送されます。
- 外部制御入力1～5はそれぞれ異なる放送エリアを設定することができます。
- 外部制御入力は、一斉放送時の優先放送を行うことはできません。
- 複数の外部制御入力は同時に動作することが可能です。この場合、それぞれの外部制御入力に設定されているスピーカー回線から放送されます。
- WL-SA222/SA233は、1つの外部制御入力で、複数の系統（チャンネル）のスピーカー回線から放送することができます。

### ● プログラムICレコーダー（WZ-PT340）を接続する場合の接続例

※イラストはWL-SA233です。



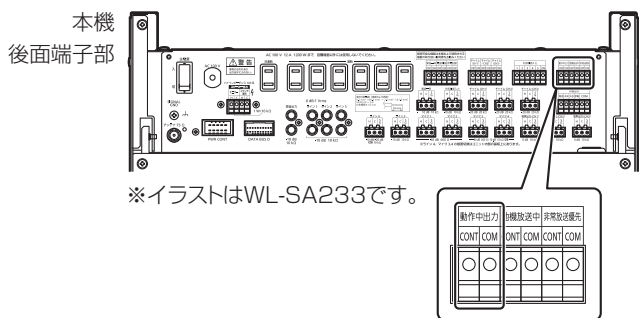
- 本端子は、無電圧メイク入力で、開放電圧5 V、短絡電流3 mAです。（トランジスタのオープンコレクター出力を接続する場合、COM端子をグランド側に接続してください。）

## 動作中出力の接続

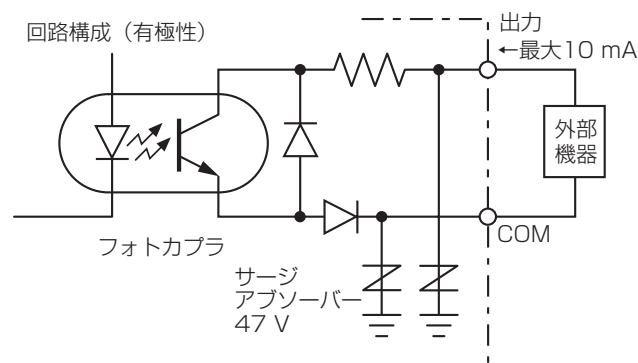
本機の電源表示灯が点灯しているときに出力し、本機の動作状態を外部機器などに知らせることができます。



- 本端子は有極性で、外部機器のグランドを本端子のCOM側に接続します。

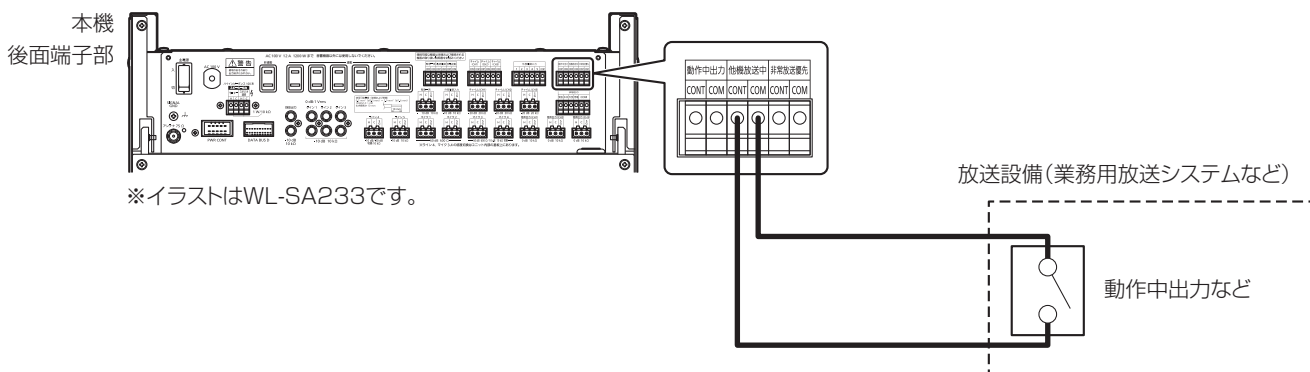


- 出力形式 : オープンコレクター (メイク出力)
- 電氣的仕様 : 制御電圧DC35 V 制御電流10 mA



## 他機放送中の接続

本端子にメイク信号が入力されている間、操作パネルの「他機放送中」表示灯が橙色に点灯し、本機からの放送を中断させることができます。ただし、本機の緊急一斉放送は中断しません。



- 本端子は、無電圧メイク入力で、開放電圧5 V、短絡電流3 mAです。(トランジスタのオープンコレクター出力を接続する場合、COM端子をグランド側に接続してください。)

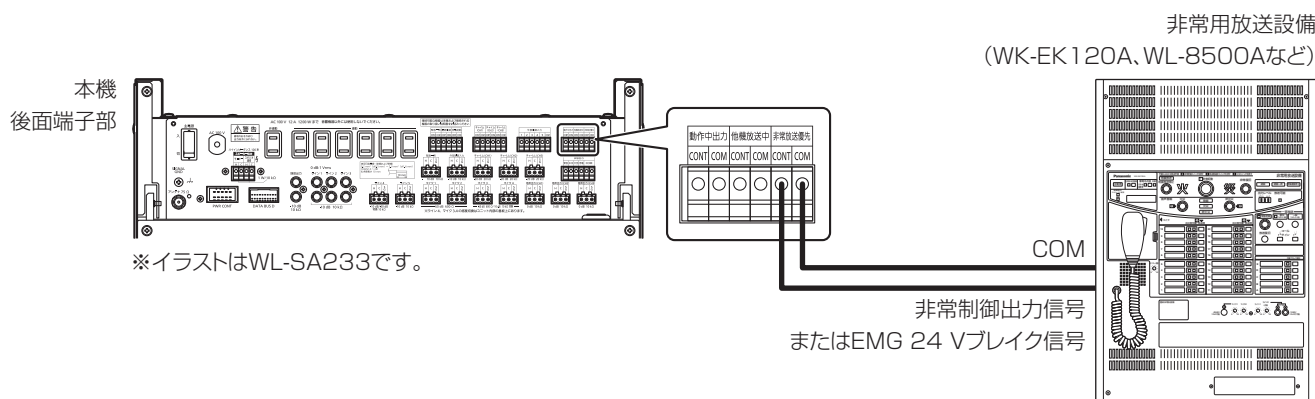
# 後面端子部の接続

## 非常放送優先の接続

非常用放送設備（防災アンプシステム）を接続することにより、「非常放送優先制御」を行うことができます。非常放送優先制御は、火災発生時に非常用放送設備が出力する非常放送中の信号を受けて、本機の放送を停止させ、非常用放送設備からの非常放送を優先して放送することができます。このとき本機の操作パネルの「非常放送中」表示灯が赤色に点灯します。

### ■ 接続のしかた

非常用放送設備の非常制御出力または、EMG24 Vブレイク端子と本機の非常放送優先端子を接続します。非常放送優先端子を接続した場合は、本機のディップスイッチの設定が必要です。（65ページ）



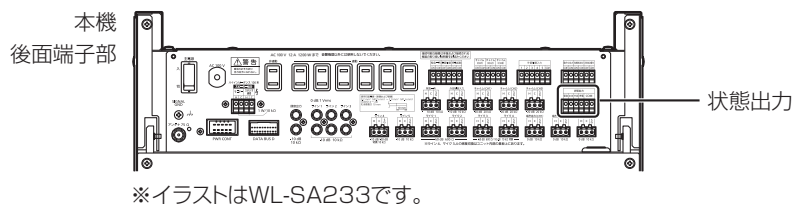
## 状態出力機能

本機の動作状態をメイク信号で出力することができます。状態出力端子はオープンコレクターです。出力条件は以下のとおりで、動作中はメイクを継続します。

状態出力種類	出力条件
緊急	緊急一斉放送時に出力
本体	本体放送（一斉ボタン、スピーカー選択ボタン、グループ選択ボタン）時に出力
外部	外部制御入力1～5による放送時に出力
停電	停電放送時に出力



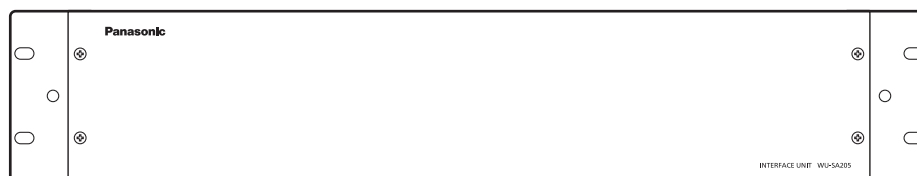
- 本端子は、動作中出力端子と同じ内部回路で、制御電圧DC35 V、制御電流10 mAとなります。（45ページ）本機の動作に合わせて、複数の状態出力端子が同時に動作します。



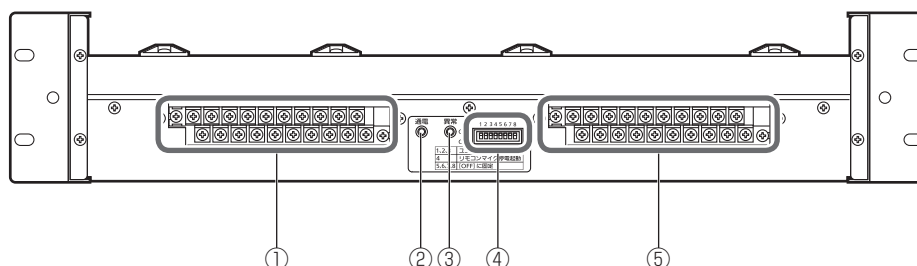
# インターフェースユニットの接続

## 各部の名前とはたらき

### インターフェースユニット前面



前面端子部（前面パネルを外した状態）



#### ① スピーカー出力端子

放送エリアのスピーカー回線を接続します。

#### ② 通電表示灯【通電】（緑色）

音声調整卓の主電源スイッチが「入」になると、インターフェースユニットに電源（DC24 V）が供給され通電表示灯が点灯します。

#### ③ 異常表示灯【異常】（赤色）

音声調整卓とインターフェースユニットの通信異常、ユニットアドレス設定異常などが発生した場合に点滅します。

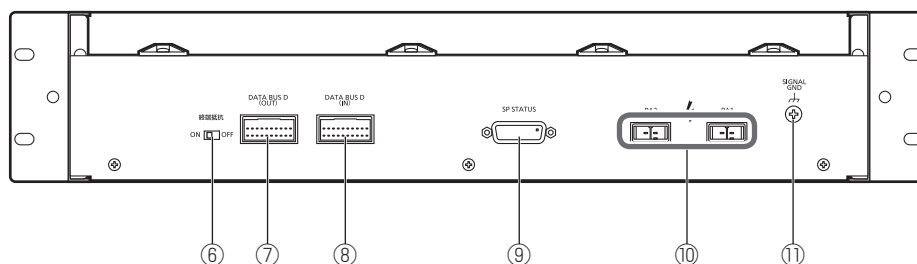
#### ④ 設定スイッチ

増設スイッチユニット増設時やリモコンの停電起動の設定をします。（66ページ）

#### ⑤ リモコンマイク接続端子【リモコンマイク】

リモコンマイク（WR-201、WR-205A、WR-210A：共に別売品）を接続する端子です。

### インターフェースユニット後面



#### ⑥ 終端抵抗スイッチ【終端抵抗】[ON] [OFF]

終端抵抗を設定します。  
音声調整卓、インターフェースユニット間との接続時に使用します。

#### ⑦ 制御出力コネクタ【DATA BUS D (OUT)】

インターフェースユニットを複数台使用時は、付属のDATA BUS Dケーブルを増設したインターフェースユニットの制御入力コネクタに接続します。

#### ⑧ 制御入力コネクタ【DATA BUS D (IN)】

制御入力用コネクタです。本機に付属のケーブルで音声調整卓本体と接続します。

#### ⑨ 制御コネクタ【SP STATUS】

スピーカー回線のON/OFF状況を無電圧メイク信号で出力します。

#### ⑩ 音声入力コネクタ【PA1】【PA2】

電力増幅ユニットのアンプ出力端子と接続します。接続ケーブルは電力増幅ユニットに付属しています。

#### ⑪ シグナルグランド端子【SIGNAL GND】

他機器との電位差をなくするため、各機器のSIGNAL GNDと接続します。

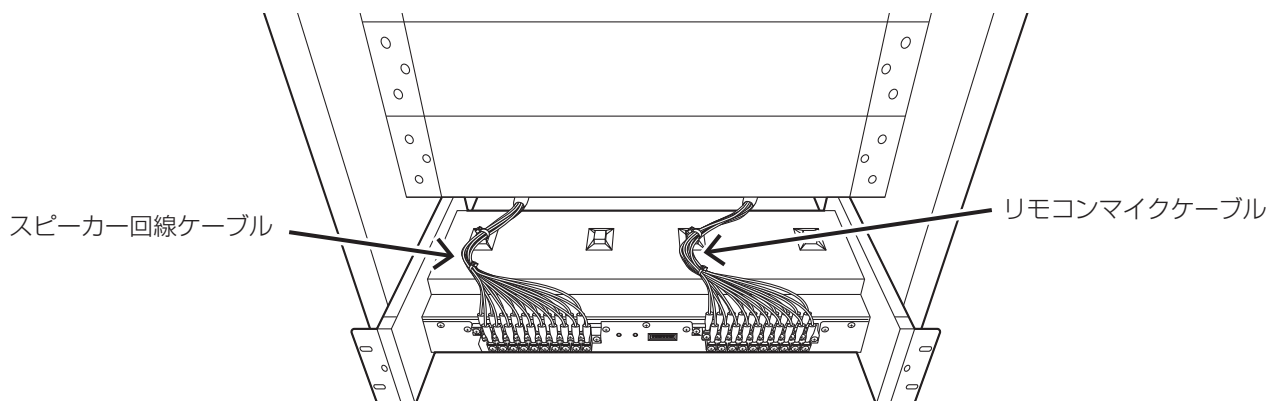
# インターフェースユニットの接続

## 通線のしかた

- 外部と接続する線材は、インターフェースユニットの上部の通線スペースを通して端子に接続します。
- インターフェースユニットに付属の束線バンドで線材をユニット上部のクランプベースに固定します。
- 配線時はユニットを前に引き出すと作業性が向上します。



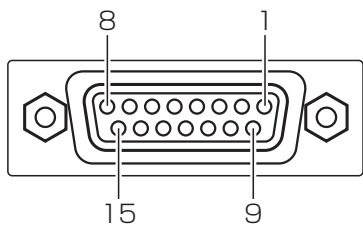
- **重要** スピーカー回線ケーブルとリモコンマイクケーブルは一緒に束ねないでください。誤動作や音声ノイズが発生する恐れがあります。



## スピーカー制御出力信号について

インターフェースユニット後面のSP STATUSコネクタースピーカー回線ごとのON/OFF状態を無電圧メイク信号で出力しています。SP回線ON/OFFに連動して、外部機器を制御することができます。

### ● 接続のしかた



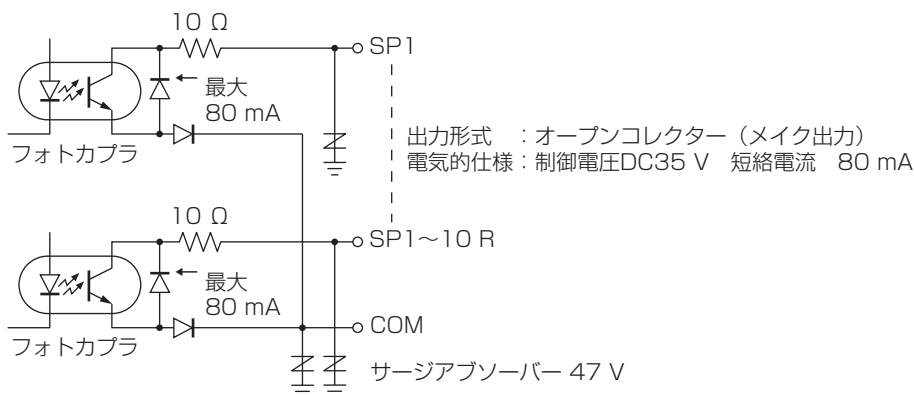
ピン番号	名称	機能
1	SP回線1出力	スピーカー回線1に連動してメイク動作
10	SP回線10出力	スピーカー回線10に連動してメイク動作
11	SP回線1~10 R回線出力	一斉優先放送時にメイク動作
12	COM	制御対象のCOM端子を接続します。
13~15	—	メンテナンス用 ※接続しないでください。

下図のように、スピーカー回線出力ピンと連動動作する機器側のメイク制御入力端子間、およびCOMピンと機器側のCOM端子間を接続します。

※ SP回線のCOMは各回路共通で、音声調整卓、インターフェースユニットのGNDとは分離しています。



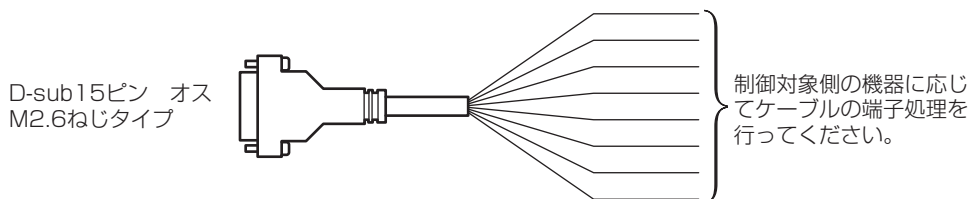
### ● 等価回路



### ● 推奨コネクタ

本機に接続する機器側のコネクタは、D-sub15ピン オス M2.6ねじタイプを使用してください。ケーブルは、コネクタの仕様にあったものを使用し、制御対象の機器に応じて端子処理を行ってください。



#### 制御対象機器側コネクタおよびケーブル



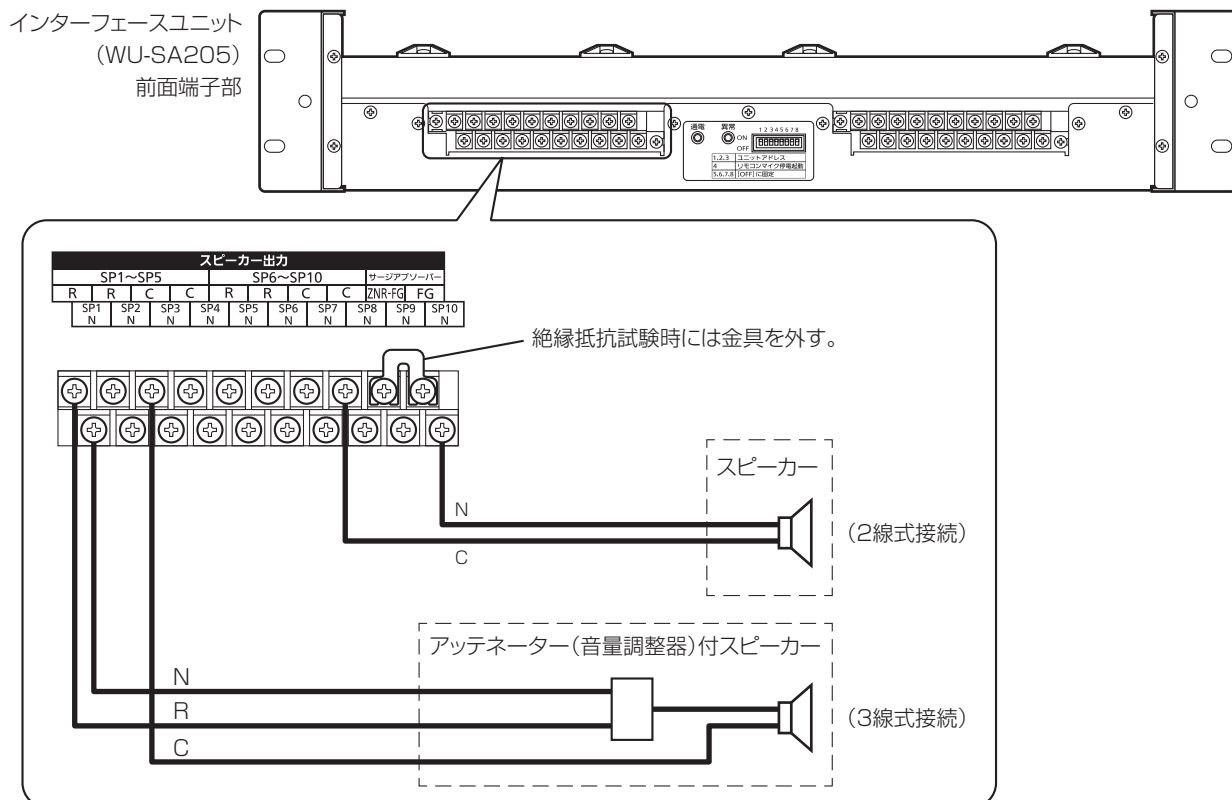


# インターフェースユニットの接続

## スピーカーの接続

 <b>警告</b>	 <b>禁止</b>	動作中は、スピーカー出力端子に触れないでください。 感電の原因となります。
---	---	--

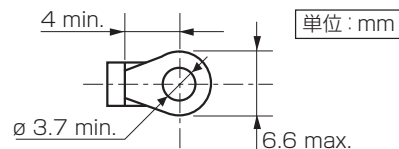
スピーカーの接続には、2線式と3線式があり、3線式接続をした場合は、アッテネーター（音量調整器）の設定が「OFF」であっても緊急一斉放送のときは放送ができます。



- スピーカー出力端子1回線あたりの最大ワット (W) は、200 Wまでです。200 Wにおさまるようにスピーカー回線を分けてください。



- インターフェースユニットの電力増幅ユニットを接続するPA1、PA2は内部で並列に接続されています。
- スピーカー出力端子への接続は丸端子の使用を推奨します。  
丸端子は、JIS C 2805 銅線用絶縁被覆（直管形）をご使用ください。  
(締付トルク：1.1 N・m {11 kgf・cm})



### ● 絶縁抵抗試験のしかた

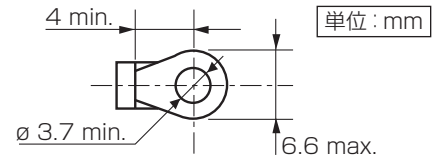
スピーカー出力端子の絶縁抵抗試験を行うときは、ZNR-FGとFG間を接続している金具を外して測定してください。外さないで試験を行うと、雷サージ、静電気保護のために端子と大地間に取り付けられているサージアブソーバーの影響により不良と見誤ることがあります。

## リモコンマイクの接続

- インターフェースユニットは、単局リモコンマイクWR-201、5局リモコンマイクWR-205A、10局リモコンマイクWR-210A（別売品）などの接点式のリモコンマイクを接続できます。リモコンマイクからは、スピーカー回線を指定した放送、一斉放送、コールサイン鳴動が可能です。
- インターフェースユニット1台あたり、2台までのリモコンマイクが接続できます。（リモコンマイクの機種は混在可能です。）
- リモコンマイクの操作方法はそれぞれのリモコンマイクの取扱説明書をお読みください。
- リモコンマイクからの一斉放送は本機のディップスイッチ設定により、アッテネーター（音量調整器）を無効にした放送を行うことができます。（スピーカー3線式接続の場合のみ）（66ページ）

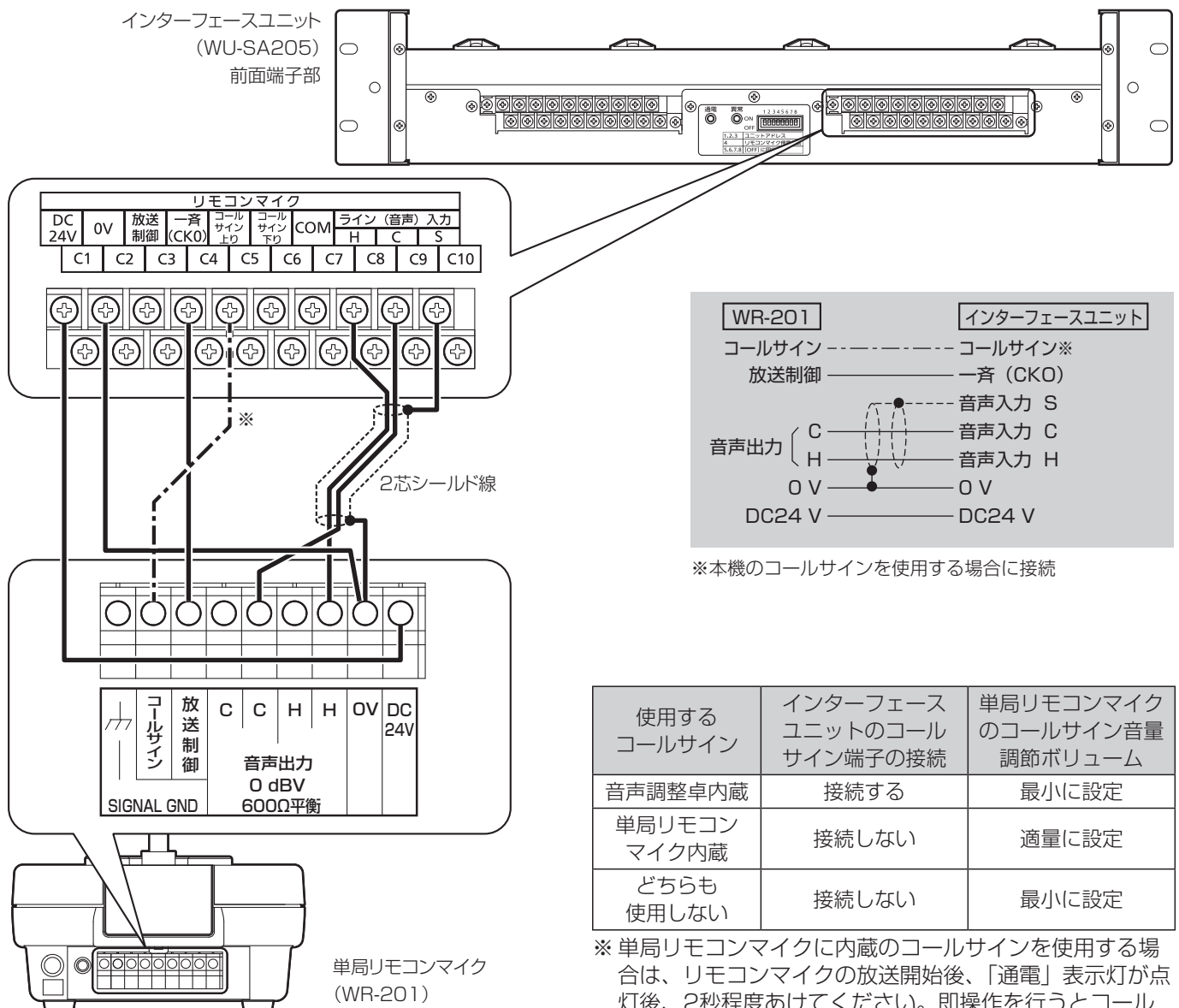


- リモコンマイク接続端子への接続は丸端子の使用を推奨します。丸端子は、JIS C 2805 銅線用絶縁被覆（直管形）をご使用ください。（締付トルク：1.1 N・m {11 kgf・cm}）



### ■ 単局リモコンマイク（WR-201）の場合

単局リモコンマイクの接続方法を以下に示します。単局リモコンマイクでは、一斉放送が可能です。コールサインは、本機のコールサインを使用する場合のみ接続します。（WR-201に内蔵されているコールサインを使用する場合は、接続の必要はありません。）



※ - - - - は、本機のコールサインを使用する場合に接続

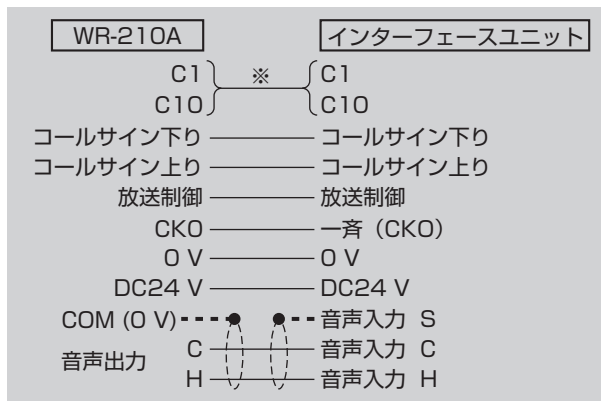
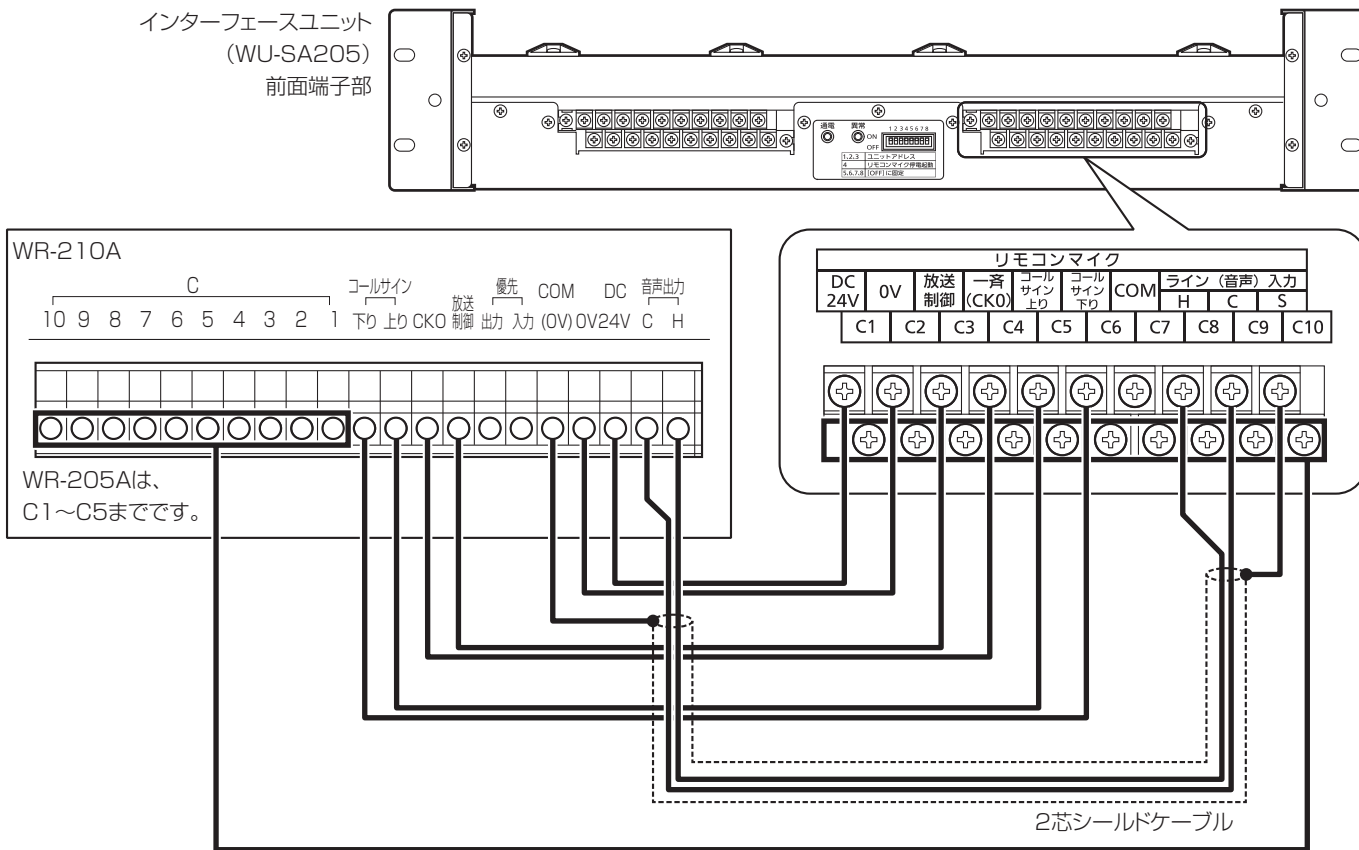
使用するコールサイン	インターフェースユニットのコールサイン端子の接続	単局リモコンマイクのコールサイン音量調節ボリューム
音声調整卓内蔵	接続する	最小に設定
単局リモコンマイク内蔵	接続しない	適量に設定
どちらも使用しない	接続しない	最小に設定

※ 単局リモコンマイクに内蔵のコールサインを使用する場合は、リモコンマイクの放送開始後、「通電」表示灯が点灯後、2秒程度あけてください。即操作を行うとコールサインの最初の音が途切れることがあります。

# インターフェースユニットの接続

## ■ 5局リモコンマイク (WR-205A)、10局リモコンマイク (WR-210A) の場合

WR-210Aのリモコンマイクの接続方法を以下に示します。リモコンマイクから個別放送 (C1~C10) (WR-205AはC1~C5) で放送をしたいスピーカー回線番号と同じ番号のC1~C10に接続します。



※リモコンマイクの個別放送ボタン (C1~C10) と本機のリモコン制御 (C1~C10) を接続します。



- 増設スイッチユニットを増設して、インターフェースユニットを増設した場合は、増設したインターフェースユニットの一斉および、放送制御端子へケーブルを分岐してそれぞれのユニットに接続してください。

# 増設スイッチユニットによる回線追加のしかた

放送エリアが不足するときは、増設スイッチユニット（WL-SA203）でスピーカー選択ボタンを増設することができます。増設可能台数は以下のとおりです。

WL-SA211：2台

WL-SA222：1台

WL-SA233：増設できません。

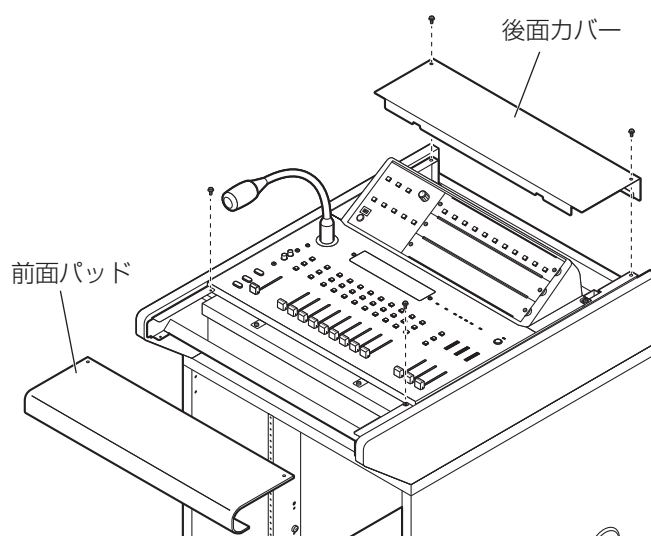
増設スイッチユニットを1台増設するごとにインターフェースユニットWU-SA205も1台増設する必要があります。

※ 工場出荷時に本機に装着されているユニットは、一斉ボタンがあるスイッチユニットで、増設スイッチユニット（WL-SA203）とは異なります。

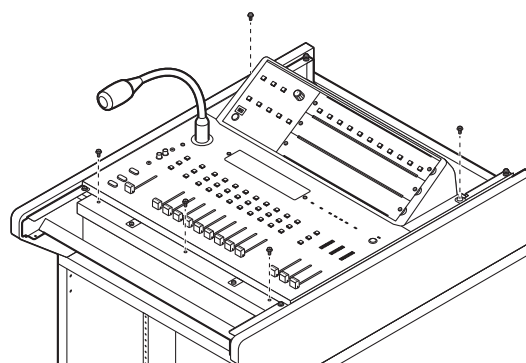
## 増設スイッチユニットの組み込み

### 1 前面パッドと後面カバーを外す。

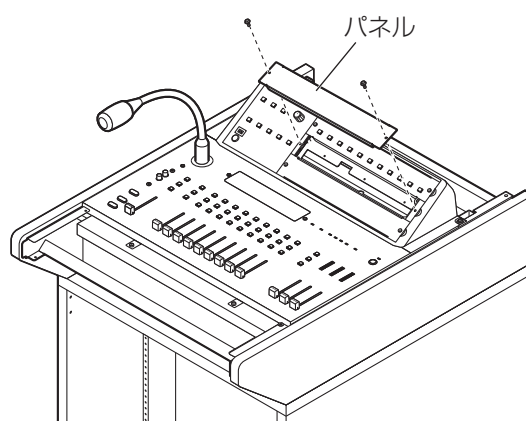
本機の前面パッドの2か所と後面カバーの2か所のねじを外し、前面パッドと後面カバーを取り外します。



### 2 前面パッドの下にあるパネル固定ねじ3本と、後方のパネル固定ねじ2本を外す。



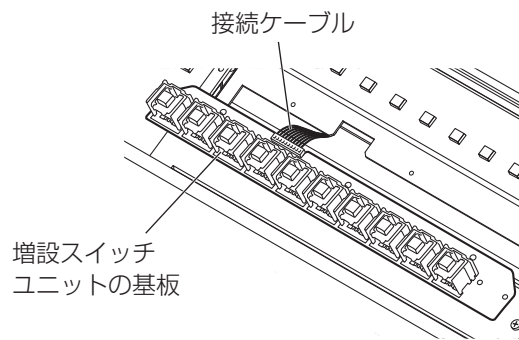
### 3 スイッチユニットのパネルを取り外す。



# 増設スイッチユニットによる回線追加のしかた

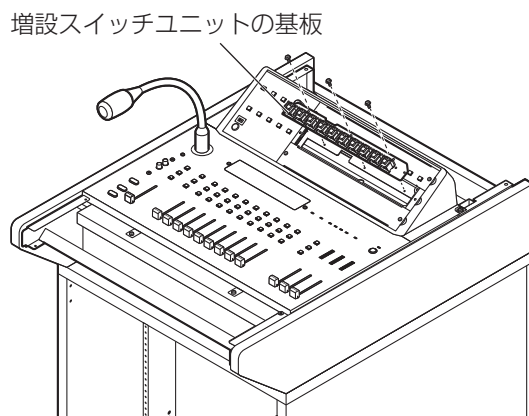
**4** 増設スイッチユニットの基板に増設スイッチユニット付属の接続ケーブルを接続し、操作パネルに取り付ける。

- 基板取付時に接続ケーブルを板金にはさまないように注意してください。



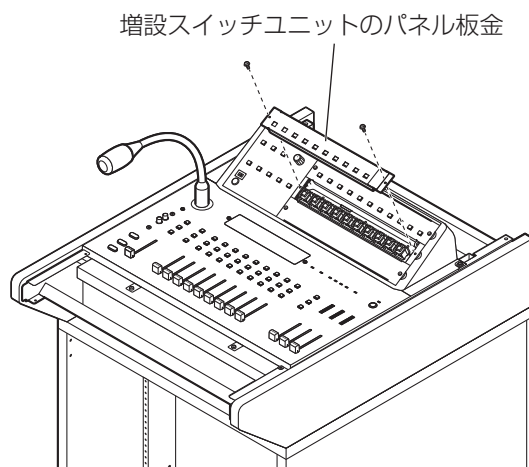
**5** 基板を増設スイッチユニットに付属の取付ねじ3本で固定する。

- 取付ねじは中央⇒右⇒左の順に止めてください。  
ねじの締付トルク：0.67 N・m～0.88 N・m  
{7 kgf・cm～9 kgf・cm}

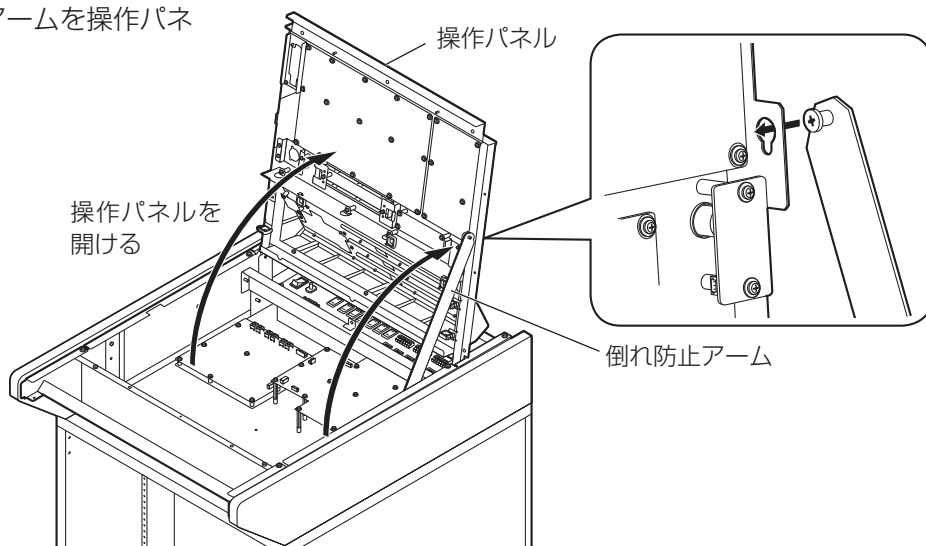


**6** 増設スイッチユニットのパネル板金を取り付ける。

- ねじの締付トルク：0.67 N・m～0.88 N・m  
{7 kgf・cm～9 kgf・cm}



**7** 操作パネルを開け、倒れ防止アームを操作パネル側面側の孔に差し込む。

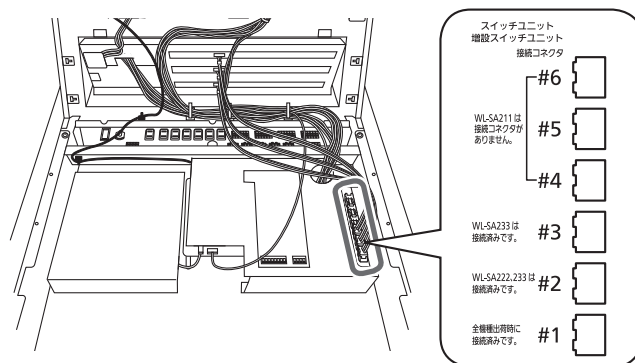


**8** 接続ケーブルのもう一方をメイン基板の接続コネクタ#2、または#3に接続する。

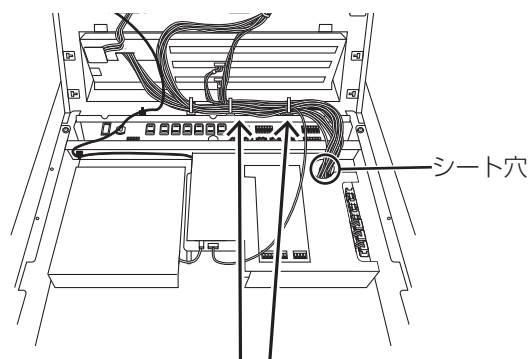
- 接続コネクタの接続箇所は下表のとおりです。

接続コネクタ	WL-SA211	WL-SA222
#1	スイッチユニット	スイッチユニットシステム (チャンネル) 1
#2	増設スイッチユニット 1台目	増設スイッチユニットシステム (チャンネル) 1
#3	増設スイッチユニット 2台目	スイッチユニット*システム (チャンネル) 2

※ WL-SA222に増設スイッチユニットを増設するときは、#2に接続されているケーブルを#3に差し換えます。



**9** 束線クランプ (内部) の上部の隙間から接続ケーブルを入れ (2か所)、シートの穴にケーブルを収納する。

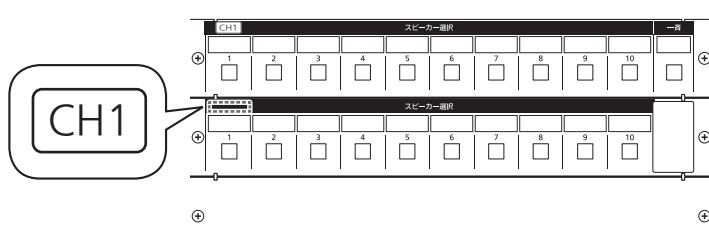


束線クランプ (内部) に接続ケーブルを通す

**10** 手順**1**~**3**の逆の手順で操作パネルを閉じる。

- ねじの締付トルク：1.0 N・m~1.2 N・m  
{10 kgf・cm~12 kgf・cm}

**11** 増設スイッチユニットに増設したシステムのチャンネルラベル (増設スイッチユニットに付属) を貼り付ける。



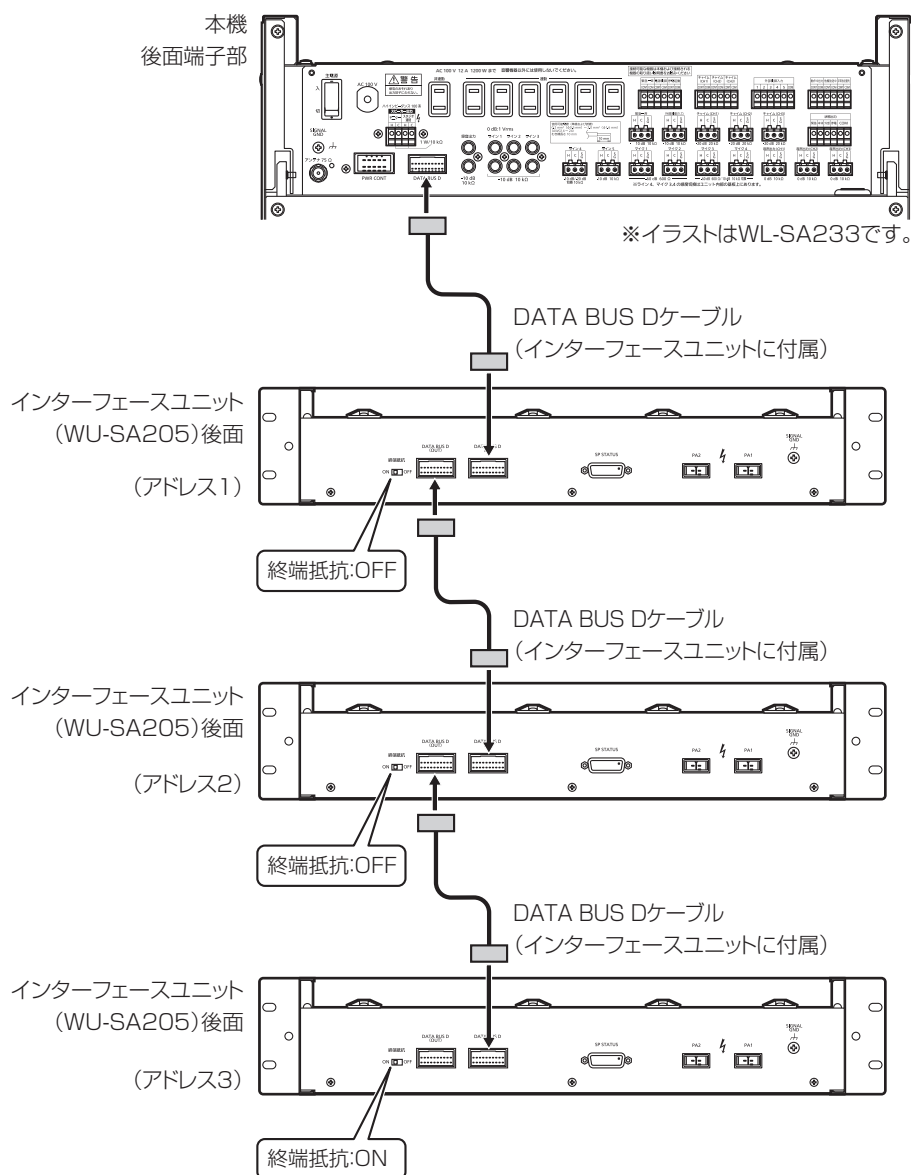
- 増設スイッチユニットの組み込み後に、ディップスイッチの設定を行う必要があります。詳しくは、「ディップスイッチの設定」(65ページ)をお読みください。

# 増設スイッチユニットによる回線追加のしかた

## インターフェースユニットの接続

増設スイッチユニット1台増設ごとに、インターフェースユニットも1台増設する必要があります。

- インターフェースユニットと本機、インターフェースユニット間の接続には、インターフェースユニットに付属のDATA BUS Dケーブルを使用します。
- インターフェースユニットはディップスイッチによりアドレスを設定する必要があります。(66ページ)
- DATA BUS Dケーブルの接続が、最後になるインターフェースユニットの終端抵抗スイッチのみ「ON」にし、それ以外のユニットの終端抵抗スイッチは、「OFF」にします。





# 停電時に放送をする

## 停電放送について

本機に非常電源ユニットWP-570Bおよび蓄電池（NCB-600またはNCB-350）を接続することにより、AC100 Vが供給されない場合でも放送を行うことができます。

- 停電時に放送を行う場合、以下の方法があります。
  - ① 電源スイッチを押す
  - ② 緊急一斉放送ボタンを押す
  - ③ 緊急一斉制御端子を使用する
  - ④ 停電起動端子を使用する
  - ⑤ リモコンマイクから放送する
- 緊急一斉放送ボタンを押したときと、緊急一斉制御入力端子を使用した場合は、緊急一斉放送状態になります。
- 電源スイッチ、または停電起動端子を使用した場合は、操作パネルの一斉ボタン、スピーカー選択ボタン、グループ選択ボタンを押してアナウンスマイクなどから放送を行う必要があります。
- リモコンマイクから放送を行う場合は、インターフェースユニットのディップスイッチの設定が必要です。（66ページ）

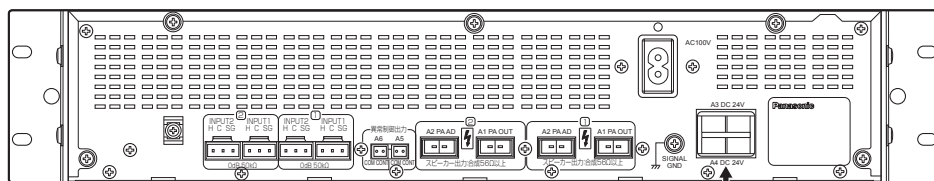


- 停電放送時にチャ임ユニットや音源機器からの放送を行う場合は、対象機器もバッテリーバックアップをする必要があります。
- 停電起動の場合、放送開始までに、2秒程度かかります。

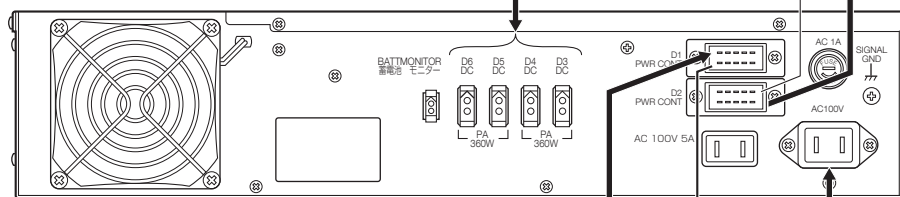
## 非常電源ユニットの接続・設定のしかた

### ■ 非常電源ユニットの接続

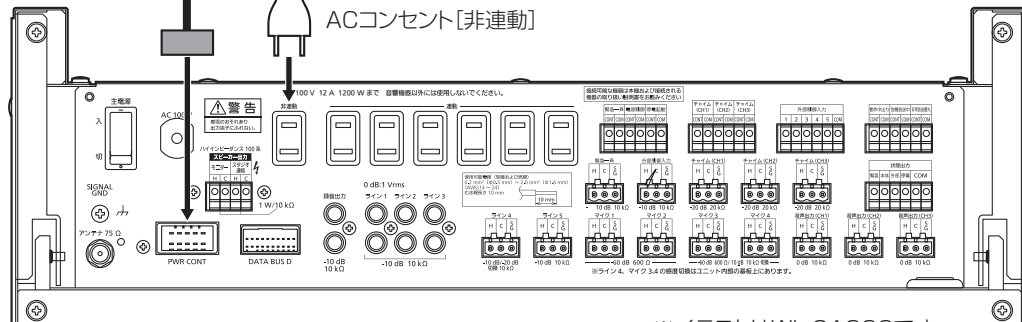
電力増幅ユニット  
(WU-PD182/PD122)



非常電源ユニット  
(WP-570B)



本機  
後面端子部



※イラストはWL-SA233です。

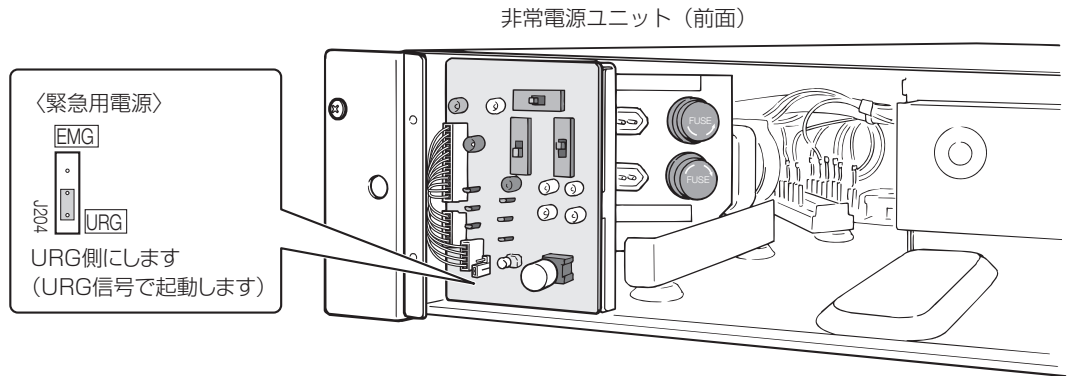
# 停電時に放送をする



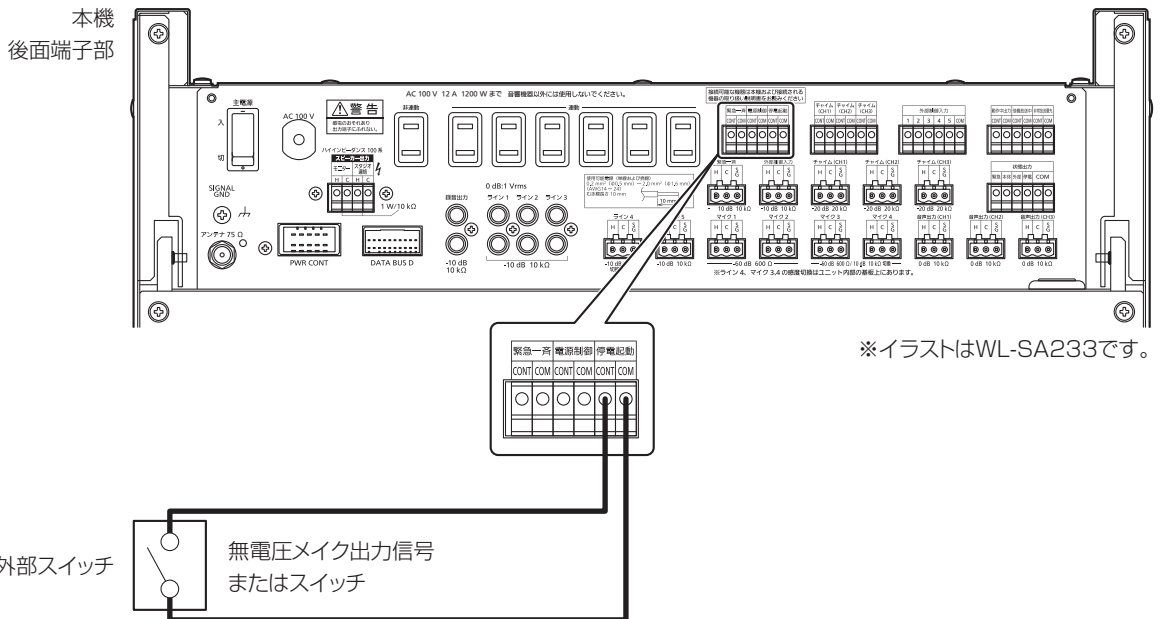
- 非常電源ユニットのAC100 Vは本機のACコンセント [非連動]、または電源制御ユニットの非常電源用コンセントに接続してください。ACコンセント [連動] に接続すると正常に充電されません。

## ■ 非常電源ユニットの設定

非常電源ユニットの前面パネルを外して、緊急用電源設定を「URG側」に変更してください。



## 停電起動端子による停電起動



※イラストはWL-SA233です。



- 本端子は、無電圧メイク入力に対応し、開放電圧5 V、短絡電流3 mAです。(トランジスタのオープンコレクター出力を接続する場合、COM側を (GND) 信号にしてください。)
- リモコンマイクから停電放送を行うこともできます。(59ページ)

## リモコンマイクからの停電起動

リモコンマイクWR-201/205A/210Aから停電起動を行い、停電放送を行うことが可能です。  
 リモコンマイクから停電起動を行う場合は、インターフェースユニットのディップスイッチ設定を行ってください。(66ページ)



- リモコンマイクからの停電放送中に、優先順位が高い「チャイム」、「外部制御入力」が起動したときは、リモコンマイクの放送は中断し、「チャイム」や「外部制御入力」の放送が停電状態でも放送されます。リモコンマイクで停電放送を終了すると、「チャイム」や「外部制御入力」の放送も終了します。

## 停電放送時間の目安

システム構成や蓄電池の種類により、放送可能時間が異なります。  
 また、放送内容や放送頻度によっても放送可能時間は異なりますので、あくまでも目安としてお考えください。

音声調整卓		増設スイッチ ユニット WU-SA203	インター フェース ユニット WU-SA205	電力増幅ユニット		停電放送可能時間（目安）*			
品番	局数			W数	品番	WP-570B 1台			
						NCB-350 1本	NCB-350 2本	NCB-600 1本	NCB-600 2本
WL-SA211	10局	0	1	60 W	WU-P51 ×1台	40分	60分	60分	120分
				120 W	WU-P52 ×1台	20分	40分	30分	60分
				240 W	WU-PD122 ×1台	20分	50分	40分	60分
				360 W	WU-PD182 ×1台	10分	30分	30分	60分
				720 W	WU-PD182 ×2台	10分	20分	10分	40分
WL-SA211	20局	1	2	60 W	WU-P51 ×1台	20分	40分	30分	60分
				120 W	WU-P52 ×1台	10分未満	20分	20分	40分
				240 W	WU-PD122 ×1台	10分	20分	20分	40分
				360 W	WU-PD182 ×1台	10分未満	20分	10分	40分
				720 W	WU-PD182 ×2台	10分未満	10分	10分	20分
WL-SA211	30局	2	3	60 W	WU-P51 ×1台	10分未満	20分	10分	30分
				120 W	WU-P52 ×1台	10分未満	10分	10分	20分
				240 W	WU-PD122 ×1台	10分未満	10分	10分	20分
				360 W	WU-PD182 ×1台	10分未満	10分	10分	20分
				720 W	WU-PD182 ×2台	10分未満	10分未満	10分未満	10分
WL-SA222	20局	0	2	120 W	WU-P51 ×2台	10分未満	20分	10分	40分
				240 W	WU-P52 ×2台	10分未満	20分	20分	40分
				240 W	WU-PD122 ×1台	10分	20分	20分	40分
				360 W	WU-PD182 ×1台	10分未満	20分	10分	40分
				720 W	WU-PD182 ×2台	10分未満	10分	10分	20分
WL-SA222	30局	1	3	120 W	WU-P51 ×2台	10分未満	20分	10分	30分
				240 W	WU-P52 ×2台	10分未満	10分	10分	20分
				240 W	WU-PD122 ×1台	10分未満	10分	10分	20分
				360 W	WU-PD182 ×1台	10分未満	10分	10分	20分
				720 W	WU-PD182 ×2台	10分未満	10分未満	10分未満	10分
WL-SA233	30局	0	3	180 W	WU-P51 ×3台	10分未満	10分	10分未満	20分
				360 W	WU-P52 ×3台	10分未満	10分未満	10分未満	10分
				480 W	WU-PD122 ×2台	10分未満	10分	10分未満	20分
				720 W	WU-PD182 ×2台	10分未満	10分未満	10分未満	10分

※ 停電放送可能時間は、一斉放送状態で、電力増幅ユニットは定格の1/8の出力で算出。

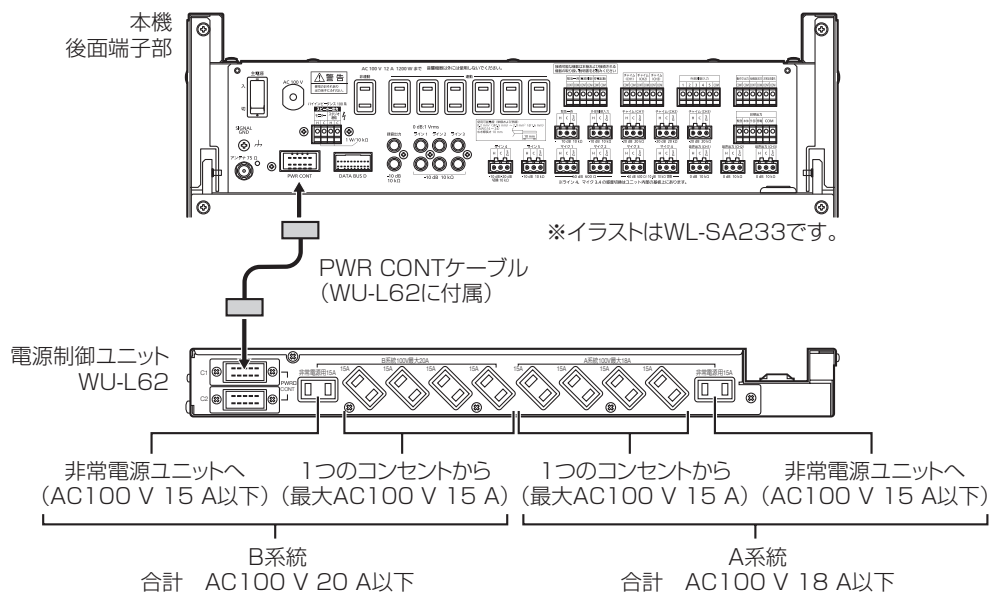
# 電源制御ユニットの接続

## 電源制御ユニットが必要な場合

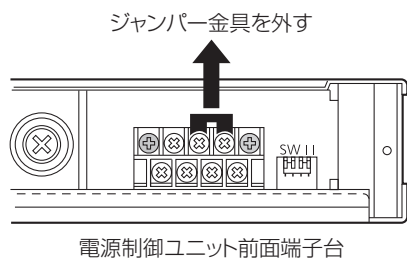
本機の後面端子部には、連動、非連動あわせて1200 Wの機器が接続できるACコンセントがありますが、電力増幅ユニットや音源機器などの接続により、容量やコンセント数が不足する場合に電源制御ユニットWU-L62を増設します。

### ■ 接続のしかた

- 本機と電源制御ユニット（WU-L62）を電源制御ユニットに付属のPWR CONTケーブルで接続します。



- 電源制御ユニットの前面端子のジャンパー金具を外します。



### ■ AC電源の接続

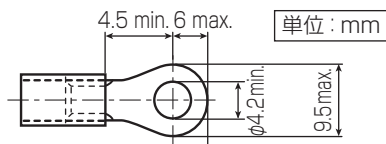


#### 警告

AC電源線を接続する際は、指定の線材と方法で確実に接続してください。  
発煙・発火の原因となります。

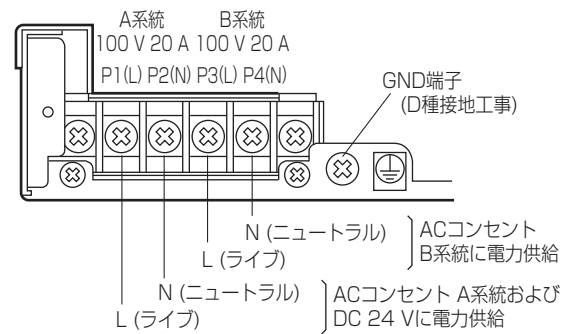
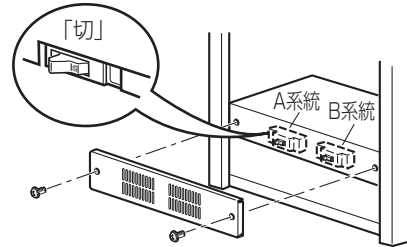
#### ● 使用できる電線と端子

- 電線は、直径1.6 mm以上（単線）、2.0 mm以上（より線）を使用してください。
- 電源制御ユニット（WU-L62）に付属の丸端子または、下図の寸法に適合するJIS C 2805 銅線用絶縁被覆付圧着端子 RAV2-4、RAP2-4（適用電線断面積2.0 mm<sup>2</sup>、φ1.6 mm）RAV5.5-4 5.5-5、RAP5.5-4 5.5-5（適用電線断面積5.5 mm<sup>2</sup>、φ3.0 mm）をご使用ください。
- 丸端子を圧着加工する際は、適合する指定の工具を使用してください。  
付属の丸端子：日本圧着端子製造株式会社「RAP5.5-5」



## ●電源線の接続

- 1 接続する分電盤のブレーカーを「切」にする。
- 2 2本のねじをゆるめ、WU-L62の前面パネルを外し、前面のブレーカーが「切」になっていることを確認する。
- 3 系統ごと（A、B）に分電盤からの配線を分けて直接接続する。

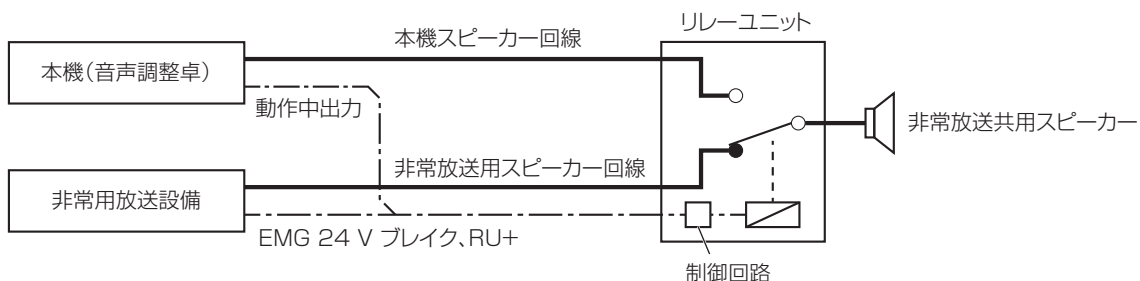


- 使用できる電源（分電盤）は、20 Aまたは30 Aです。
- 内線規程により、30 Aを超える電源（分電盤）へは、接続できません。
- 電線の抜け防止、接触不良による不安定を防止するため、必ず付属の丸端子を使用してください。

# 非常用放送設備とスピーカーを共用する場合

## リレーユニットについて

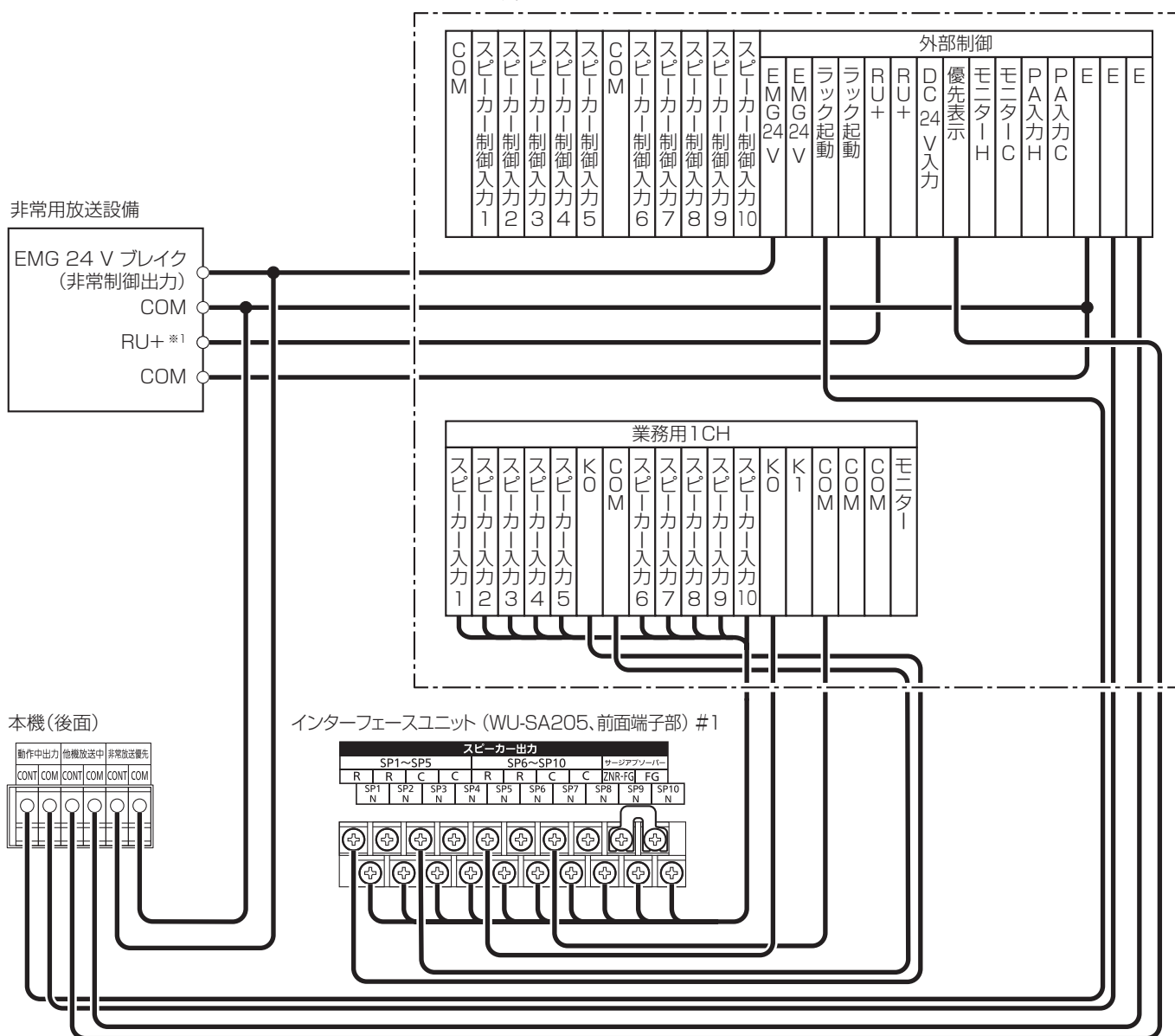
- リレーユニットWU-R72/R73を使用することで、非常用放送設備のスピーカー（非常放送用スピーカー）から本機の放送を行うことができます。
- 非常用放送設備から業務放送を行うときや、火災発生時などの非常放送時は、非常用放送設備のスピーカー回線に切り換え、非常用放送設備の放送が優先されます。



## WL-SA211で非常放送用スピーカーを共用する場合

WL-SA211（10局）で非常放送用スピーカーと本機のスピーカーを共用する場合は、WU-R73を使用します。

リレーユニット WU-R73



- リレーユニットWU-R73を使用する場合、リレーユニットのジャンパーコネクタ-CN105の差し換えが必要です。CN105を「ラック」側にします。



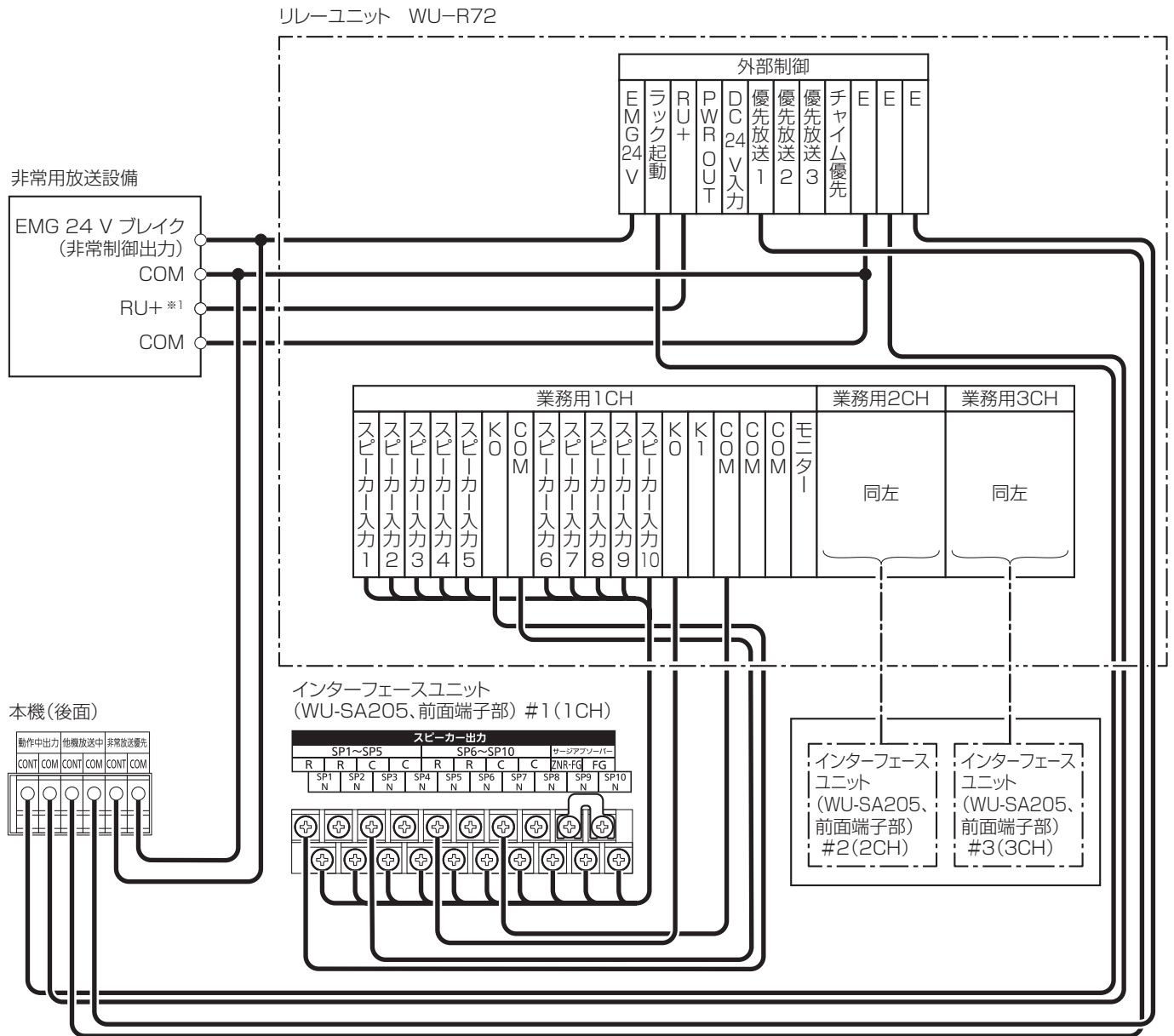
- 非常用放送設備のスピーカー回線 (N, R, C) をリレーユニットに接続する必要があります。
- スピーカーケーブルは、耐熱電線をご使用ください。
- 10局以上のスピーカーを非常放送用スピーカーと兼用する場合は、WU-R73を複数台、またはWU-R72を使用します。
- 非常用放送設備からの「RU+」信号を接続しない場合は、火災発生時などの非常放送時のみ放送設備側に切り換わります。(※1)



# 非常用放送設備とスピーカーを共用する場合

## WL-SA222 / SA233で非常放送用スピーカーを共用する場合

WL-SA222 (2系統10局)、WL-SA233 (3系統10局) で非常放送用スピーカーと本機のスピーカーを共用する場合は、WU-R72を使用します。



- リレーユニットWU-R72を使用する場合、リレーユニットのジャンパーコネクタ-CN22の差し換えが必要です。CN22を「ラック」側にします。

CN22



デスク [ ] ラック [ ]



- 非常用放送設備のスピーカー回線 (N、R、C) をリレーユニットに接続する必要があります。
- スピーカーケーブルは、耐熱電線をご使用ください。
- 非常用放送設備からの「RU+」信号を接続しない場合は、火災発生時などの非常放送時のみ放送設備側に切り換わります。(※1)

# 設定のしかた

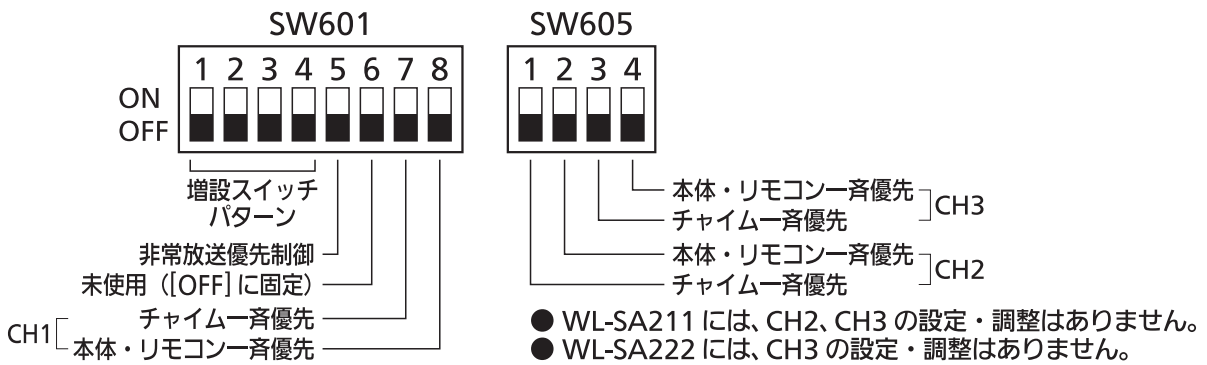
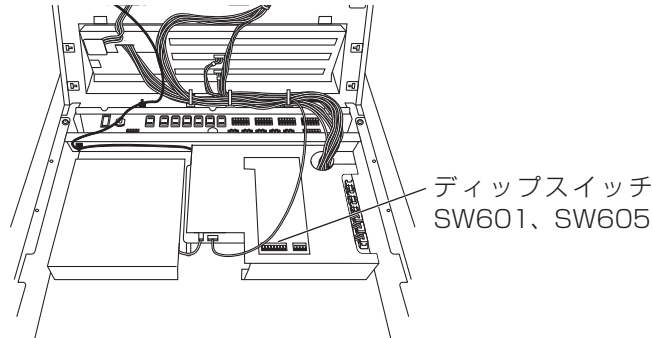
## ディップスイッチの設定

### ■ 音声調整卓

本機内部のディップスイッチにより、システム構成や機能の設定を行います。



- 本ディップスイッチの設定変更後は、本機の主電源スイッチを「入/切」して、再起動してください。



### ● 増設スイッチユニットパターン

系統数	1系統	1系統	1系統	2系統	2系統	3系統
スイッチユニット、増設スイッチユニット接続コネクター	WL-SA211 工場出荷時設定	WL-SA211に 10局増設	WL-SA211に 20局増設	WL-SA222 工場出荷時設定	WL-SA222の 1系統に10局 増設	WL-SA233 工場出荷時設定
#1	1系統/ SP1~10	1系統/ SP1~10	1系統/ SP1~10	1系統/ SP1~10	1系統/ SP1~10	1系統/ SP1~10
#2	—	1系統/ SP11~20	1系統/ SP11~20	2系統/ SP1~10	1系統/ SP11~20	2系統/ SP1~10
#3	—	—	1系統/ SP21~30	—	2系統/ SP1~10	3系統/ SP1~10
ディップ スイッチ設定	SW601 ON OFF 1 2 3 4 5	SW601 ON OFF 1 2 3 4 5	SW601 ON OFF 1 2 3 4 5	SW601 ON OFF 1 2 3 4 5	SW601 ON OFF 1 2 3 4 5	SW601 ON OFF 1 2 3 4 5

# 設定のしかた

## ● 機能

スイッチ No.	設定項目	機能	ディップスイッチ設定		本書の参照ページ	補足
			ON	OFF		
SW601 1~4	増設スイッチユニット パターン設定	増設スイッチユニットを増設する際に系統（チャンネル）ごとの局数を決定します。			—	増設スイッチユニットを追加しない場合は設定は工場出荷時のままにします。
SW601 5	非常放送優先制御	非常放送設備からの非常制御信号を接続することにより、非常放送時に本機の放送を中断させます。	接続する	接続しない*	46	非常用放送設備からの非常制御信号を接続していないのに「ON」にすると、非常放送優先状態となり本機からの放送ができなくなります。
SW601 7、8 SW605 1~4	チャイム一斉優先 本機・リモコンマイク一斉優先	チャイム一斉放送時に、アッテネーター（音量調整器）の設定がOFFであっても放送ができます。 本機または、リモコンマイクの一斉ボタンを押したときにアッテネーター（音量調整器）の設定がOFFであっても放送ができます。	する	しない*	71 12、51	<ul style="list-style-type: none"> <li>● WL-SA222/SA233は系統（チャンネル）ごとに設定が可能です。</li> <li>● スピーカーが3線式配線の場合のみ動作します。</li> </ul>

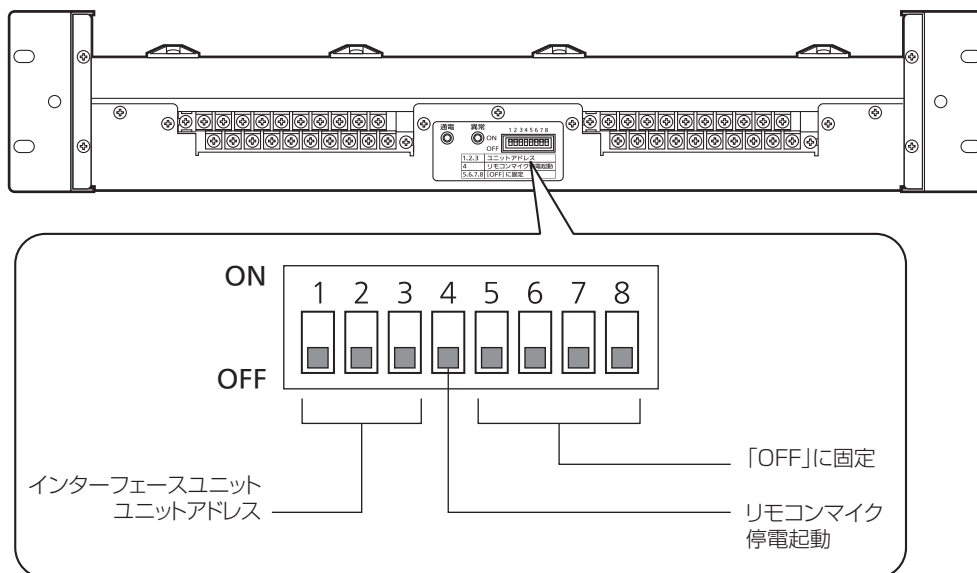
※：工場出荷設定

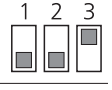
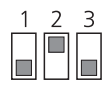
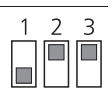
## ■ インターフェースユニット

インターフェースユニット前面端子部のディップスイッチにより、ユニットアドレスと停電時のリモコンマイク放送の設定を行います。

本ディップスイッチの設定変更後は、音声調整卓の主電源スイッチを「切/入」して、再起動してください。

インターフェースユニット  
(WU-SA205)  
前面端子部



スイッチ No.	設定項目	機能	ディップスイッチ設定		本書の参照ページ	補足
			ON	OFF		
1~3	ユニットアドレス	インターフェースユニットを複数台接続するときのアドレスを設定します。	1台目	ON 	56	重複設定禁止
			2台目	ON 		
			3台目	ON 		
4	リモコンマイク 停電起動	停電時、リモコンマイクからの放送を行うのかを設定します。	する	しない*	59	停電放送が行えるシステム構成にする必要があります。

※：工場出荷設定

## ■ 増設スイッチユニットとインターフェースユニットの関係



- スピーカー選択ボタンとインターフェースユニットのスピーカー回線は1対1に対応させる必要があります。増設スイッチユニット（WL-SA203）とインターフェースユニット（WU-SA205）を増設した場合は、スイッチユニット、増設スイッチユニットのコネクター接続とインターフェースユニットのユニットアドレスの設定が下表と同じであるか確認してください。

設定および接続		WL-SA211			WL-SA222		WL-SA233
WU-SA205 ユニットアドレス ディップスイッチ 設定	スイッチユニット 本体内部 接続コネクター	工場出荷状態	WL-SA203 1台増設	WL-SA203 2台増設	工場出荷状態	1系統に WL-SA203 1台増設	工場出荷状態
1台目 ON  OFF	#1	1系統/ SP1~10	1系統/ SP1~10	1系統/ SP1~10	1系統/ SP1~10	1系統/ SP1~10	1系統/ SP1~10
2台目 ON  OFF	#2	—	1系統/ SP11~20	1系統/ SP11~20	2系統/ SP1~10	1系統/ SP11~20	2系統/ SP1~10
3台目 ON  OFF	#3	—	—	1系統/ SP21~30	—	2系統/ SP1~10	3系統/ SP1~10

# 設定のしかた

## システム設定について

建物の形状や放送の目的に合わせて、各起動入力放送時やグループ選択ボタンによる本体放送時に出力するスピーカー回線を設定する必要があります。システム設定は本機を「設定モード」にすることで可能となります。また、設定可能な項目および設定範囲は下記のとおりです。

設定項目	システムをまたがる設定		WL-SA211			WL-SA222		WL-SA233	
			工場出荷状態	WL-SA203 1台増設	WL-SA203 2台増設	工場出荷状態	1系統に WL-SA203 1台増設	工場出荷状態	
グループ選択ボタン 1～5	不可	設定範囲	系統1： SP1～10	系統1： SP1～20	系統1： SP1～30	系統1： SP1～10 系統2： SP1～10 *	系統1： SP1～20 系統2： SP1～10 *	系統1： SP1～10 系統2： SP1～10 系統3： SP1～10 *	
		初期設定	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	
チャイム入力	不可	CH1	設定範囲	系統1： SP1～10	系統1： SP1～20	系統1： SP1～30	系統1： SP1～10	系統1： SP1～20	系統1： SP1～10
			初期設定	系統1： SP1～10	系統1： SP1～20	系統1： SP1～30	系統1： SP1～10	系統1： SP1～20	系統1： SP1～10
		CH2	設定範囲	設定不可	設定不可	設定不可	系統2： SP1～10	系統2： SP1～10	系統2： SP1～10
			初期設定	—	—	—	系統2： SP1～10	系統2： SP1～10	系統2： SP1～10
		CH3	設定範囲	設定不可	設定不可	設定不可	設定不可	設定不可	系統3： SP1～10
			初期設定	—	—	—	—	—	系統3： SP1～10
外部制御入力 1～5	可能	設定範囲	系統1： SP1～10	系統1： SP1～20	系統1： SP1～30	系統1： SP1～10 系統2： SP1～10	系統1： SP1～20 系統2： SP1～10	系統1： SP1～10 系統2： SP1～10 系統3： SP1～10	
		初期設定	外部制御入力1： 系統1： SP1～SP10 外部制御入力 2～5： 設定なし	外部制御入力1： 系統1： SP1～SP20 外部制御入力 2～5： 設定なし	外部制御入力1： 系統1： SP1～SP30 外部制御入力 2～5： 設定なし	外部制御入力1： 系統1： SP1～SP10 系統2： SP1～SP10 外部制御入力 2～5： 設定なし	外部制御入力1： 系統1： SP1～SP20 系統2： SP1～SP10 外部制御入力 2～5： 設定なし	外部制御入力1： 系統1： SP1～SP10 系統2： SP1～SP10 系統3： SP1～SP10 外部制御入力 2～5： 設定なし	

- SPIはスピーカー回線を示します。また、スピーカー回線とスピーカー選択ボタンは、1対1で対応しています。
- 「初期設定」は工場出荷時やシステム設定初期化後の設定です。



- すべての放送が行われていない状態のときのみ設定モードに入ることができます。
- システム設定（設定モード）中は、すべての放送を行うことはできません。



- 増設スイッチユニット、インターフェースユニットを増設する場合は、増設後にシステム設定を行ってください。

## システム設定表の作成について

システム設定を行う前に、チャイム、外部制御入力、グループ選択ボタンの放送エリアを「システム設定表」(78ページ)に記載します。

			①										②						
			システム (チャンネル番号) *1										スピーカー (SP)						
			1																
			スピーカー回線番号										1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17						
		インターフェイスユニット	アドレス					アドレス1					アドレス2						
			SP回線番号										1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17						
ボタン/ 入力種別	優先順位 ※2	No.	回線名称																
			ボタン/入力名称																
			1 年生 教室	2 年生 教室	3 年生 教室	4 年生 教室	5 年生 教室	6 年生 教室	職員 室	体育 館	プー ル	校 庭							
チャイム	2		ウエストミンスターの鐘																
外部制御 入力	3	1	朝会放送																
		2	登・下校放送																
		3																	
		4																	
		5																	
グループ 選択 ボタン	4	1	1階教室																
		2	2階教室																
		3	3階教室																
		4																	
		5																	

① 系統 (チャンネル) 番号を記入します。WL-SA211は1系統、WL-SA222は2系統、WL-SA233は3系統となります。

② スピーカー選択ボタンまたは、スピーカー回線No.に対する放送場所の名称を記入します。

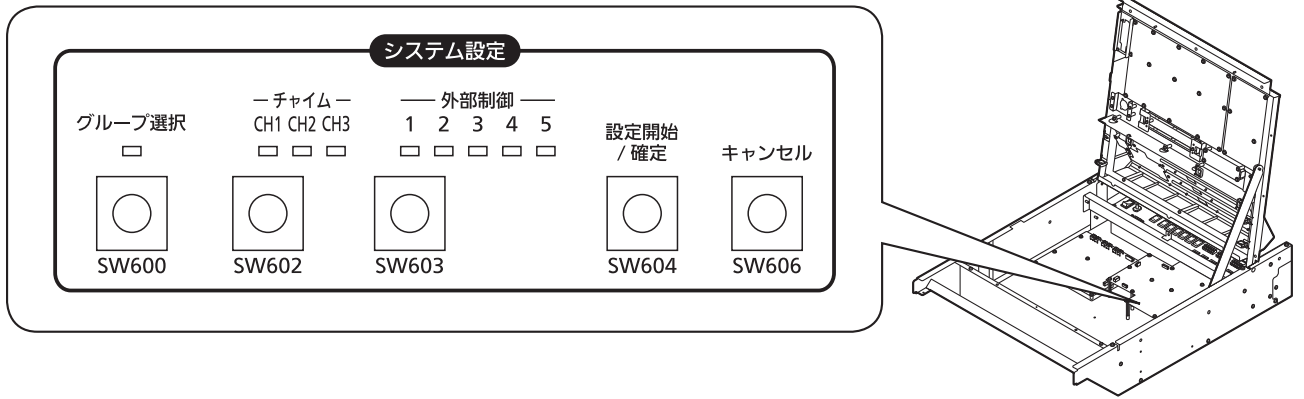
③ チャイム、外部制御入力、グループ選択ボタンの名称などを記入します。

④ チャイム、外部制御入力が入力された場合、グループ選択ボタンが押されたときに選択される放送場所に「○」を記入します。

# 設定のしかた

## システム設定モードへ移行する

主電源スイッチおよび電源スイッチが「入」で、放送を行っていないときのみ設定モードに入ることができます。本機内部のシステム設定用の〔設定開始/確定〕ボタンを押しながら、設定を行いたい〔グループ選択〕ボタン、〔チャイム〕ボタン、〔外部制御〕ボタンを押すことで、設定モードに移行し、それぞれの設定が可能となります。



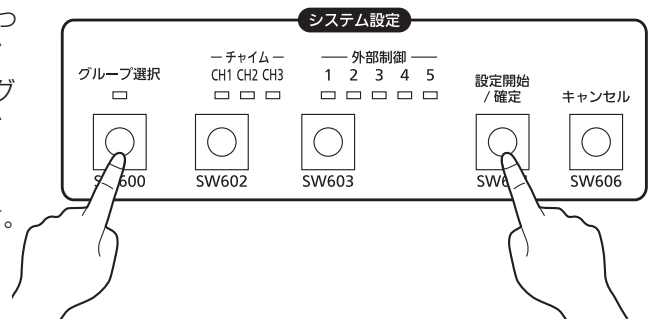
## グループ選択ボタン設定

- グループ選択ボタンは、あらかじめ設定した複数のスピーカー選択ボタンを一括してON/OFFすることができます。
- 同じ系統（チャンネル）内のスピーカー選択ボタンをまとめることができます。複数の系統（チャンネル）をまたがる設定はできません。（WL-SA222/SA233の場合のみ）

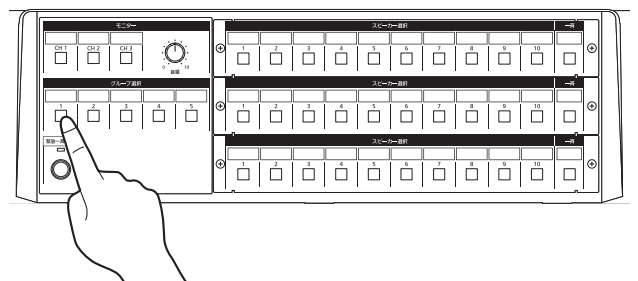
### ● 操作方法

**1** 主電源スイッチ「入」、電源スイッチ「入」で放送を行っていない状態で、操作パネルを開き、グループ選択ボタンを押しながら設定開始/確定ボタンを押します。グループ選択表示灯が点滅（緑色）し、グループ選択ボタンの設定が可能になります。

- 操作パネルのグループ選択ボタン1が点滅（緑色）します。

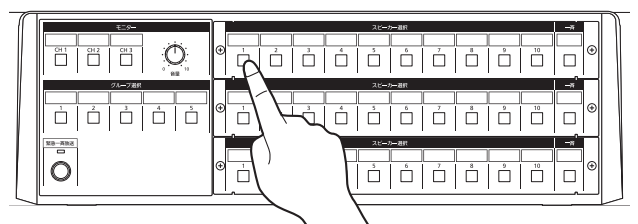


**2** 操作パネルを閉め、いずれかの〔グループ選択〕ボタンを選択すると、そのボタンの表示灯が点滅（緑色）します。選択したグループ選択ボタンに設定されているスピーカー選択ボタンの表示灯が点滅（緑色）します。以前の設定がない場合は消灯しています。



**3** 放送を行うスピーカー選択ボタンを押すと、そのボタンの表示灯が点滅（緑）し、選択状態となります。再度押すと消灯し、選択は解除されます。

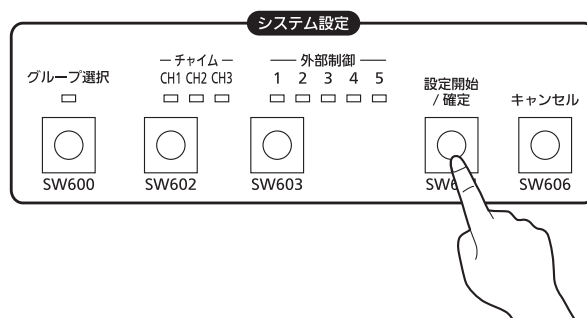
- ※ モニターボタンを押すとその系統（チャンネル）のスピーカー回線をすべて選択することができます。





4 他のグループ選択ボタンを設定する場合は、そのグループ選択ボタンを押すと、今まで設定していたグループ選択ボタンの内容は保持しながら、選択したグループ選択ボタンに切り換わりますので、そのグループ選択ボタンで放送を行うスピーカー選択ボタンを選択します。

5 設定終了後再度操作パネルを開き、設定開始/確定ボタンを押すと設定が完了し、設定内容が記憶され、設定は終了します。



※ 設定を中断するときは、キャンセルボタンを押してください。このとき設定中の内容は破棄されます。



- システム設定中に主電源スイッチが、「切」になった場合は、グループ選択ボタンの設定を行う前の設定データのままとなります。
- 一斉ボタンで、スピーカー回線選択を行うことはできません。

## チャイム放送設定

チャイム制御入力は、あらかじめ設定した放送エリアへチャイム音声入力の音声を放送することができます。チャイム制御入力の放送エリアは同じ系統（チャンネル）の複数スピーカー回線を設定することができます。



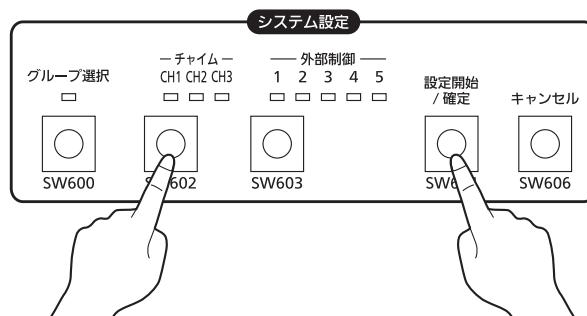
- チャイム制御入力は、系統（チャンネル）ごとに設定を行います。複数の系統（チャンネル）をまたがる設定はできません。（WL-SA222/SA233の場合のみ）

### ● 操作方法

1 主電源スイッチ「入」、電源スイッチ「入」で放送を行っていない状態で、操作パネルを開き、チャイムボタンを押しながら設定開始/確定ボタンを押します。

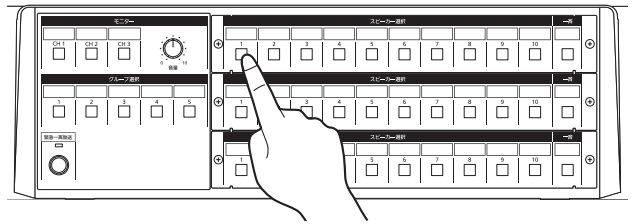
チャイム表示灯のCH1が点灯（緑色）し、チャイム制御入力の設定が可能な状態になります。

CH2、CH3のチャイム制御入力を選択する場合は、続けて、チャイムボタンを押すことにより、1→2→3→1→2…の順番に切り換わります。（WL-SA222/SA233の場合のみ）



# 設定のしかた

**2** 操作パネルを閉め、チャイム制御入力で放送を行うスピーカー選択ボタンを押すとボタンの表示灯が点滅（緑色）し、そのスピーカー回線が選択されます。再度押すと消灯し、選択は解除されます。



**■ 放送先を個別で選択する場合**

- 点灯しているチャイム制御入力設定表示灯と同じチャンネル（CH）のスピーカー選択ボタンのみ設定することができます。
- モニターボタンを押すとその系統（チャンネル）のスピーカー回線をすべて選択状態にすることができます。この状態でスピーカー選択ボタンを押すとそのスピーカー回線の選択は解除できます。

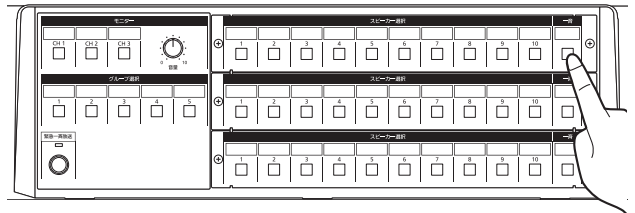


- 任意の系統でスピーカー回線を選択している場合はスピーカー回線選択をすべて解除すると別系統のスピーカー回線を選択することができます。

**■ 優先一斉放送をする場合**

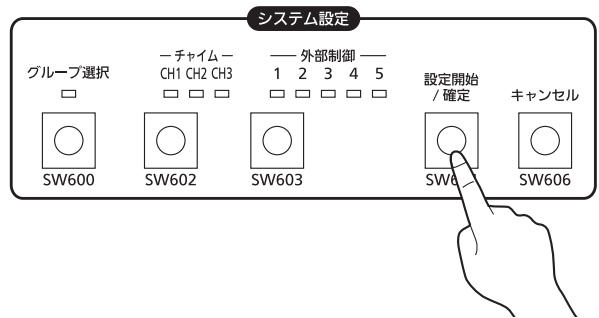
スピーカーのアッテネーター（音声調整器）の設定によらず、優先一斉放送ができます。

チャイム一斉優先放送したいチャンネルのディップスイッチ（65ページ）をONにした状態で一斉ボタンを押すと、その系統（チャンネル）の一斉ボタンおよび全スピーカー選択ボタンの表示灯が点滅（緑色）します。



- 放送先を個別にすべて選択した場合は、優先一斉放送を行うことはできません。この場合、ディップスイッチの優先一斉設定は無効になり、アッテネーター（音量調整器）有効の放送となります。

**3** 設定終了後再度操作パネルを開き、設定開始/確定ボタンを押すと設定が完了し、設定内容が記憶され、設定は終了します。



※ 設定を中断するときは、キャンセルボタンを押してください。このとき設定中の内容は破棄されます。



- チャイム制御入力は、工場出荷時はすべてのスピーカー回線が設定されていますが、以前の放送先設定が残っている場合は設定された放送先の表示灯のみ点滅状態になります。
- 異なる系統（チャンネル）のチャイム制御入力もあわせて設定することが可能です。（WL-SA222/SA233の場合のみ）
  - ① ほかの系統（チャンネル）のチャイム制御入力を設定したいときは、設定開始/確定ボタンを押す前に、チャイムボタンを押すことにより、1→2→3→1→2…の順番に切り換わります。このとき、以前に設定した系統（チャンネル）のチャイム制御入力設定は記憶されています。（WL-SA222は1→2→1…の繰り返し）
  - ② 再度、スピーカー選択ボタンで同じ操作を繰り返し、最後に設定開始/確定ボタンを押してください。

## 外部制御入力による放送設定

- 外部制御入力時の放送エリア（スピーカー回線）の設定が行えます。外部制御入力番号ごとに設定を行うことができます。



- 外部制御入力設定は、CH1/CH2/CH3のスピーカー回線（放送エリア）をまたがって設定することができます。（WL-SA222/SA233の場合のみ）

### ● 操作方法

**1** 主電源スイッチ「入」、電源スイッチ「入」で放送を行っていない状態で、操作パネルを開き、外部制御ボタンを押しながら設定開始/確定ボタンを押します。外部制御1の表示灯が点灯し、設定状態となり、設定モードに入ります。

別の外部制御入力を選択する場合は、続けて、外部制御ボタンを押すことにより、2→3→4→5→1…の順番に切り換わります。

**2** 操作パネルを閉め、外部制御入力により放送を行うスピーカー選択ボタンを選択します。  
すでに外部制御入力に選択されているボタンが点滅（緑色）し、未選択ボタンが消灯しています。  
スピーカー選択ボタンを押すことで、選択状態が切り替わります。

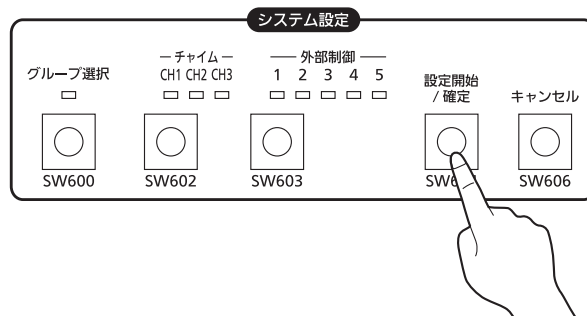
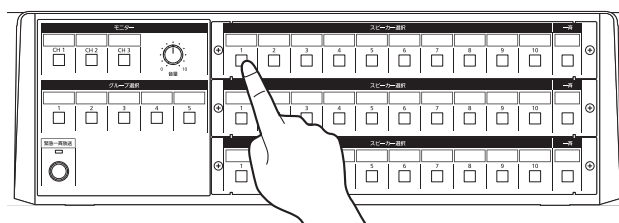
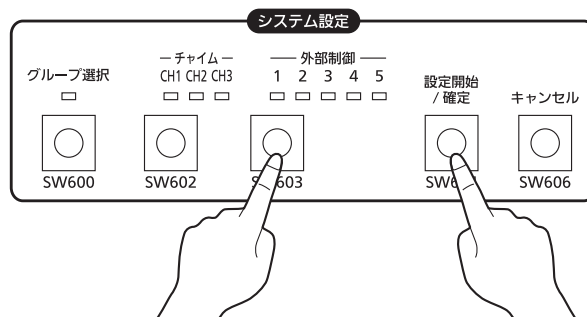
※ モニターボタンを押すとその系統（チャンネル）のスピーカー回線をすべて選択することができます。

**3** 設定終了後再度操作パネルを開き、設定開始/確定ボタンを押すと設定が完了し、設定内容が記憶され、設定モードが解除されます。

※ 設定を中断するときはキャンセルボタンを押してください。このとき設定中の内容は破棄されます。



- 工場出荷時、外部制御入力1はすべてのスピーカー回線が設定されていますが、以前の放送先設定が残っている場合は設定された放送先の表示灯のみ点滅状態になります。
- ほかの外部制御入力を設定する場合は、グループ選択ボタンで外部制御入力を切り換えることが可能です。グループ選択ボタンの番号と外部制御入力の番号が対応しています。
- 一斉ボタンによるスピーカー回線選択を行うことはできません。



# 設定のしかた

## システム設定の初期化

グループ選択ボタン設定、チャイム放送設定、外部制御入力設定を工場出荷時の状態に戻します。

### ●操作方法

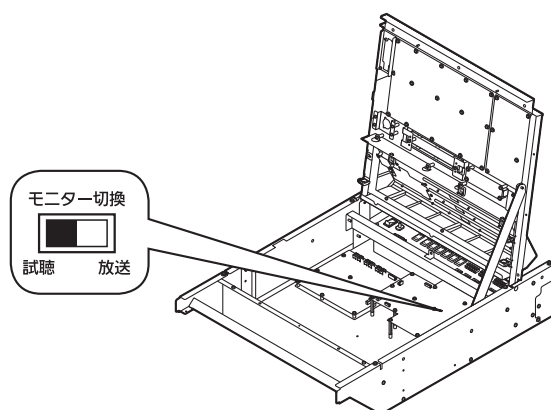
- 1 主電源スイッチが「切」の状態キャンセルボタンを押しながら主電源スイッチを「入」にする。  
初期化が実行されます。初期化が完了すると外部制御入力設定1～5表示灯が3秒間点灯します。



- 初期化実行中に主電源スイッチを「切」にしないでください。

## モニター切換設定

モニタースピーカーで放送されている音声、または放送しようとする音声を聞くことができます。モニターする音声をモニター切換スイッチで切り換えることができます。



[試聴]：主音量を絞っていても音を聞くことができます。

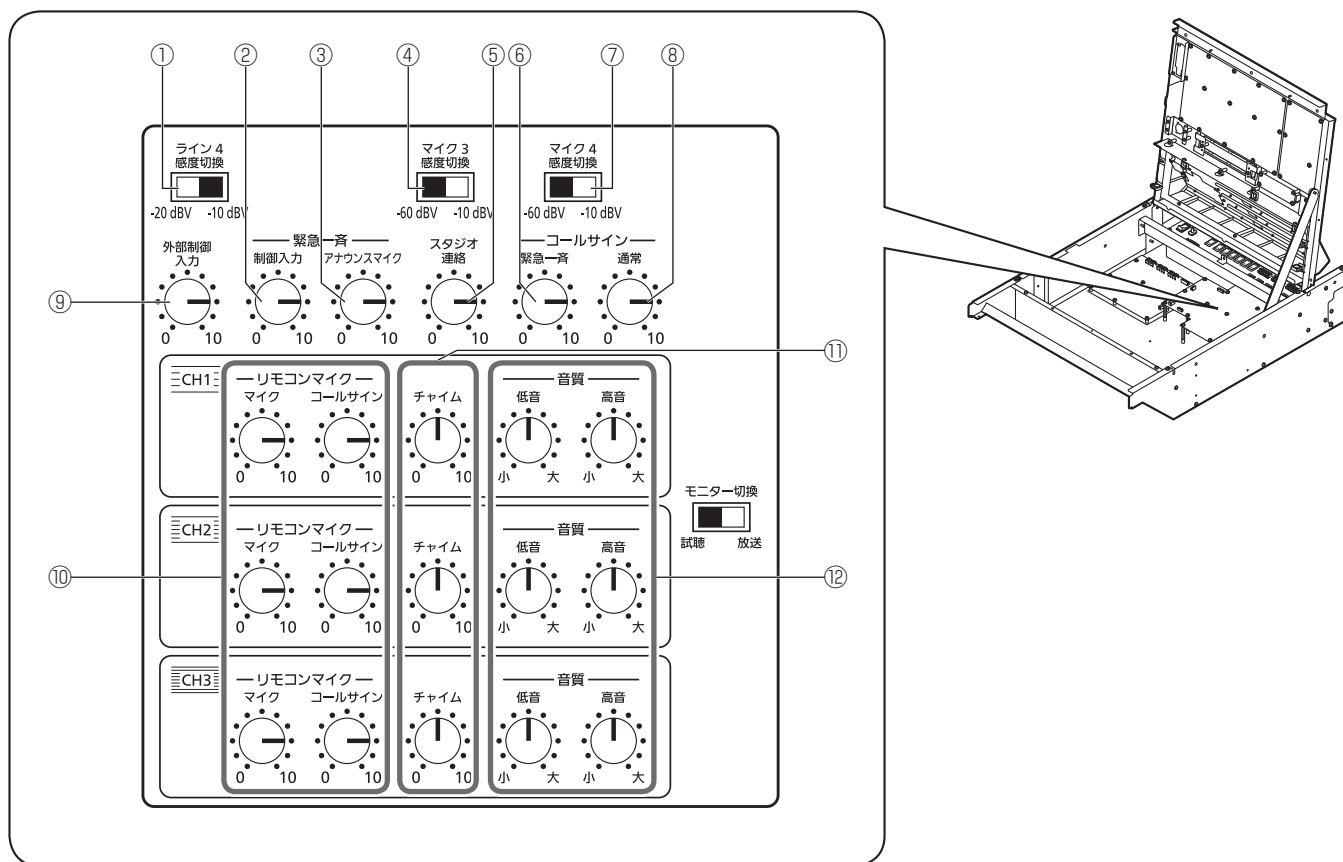
放送前にあらかじめ音声を確認するときにスイッチをこの位置にします。

[放送]：実際に放送エリアにスピーカーから出ている音に近い音を聞くことができます。

# 調節のしかた・表示ラベルの貼り付け

## 本機内部の調節

本機内部に各入力の音量調節や感度切換、音質調節のボリュームがあります。



### ① ライン4感度切換

ライン4入力の感度を-10 dB/-20 dBに切り換えることができます。接続する機器によって切り換えます。

### ② 緊急一斉音声入力音量調節

緊急一斉放送時に緊急一斉音声入力の音量を調節します。反時計方向（左回り）に回すと音量が下がります。

### ③ 緊急一斉放送時のアナウンスマイク音量調節

緊急一斉放送時のアナウンスマイクの音量を調節します。反時計方向（左回り）に回すと音量が下がります。緊急一斉放送時は、操作パネルの入力ボリュームによる調節は無効になります。

### ④ マイク3感度切換

マイク3入力の感度を-60 dB/-10 dBに切り換えることができ、ライン入力機器を接続することができます。

### ⑤ スタジオ連絡音量調節

アナウンスマイクからのスタジオ連絡時の音量を調節します。反時計方向（左回り）に回すと音量が下がります。

### ⑥ コールサイン（緊急一斉放送時）

緊急一斉放送時に操作パネルのコールサインボタンを押したときのコールサインの音量を調節します。反時計方向（左回り）に回すと音量が下がります。

### ⑦ マイク4感度切換

マイク4入力の感度を-60 dB/-10 dBに切り換えることができ、ライン入力機器を接続することができます。

### ⑧ コールサイン（通常時）

通常（緊急一斉放送以外）時に操作パネルのコールサインボタンを押したときのコールサインの音量を調節します。反時計方向（左回り）に回すと音量が下がります。アナウンスマイクの入力ボリュームではコールサインの音量は変わりません。

### ⑨ 外部制御入力音量調節

外部制御入力の音量を調節します。反時計方向（左回り）に回すと音量が下がります。

### ⑩ リモコンマイク音量調節

リモコンマイク音声入力の音量を調節します。反時計方向（左回り）に回すと音量が下がります。リモコンマイク音量は、系統（チャンネル）ごとに調節が可能です。（WL-SA222/SA233のみ）

### ⑪ チャイム音量調節

チャイム音声入力の音量を調節します。反時計方向（左回り）に回すと音量が下がります。チャイム音量は、系統（チャンネル）ごとに調節が可能です。（WL-SA222/SA233のみ）

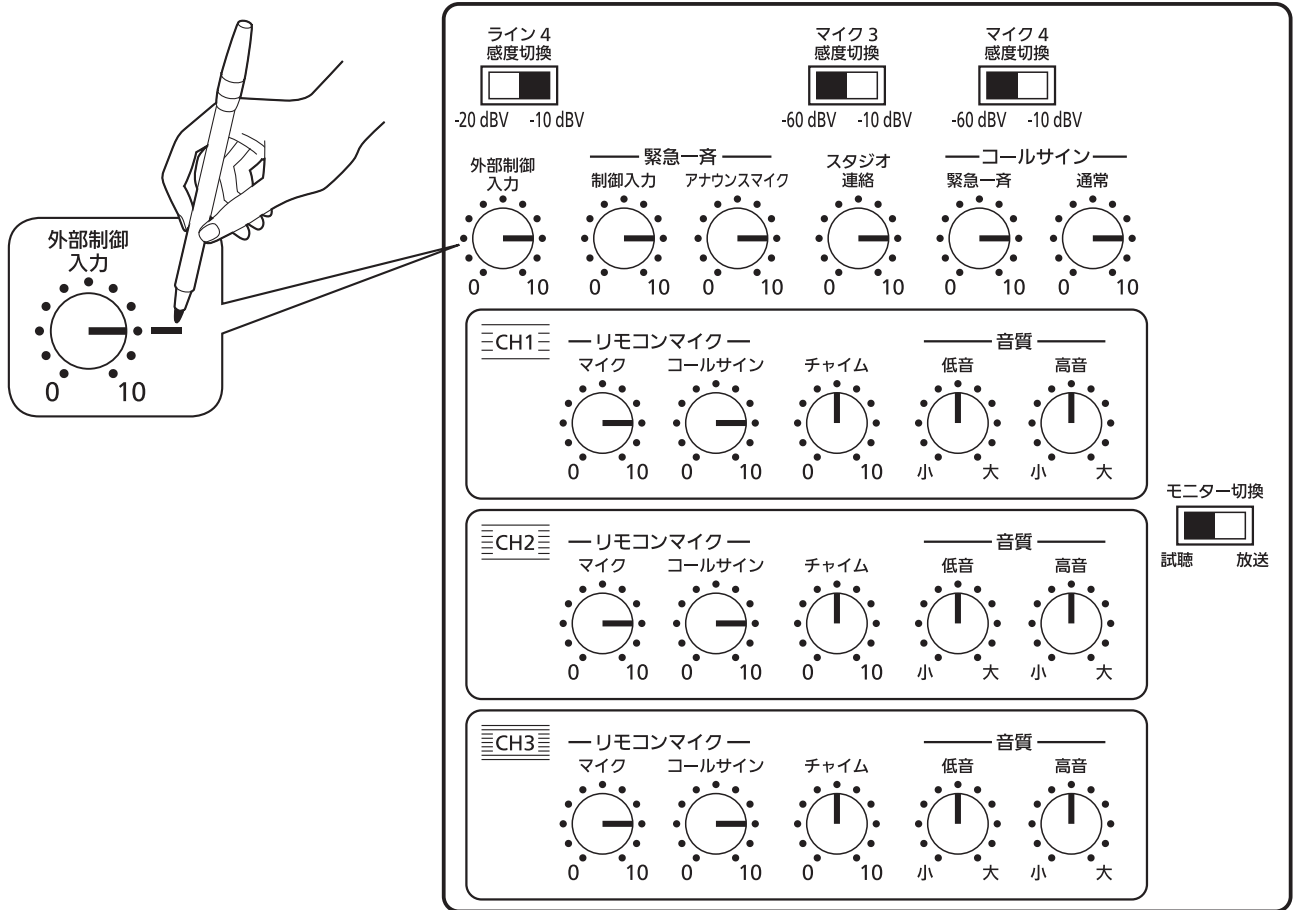
### ⑫ 音質調節ボリューム

アナウンスマイク、ライン、マイクの音声出力の音質（高音・低音）を系統（チャンネル）ごとに調節します。それぞれ右方向へ回すと強調され、左方向へ回すと弱くなります。通常は“12時”の位置で使用します。

# 調節のしかた・表示ラベルの貼り付け

## ボリューム調節位置の記入

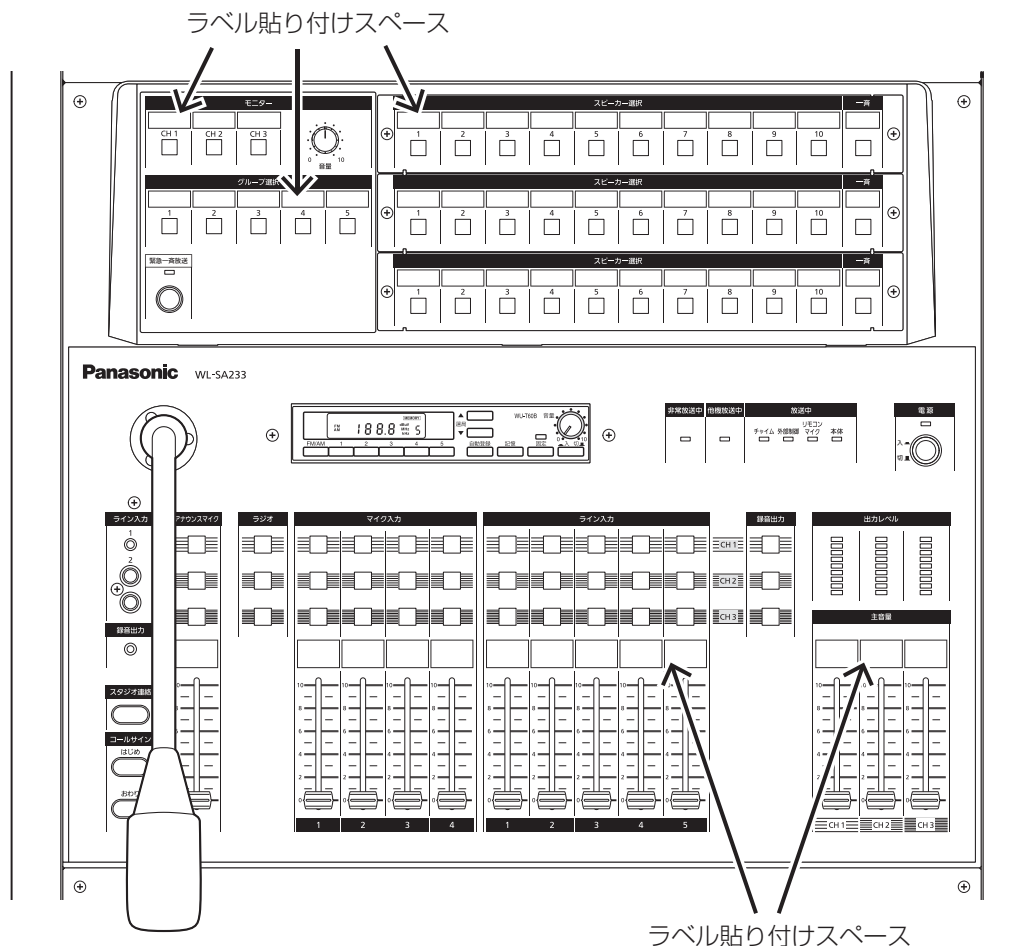
各種ボリューム調節後に、本機に油性ペンでボリュームの位置を記入すると、調節位置がわかり便利です。



## 操作パネルのラベル貼り付け

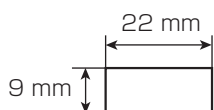
### ■ ボタン、入力ボリューム、主音量ボリューム名称表示

ボタンやボリュームごとにラベル貼り付けスペースがあります。ラベルライターなどでラベルを作成し、貼り付けてください。

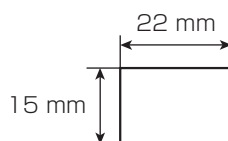


ラベル貼り付けスペースの寸法は以下のとおりです。

- モニター、グループ選択、スピーカー選択



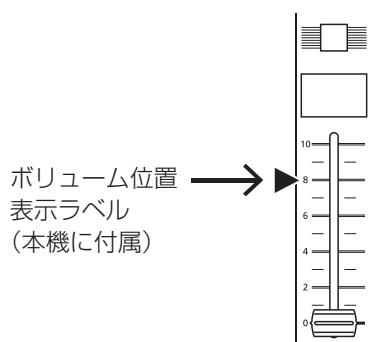
- アナウンスマイク、マイク入力、ライン入力、主音量



### ■ 入力・主音量・モニター音量調節ボリュームの音量表示

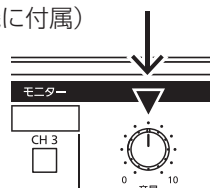
あらかじめ決めた音量で放送ができるように、ボリューム位置を示すマーキングラベル（付属品）を貼り付けます。

- 入力ボリューム・主音量ボリューム



- モニター音量調節ボリューム

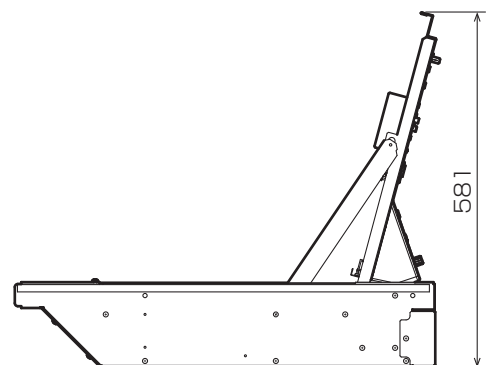
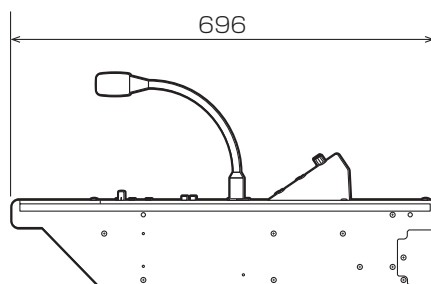
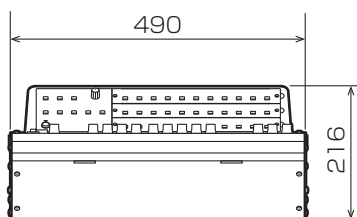
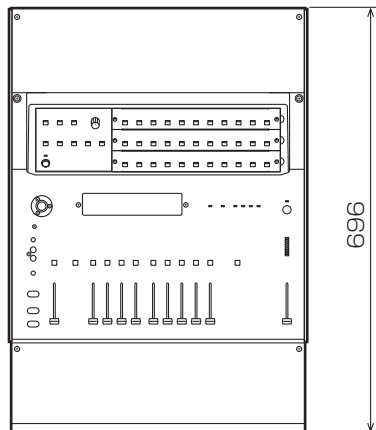
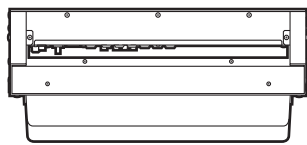
ボリューム位置表示ラベル  
(本機に付属)





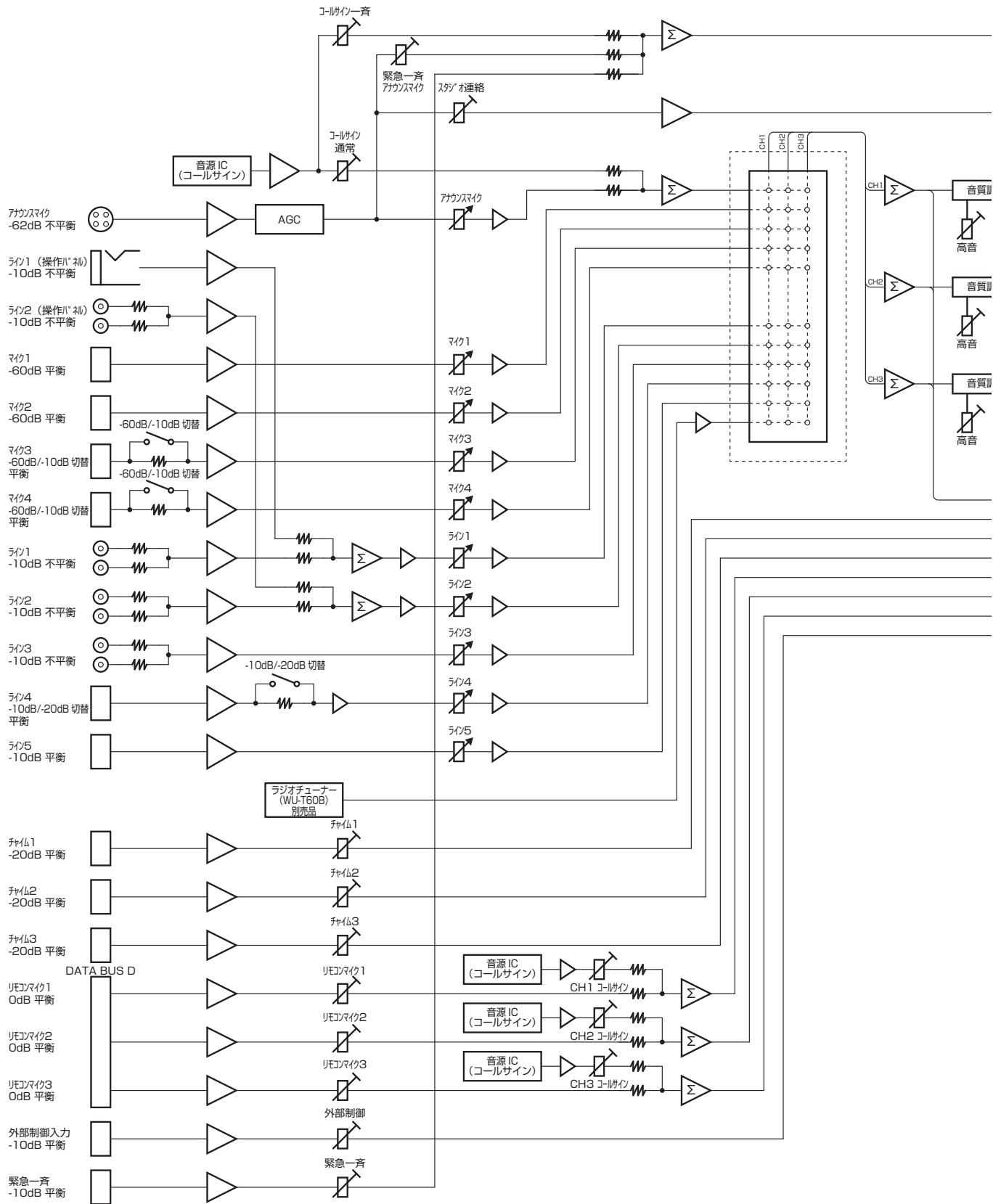


# 外形寸法図

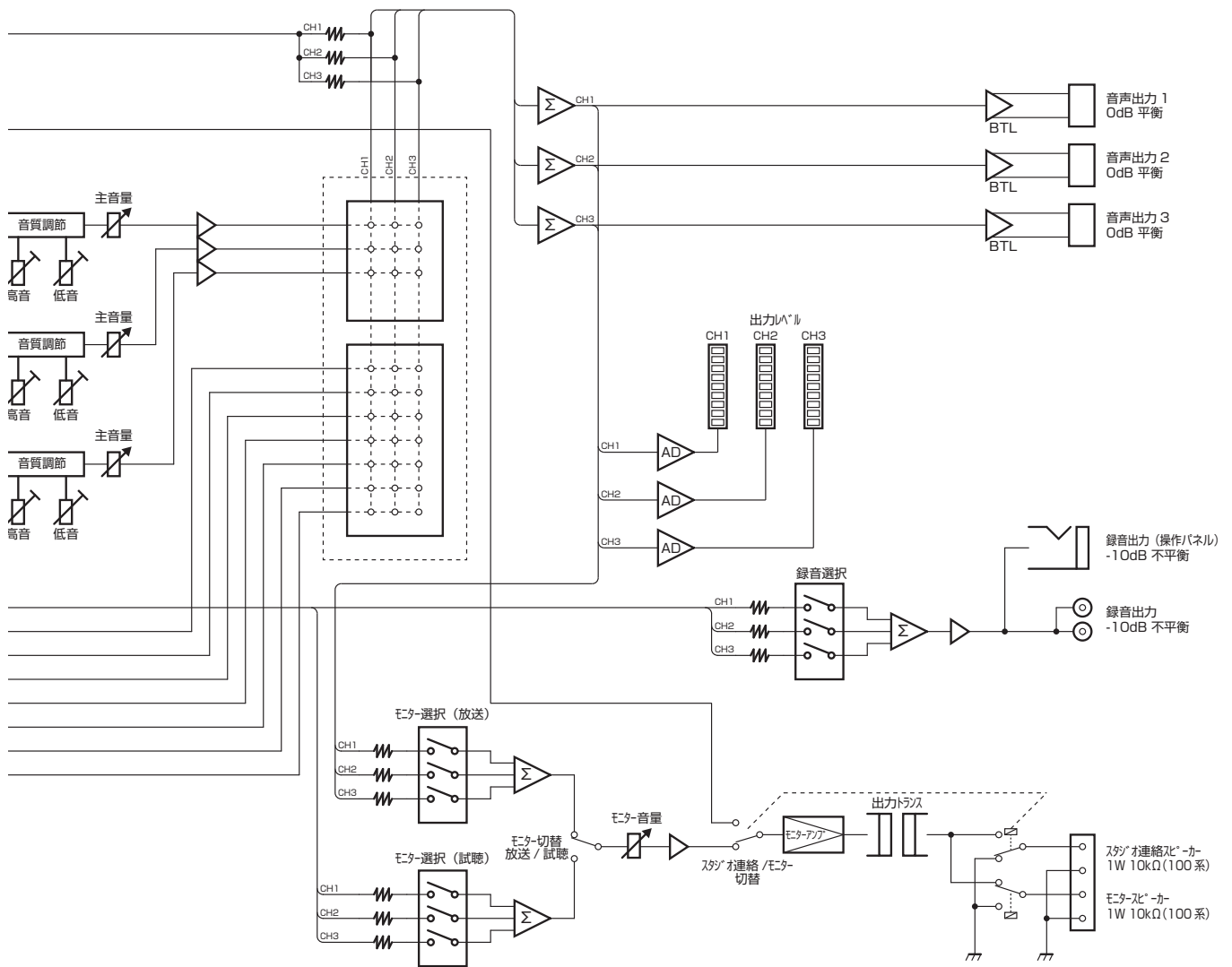


(単位 : mm)

# ブロックダイアグラム



その他



WL-SA211 : CH1のみ  
 WL-SA222 : CH1、CH2のみ

# 故障かな!?

## 修理を依頼される前に、この表で現象を確かめてください。

これらの対策をしても直らないときやわからないとき、この表以外の現象が起きたときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

現象		原因・対策	参照ページ
電源が入らない	本機	● 電源プラグがACコンセントに確実に接続されていますか？ → コードを正しく接続してください。	36
		● 主電源スイッチが「入」になっていますか？ → 主電源スイッチを「入」にしてください。	36
	インターフェースユニット	● DATA BUS Dケーブルが外れていませんか？ → インターフェースユニットに付属のDATA BUS Dケーブルを接続してください。	56
本機からの放送ができない	本機	● 外部からの緊急放送、またはチャイム、リモコンマイクなどから放送中ではありませんか？ → 放送状態表示灯で「本体」以外の表示灯が点灯している場合には、その放送が終了し、表示灯が消灯してから再度放送してください。	9
		● 入力ボリューム、または主音量ボリュームが絞られていませんか？ → それぞれのボリュームを適切な位置まで上げてください。	8、9
		● チャンネル選択ボタンは選択されていますか？ → チャンネル選択ボタンを押してください。	8、9
		● スピーカー選択ボタンは選択されていますか？ → 放送したい放送エリアのスピーカー選択ボタンを押してください。	8、9
		● コールサインの音が小さい、大きい。 → 本機内部のコールサイン音量ボリュームを適切な位置に調節してください。	75
		● 設定モードになっていませんか？（本機内部の設定用表示灯が点灯） → 本機内部のキャンセルボタンを押して設定モードを解除してください。	68
	● グループ1表示灯が点滅していませんか？ → 本機の系統数とディップスイッチの設定に不整合があります。ディップスイッチの設定を見直してください。	65	
インターフェースユニット	● DATA BUS Dケーブルが外れていませんか？ → 付属のDATA BUS Dケーブルを接続してください。	56	
放送する音量が小さい、大きい	本機	● 入力ボリューム、主音量ボリュームの位置は適切ですか？ → それぞれのボリュームを上げたり下げたりして、適切な位置に調節してください。	8、9
接続した音源機器の音が放送できない	本機	● 音源機器の電源は入っていますか？再生ボタンは押しましたか？ → 音源機器の電源を入れ、再生ボタンを押して再生を開始してください。	—
		● ボリュームが絞られていませんか？ → 入力ボリュームを適切な位置まで上げてください。	8、9
		● 音源機器を接続しているマイク入力/ライン入力のチャンネル選択ボタンは選択されていますか？ → チャンネル選択ボタンを押してください。	8、9、11

現象		原因・対策	参照ページ
モニターができない	本機	<ul style="list-style-type: none"> <li>● モニターボタンは押されていますか？モニターボリュームが絞られていませんか？ → モニターしたい系統（チャンネル）のモニターボタンを押してください。モニターボリュームを適切な位置まで上げてください。</li> </ul>	8
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 主音量ボリュームが絞られていませんか？ → 主音量ボリュームを適切な位置まで上げてください。 ※ モニター切替が「試聴」になっている場合は、主音量ボリュームに関係なくモニターすることができます。</li> </ul>	8、9、74
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● アナウンスマイクで放送中ではありませんか？アナウンスマイク放送中はハウリング防止のため、モニタースピーカーの音が切れます。 → アナウンスマイクを終了するとモニターができます。</li> </ul>	14
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● スタジオ連絡放送中ではありませんか？ → スタジオ連絡放送を終了するとモニターができます。</li> </ul>	14
録音できない	本機	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 録音出力ボタンは選択されていますか？ → 録音したい系統（チャンネル）の録音出力ボタンを押してください。</li> </ul>	8、9、15
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 録音するマイク入力／ライン入力のボリュームが絞られていませんか？ → 入力ボリュームを適切な位置まで上げてください。</li> </ul>	8、9
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 録音するマイク入力／ライン入力のチャンネル選択ボタンは選択されていますか？ → チャンネル選択ボタンを押してください。</li> </ul>	8、9
チャイムから放送できない	本機	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ボリュームが絞られていませんか？ → 本機内部のチャイムボリュームを適切な位置に調節してください。</li> </ul>	75
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● チャイム起動、チャイム音声入力端子の配線が外れていませんか？ → チャイム起動、チャイム音声入力端子に正しく接続してください。</li> </ul>	43
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 異なるチャイム起動、チャイム音声入力端子に接続していませんか？ → 放送したい系統（チャンネル）のチャイム起動、チャイム音声入力端子に接続してください。</li> </ul>	43
外部制御入力から放送できない	本機	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ボリュームが絞られていませんか？ → 本機内部の外部制御入力ボリュームを適切な位置に調節してください。</li> </ul>	75
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 外部制御入力端子、外部制御音声入力コネクタの配線が外れていませんか？ → 外部制御入力端子、外部制御音声入力コネクタに正しく接続してください。</li> </ul>	44
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● チャイム放送中ではありませんか？ → 放送状態表示灯で「チャイム」の表示灯が点灯している場合には、その放送が終了し、表示灯が消灯すると放送が可能となります。</li> </ul>	8、9、15

## 故障かな!?

現象		原因・対策	参照ページ
リモコンマイクから 放送できない	本機	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コールサインの音が小さい、大きい。 → 本機内部のコールサイン音量ボリュームを適切な位置に調節してください。</li> </ul>	75
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● リモコンマイクからのマイク放送の音が小さい、大きい。 → 本機内部のマイク音量ボリュームを適切な位置に調節してください。</li> </ul>	75
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● チャイム、外部制御入力による放送中ではありませんか？ → 放送状態表示灯で「チャイム」、「外部制御」の表示灯が点灯している場合には、その放送が終了し、表示灯が消灯すると放送が可能となります。</li> </ul>	8、9、15
	インター フェース ユニット	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 放送したいエリアに放送できない、放送したくない放送エリアに放送が流れてしまう。 → リモコンマイクとの接続を見直してください。</li> </ul>	51
インターフェースユ ニットの異常表示灯 が点滅している	インター フェース ユニット	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ユニットアドレスが正しく設定されていますか？ → ディップスイッチを正しく設定してください。</li> </ul>	65
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● リモコンマイク電源過電流検出の可能性があります。 → リモコンマイクとの接続を見直してください。</li> </ul>	51
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 音声調整卓とインターフェースユニット間で通信異常が発生している可能性があります。 → DATA BUS Dケーブルの接続、およびディップスイッチの設定を見直してください。</li> </ul>	56、66



# 仕様

## ● 音声調整卓

品番	WL-SA211	WL-SA222	WL-SA233
基本仕様			
電源	AC100 V 50 Hz/60 Hz ACコンセント 非連動1、連動6 (非連動、連動合計で1200 Wまで)		
消費電力 (ACコンセント含まず)	42 W 待機電力約11 W	68 W 待機電力約17 W	72 W 待機電力約19 W
寸法	幅 490 mm 高さ 216 mm 奥行き 696 mm		
質量	約15 kg		
仕上げ	パネル、筐体：AVライトグレー塗装 (マンセルN8近似色、日塗工CN-80近似色) パッド：シルバー塗装		
音声入力回路			
マイク1、2	-60 dBV 600 Ωに適合、平衡 2回路 コネクター式端子台		
マイク3、4	-60 dBV 600 Ω/-10 dBV 10 kΩ切換 平衡 2回路 コネクター式端子台		
ライン1	-10 dBV 10 kΩ、不平衡 1回路 ステレオミニジャック (操作パネル)、ピンジャック×2 (後面端子部) パネル面と後面端子部の入力をミキシング (モノミックス)		
ライン2	-10 dBV 10 kΩ、不平衡 1回路 ピンジャック×2 (操作パネル/後面端子部) パネル面と後面端子部の入力をミキシング (モノミックス)		
ライン3	-10 dBV 10 kΩ 不平衡 1回路 ピンジャック×2		
ライン4	-10 dBV/-20 dBV切換 10 kΩ 平衡 1回路 コネクター式端子台		
ライン5	-10 dBV 10 kΩ 平衡 1回路 コネクター式端子台		
チャイム	-20 dBV 20 kΩ 平衡 1回路 入力感度調節可能 コネクター式端子台	-20 dBV 20 kΩ 平衡 2回路 入力感度調節可能 コネクター式端子台	-20 dBV 20 kΩ 平衡 3回路 入力感度調節可能 コネクター式端子台
外部制御	-10 dBV 10 kΩ 平衡 1回路 入力感度調節可能 コネクター式端子台		
緊急一斉	-10 dBV 10 kΩ 平衡 1回路 入力感度調節可能 コネクター式端子台		
音声出力回路			
音声出力	0 dBV 10 kΩ以上に適合、 平衡 1回路 コネクター式端子台	0 dBV 10 kΩ以上に適合、 平衡 2回路 コネクター式端子台	0 dBV 10 kΩ以上に適合、 平衡 3回路 コネクター式端子台
録音出力	-10 dBV 10 kΩ以上に適合、不平衡 1回路 ミニジャック (操作パネル)、 ピンジャック×2 (後面端子部)		
モニター出力	1 W 10 kΩ負荷に適合 1回路 スクリューレス端子台		
スタジオ連絡出力	1 W 10 kΩ負荷に適合 1回路 スクリューレス端子台		
電気特性			
周波数特性	50 Hz~15 kHz±3 dB以内 (ライン系)		
歪み率	1 %以下 (1 kHzにて)		
音質調節	100 Hz/10 kHzにて ±10 dB 1回路	100 Hz/10 kHzにて ±10 dB 2回路	100 Hz/10 kHzにて ±10 dB 3回路
制御入力			
電源起動 (制御)	開放電圧 5 V、短絡電流 3 mA、メイク、1回路、スクリューレス端子台		
停電起動	開放電圧 5 V、短絡電流 3 mA、メイク、1回路、スクリューレス端子台		
緊急一斉制御	開放電圧 5 V、短絡電流 3 mA、メイク、1回路、スクリューレス端子台		
外部制御1~5	開放電圧 5 V、短絡電流 3 mA、メイク、1回路、スクリューレス端子台		
他機放送中	開放電圧 5 V、短絡電流 3 mA、メイク、1回路、スクリューレス端子台		
非常放送優先 (EMG)	EMG24 V ブレイク、1回路、スクリューレス端子台		

# 仕様

品番	WL-SA211	WL-SA222	WL-SA233
制御出力			
状態出力	35 V以下、10 mA以下、オープンコレクター、1回路、スクリューレス端子台		
動作中出力	35 V以下、10 mA以下、オープンコレクター、1回路、スクリューレス端子台		
POWER CONT	WU-L62、WP-570B用 専用コネクタ		
表示			
スピーカー選択表示	10 (1系統×10)	20 (2系統×10)	30 (3系統×10)
音声出力レベルメーター	1 (9ポイント×1系統)	2 (9ポイント×2系統)	3 (9ポイント×3系統)
放送状態表示	非常放送中、他機放送中、放送中 (チャイム、外部制御、リモコン、本体)		

## ●インターフェースユニット (WU-SA205)

基本仕様	
電源	DC24 V (音声調整卓から供給)
消費電流	360 mA
寸法	幅 480 mm 高さ 88 mm 奥行き 200 mm
質量	約3.0 kg
仕上げ	パネル：AVライトグレー塗装鋼板 (マンセルN8近似色、日塗ICN-80近似色)
リモコンマイク接続部 (ねじ式端子台)	
電源出力	DC24 V 最大電流100 mA
制御入力	1~10、一斉、コールサイン (上り、下り)、放送制御 開放電圧 5 V、短絡電流 3 mA、メイク
音声入力	0 dBV 20 kΩ 平衡 1回路
スピーカー回線接続部 (ねじ式端子台)	
スピーカー出力	10回線 SP1~SP10 (R線共通) 1回線あたり最大200 W
後面コネクタ部 (専用コネクタ)	
アンプ入力	2 <PA1>、<PA2> (後面コネクタ) 1入力あたり最大480 W
DATA BUS D	2 <IN>、<OUT> (後面コネクタ)
SP STATUS	1 (後面コネクタ Dサブコネクタ 15ピン、スピーカー回線ON/OFF信号出力)

## ●増設スイッチユニット (WL-SA203)

基本仕様	
電源	DC5 V (音声調整卓から供給)
消費電流	150 mA
寸法	幅 277 mm 高さ 41 mm 奥行き 17.5 mm (突起部除く)
質量	約200 g
仕上げ	パネル：AVライトグレー塗装鋼板 (マンセルN8近似色、日塗ICN-80近似色)
操作部	
スピーカー選択ボタン	10 (自照式表示灯付)
接続コネクタ	専用コネクタ (音声調整卓内部接続)

使いかた・お手入れ・修理などは

■まず、お買い求め先へご相談ください

▼お買い上げの際に記入されると便利です

販売店名			
電話	( )	—	
お買い上げ日		年 月 日	

## 修理を依頼されるときは

「故障かな!?(82~84ページ)でご確認のあと、直らないときは、まずアンプの電源を切って、お買い上げ日と右の内容をご連絡ください。

- 製品名 音声調整卓
- 品番 WL-SA211、WL-SA222、WL-SA233
- 故障の状況 できるだけ具体的に

## ●保証期間中は、保証書の規定に従って出張修理いたします。

保証期間：お買い上げ日から本体1年間

## ●保証期間終了後は、診断をして修理できる場合はご要望により修理させていただきます。

※修理料金は次の内容で構成されています。

- 技術料 診断・修理・調整・点検などの費用
- 部品代 部品および補助材料代
- 出張料 技術者を派遣する費用

※補修用性能部品の保有期間 **7年**

当社は、本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するための部品）を、製造打ち切り後7年保有しています。

## アフターサービスについて、おわかりにならないとき

お買い上げの販売店または保証書表面に記載されています連絡先へお問い合わせください。

### 長期間使用に関するお願い

安全にお使いいただくために、販売店または施工業者による定期的な点検をお願いします。

本機を長年お使いの場合、外観上は異常がなくても、使用環境によっては部品が劣化している可能性があり、故障したり、事故につながることもあります。

下記のような状態ではないか、日常的に確認してください。

特に10年を超えてお使いの場合は、定期的な点検回数を増やすとともに買い換えの検討をお願いします。

詳しくは、販売店または施工業者に相談してください。

#### このような状態ではありませんか？

- 煙が出たり、こげくさいにおいや異常な音がする。
- 電源コード・電源プラグが異常に熱い。または割れやキズがある。
- 製品に触るとビリビリと電気を感じる。
- 電源を入れても、音が出てこない。
- その他の異常・故障がある。

#### 直ちに使用を中止してください

故障や事故防止のため、電源を切り、必ず販売店または施工業者に点検や撤去を依頼してください。

取扱説明書に記載されていない方法や、指定の部品を使用しない方法で施工されたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。また、その施工が原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。

■使いかた・お手入れ・修理などは、まず、お買い求め先へご相談ください。

■その他ご不明な点は下記へご相談ください。

システムお客様ご相談センター

電話 フリーダイヤル  **0120-878-410** バ ナ ハ ヨ イ フ 受付：9時～17時30分（土・日・祝祭日は受付のみ）  
※携帯電話・PHSからのご利用になれます。

ホームページからのお問い合わせは [https://biz.panasonic.com/jp-ja/support\\_cs-contact](https://biz.panasonic.com/jp-ja/support_cs-contact)

ご使用の回線（IP電話やひかり電話など）によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。

本書の「保証とアフターサービス」もご覧ください。

#### 【ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】

パナソニック コネクト株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくための発信番号を通知いただいております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

## パナソニック コネクト株式会社

〒812-8531 福岡県福岡市博多区美野島四丁目1番62号